

2014年業績

神経

—論文—

1. Ohya T, Yamashita Y, Shibuya I, Hara M, Nagamitsu S, Kaida H, Kurata S, Ishibashi M, Matsuishi T. A serial 18FDG-PET study of a patient with SSPE who had good prognosis by combination therapy with interferon alpha and ribavirin. *European Journal of Paediatric Neurology*. 2014. 536-539
2. Ohya T, Morita K, Yamashita Y, Egami C, Ishii Y, Nagamitsu S, Matsuishi T. Impaired exploratory eye movements in children with Asperger's syndrome. *Brain & Development*. 2014. 241-247
3. Hara M, Nishi Y, Yamashita Y, Hirata R, Takahashi S, Nagamitsu S, Hosoda H, Kangawa K, Kojima M, Matsuishi T. Relation between circulating levels of GH, IGF-1, ghrelin and somatic growth in Rett syndrome. *Brain & Development*. 2014. 794-800
4. Matsuoka M, Nagamitsu S, Iwasaki M, Iemura A, Yamashita Y, Maeda M, Kitani S, Kakuma T, Uchimura N, Matsuishi T. High incidence of sleep problems in children with developmental disorders: results of a questionnaire survey in a Japanese elementary school. *Brain & Development*. 2014. 35-44
5. Shibuya I, Nagamitsu S, Okamura H, Ozono S, Chiba H, Ohay T, Yamashita Y, Matsuishi T. High correlation between salivary cortisol awakening response and the psychometric profiles of healthy children. *Biopsychosocial Med*. 2014;8(1):9
6. Hara M, Ohba C, Yamashita Y, Saitsu H, Matsumoto N, Matsuishi T: De novo *SHANK3* mutation causes Rett syndrome-like phenotype in a female patient. *Am J Med Genet*. 2015 (in press)
7. 鈴木浩太、小林朋佳、森山花鈴、加我牧子、平谷美智夫、渡部京太、山下裕史朗、林隆、稲垣真澄. 自閉症スペクトラム障害児・者をもつ母親の養育レジリエンスの構成要素に関する質的研究. *脳と発達* 2014 (in press)
8. 山下裕史朗. 注意欠陥多動性障害の包括的治療法: サマー・トリートメント・プログラム9年間の実践. *小児保健研究*. 東京: 日本小児医事出版社 2014. 521-526
9. 山下裕史朗. 注意欠陥多動性障害(ADHD)の診断と包括的治療法. *久留米医学会雑誌*. 2014. 259-264

—著書—

1. 山下裕史朗. アトモキセチン. *こころの治療薬ハンドブック第9版*. 山口登、酒井隆、宮本聖也、吉尾隆、諸川由実代 編集. 東京: 星和書店 2014. 254-255
2. 山下裕史朗. メチルフェニデート徐放錠. *こころの治療薬ハンドブック第9版*. 山口登、酒井隆、宮本聖也、吉尾隆、諸川由実代 編集. 東京: 星和書店 2014. 266-267
3. 山下裕史朗. 注意欠陥多動性障害(ADHD)の診断、指導、ペアレントトレーニング. *小児科診療2014年増刊号*. 石和田稔彦、井田博幸、岡明、斎藤義朗、関口進一郎、三浦大 編集. 東京: 診断と治療社 2014. 862-865

4. 山下裕史朗. 治療・教育の考え方と実際. 発達障害 基礎と臨床. 有馬正高、熊谷公明、加我牧子 編集. 東京：日本文化科学社 2014. 122-126
5. 山下裕史朗. 児童期の支援. 精神科治療学 29 巻増刊号. 東京：星和書店 2014. 318-322
6. 山下裕史朗. 症例に学ぶ 医師が処方を決めるまで 1. 発達障害. 日経 DI クイズ. 東京：日経 BP 社 2014. 8-11
7. 松石豊次郎、弓削康太郎、七種朋子、山下裕史朗. Rett 症候群とてんかん. 別冊日本臨床 神経新領域別症候群シリーズ No. 31 神経症候群（第 2 版）—その他の神経疾患を含めて—VI 東京：日本臨床社 2014. 454-459
8. 大矢崇志、山下裕史朗. Eyelid myoclonia with absences. 別冊日本臨床 神経新領域別症候群シリーズ No. 31 神経症候群（第 2 版）—その他の神経疾患を含めて—VI 東京：日本臨床社 2014. 390-394
9. 松石豊次郎. 一次性（全身性）カルニチン欠損症. 代謝ミオパチー. 杉江秀夫 編集、福田冬季子、西野一三、古賀靖敏 分担編集. 東京：診断と治療社 2014. 101-104.
10. 弓削康太郎、芳野信. Menkes 病, モリブデン補因子欠損症. てんかん症候群 特異症候群. 別冊日本臨床 神経新領域別症候群シリーズ No. 31 神経症候群（第 2 版）—その他の神経疾患を含めて—VI 東京：日本臨床社 2014. 237-241

—講演・シンポジウム—

1. Yamashita Y. Summer treatment program as a comprehensive treatment of ADHD. 10th HY ADHD Workshop. 2014. 2. 16 (Seoul, Korea)
2. Yamashita Y. Pharmacological treatment of autism spectrum disorder. Workshop on Autism in Africa 2014. 4. 4 (Accra, Ghana)
3. 山下裕史朗. 久留米市における発達障害診療の現状と課題. 第 15 回久留米医師会精神科医会学術講演会. 2014. 1. 9 (久留米)
4. 山下裕史朗. 夢気球と歩んだ 20 年それぞれの立場で見えてきたこと. 夢気球 20 周年記念講演会. 2014. 1. 19 (鳥栖)
5. 山下裕史朗. 発達障害に優しい地域社会をめざして. 第 249 回筑豊小児科医会勉強会. 2014. 1. 23 (飯塚)
6. 山下裕史朗. 発達障害の子どもへの支援のあり方. 黒木地区小中連携教職員研修会. 2014. 2. 6 (八女)
7. 山下裕史朗. ADHD の包括的治療法—薬物療法と心理社会的療法の役割—. 第 70 回沖縄小児神経懇話会. 2014. 2. 28 (沖縄)
8. 松石豊次郎. 発達障がいが増えているのか？脳科学、睡眠からのチャレンジ. 第 37 回香川発達神経研究会・学術講演会. 2014. 3. 1 (香川)
9. 永光信一郎. 虐待と発達障害—心理尺度と脳画像からの特徴. 第 6 回筑後地区発達障害治療研究会. 2014. 3. 4 (久留米)
10. 山下裕史朗. 成人までコンサーター継続投与例の検討：Transition の問題. 西日本 ADHD 講演会. 2014. 3. 14 (福岡)
11. 山下裕史朗. 注意欠陥多動性障害の診断と包括的治療法. 第 68 回久留米医学会総会. 2014. 4. 17 (久留米)
12. 山下裕史朗. 発達障害～就学前の気づきをどうつなげていくか～. 第 365 回福岡東部

- 地区小児科医会・宗像小児科医会学術講演会. 2014. 5. 8 (宗像)
13. 山下裕史朗. もしかしてうちの子(人)発達障害? 池田バスキュラーアクセス透析・内科クリニック院内研修会. 2014. 5. 15 (福岡)
 14. 山下裕史朗. 10代のADHDへの対応. 日本小児科学会主催第9回思春期医学臨床講習会. 2014. 5. 18 (東京)
 15. 山下裕史朗. くるめSTPの実際～STPは子どもたちと私たちに何をもたらすのか～. 福山発達障がい治療セミナー. 2014. 6. 19 (福山)
 16. 山下裕史朗. 発達障害をもつ子どもへの基本的対応法. 平成26年度青森県小児保健協会夏期懇談会 青森県こどもの健康を考える会. 2014. 6. 28 (青森)
 17. 松石豊次郎. 新生児～学童期の睡眠は発達障害の指標になるか? 日本睡眠学会第39回定期学術集会特別講演. 2014. 7. 3 (徳島)
 18. 山下裕史朗. 発達障害支援: くるめSTPの10年の歩み. 第17回発達障害支援医学研修. 2014. 7. 3 (東京)
 19. 山下裕史朗. ADHDのSummer Treatment Program～9年間の実践から学んだこと～. 多摩地域発達障害講演会 2014. 7. 18 (東京)
 20. 山下裕史朗. 発達障害児から教えてもらった、子育てのコツ. 久留米大学附設中学・高等学校第四地区保護者会. 2014. 7. 21 (久留米)
 21. 山下裕史朗. 発達障害児の初期対応～できることから始めましょう～. 久留米医師会学校保健部会学術講演会. 2014. 7. 24 (久留米)
 22. 山下裕史朗. 幼児期の発達障がいー医療と集団生活における支援ー. 平成26年度宗像市保育所・幼稚園職員研修. 2014. 9. 11 (宗像)
 23. 山下裕史朗. 発達障害と医療. 第9回S.E.N.S養成セミナー【関東地区】. 2014. 9. 21 (東京)
 24. 山下裕史朗. 発達障害の初期対応～できることから始めましょう～. 行橋京都メディカルセンター1周年記念講演会. 2014. 9. 25 (行橋)
 25. 山下裕史朗. 発達障害の子どもたちが教えてくれた子育てに大切なもの. 一医学生・研修医・医療従事者との交流会ー第3回先輩医師と話そう. 2014. 10. 6 (久留米)
 26. 松石豊次郎. レット症候群の謎に挑戦するー基礎・臨床研究の進歩と今後の展望ー. 第21回パーキンソン病及び類縁疾患研究会. 2014. 11. 12 (久留米)
 27. 山下裕史朗. 発達障害:最近の話題. 苦笑会(久留米大学小児科福岡地区同門会講演). 2014. 11. 19 (福岡)
 28. 山下裕史朗. 小児期のADHD治療の基本. JENSSSEN Web 講習会. 2014. 11. 27 (西日本)
 29. 山下裕史朗. ADHDの支援から考える医療と教育との連携. 久留米大学心理学科大学院生研修会. 2014. 12. 4 (久留米)
 30. 山下裕史朗. 医療と教育との連携ー子どもとその家族に対して私たちができることー. 平成26年度医療的ケアに係る職員研修会 佐賀県立唐津特別支援学校長. 2014. 12. 5 (唐津)
 31. 山下裕史朗. ライフステージと発達障害:小児科医ができる支援とは? 第482回日本小児科学会福岡地方会例会特別講演. 2014. 12. 13 (久留米)

ー学会、研究会ー

1. Yamashita Y, Ohya T, Kaneko M, Egami C, Tada Y, Anai C, Mukasa A, Nagamitsu S,

- Iramina K, Matsuishi T. The objective evaluation of diadochokinesia: A comparison between typically developing children and children with ADHD. The 2nd Asian Congress on ADHD. 2014. 3. 9 (Tokyo, Japan)
2. Yamashita Y, Fujita F, Tada Y, Anai C, Mukasa A, Egami C, Okamura H, Yage K, Ohya T, Iemura A, Nagamitsu S, Matsuishi T. Quality of life reported by children with ADHD and their mothers who participated in a summer treatment program. The 2nd Asian Congress on ADHD. 2014. 3. 9 (Tokyo, Japan)
 3. Yamashita Y, Fujita F, Tada Y, Anai C, Mukasa A, Egami C, Okamura H, Yage K, Ohya T, Iemura A, Nagamitsu S, Matsuishi T. Quality of life (QOL) reported by children with ADHD and their mothers participated in summer treatment program. PAS/ASPR Joint Meeting. 2014. 5. 3 (Vancouver, Canada)
 4. Hara M, Takahashi T, Mitsumasu C, Igata S, Takano M, Okabe, Y, Tanaka E, Matsuishi T. Analysis of cardiac arrhythmias and gene expression in MeCP2-null Mouse. 13th Rett syndrome Symposium. 2014. 6. 25 (Chantilly, VA, USA)
 5. 八戸由佳子、弓削康太郎、下村豪、澁谷郁彦、大矢崇志、永光信一郎、山下裕史朗、松石豊次郎. 新生児期より Suppression-Burst パターンを示し、多彩な神経症状を呈した女児. 第 76 回日本小児神経学会九州地方会学術学会. 2014. 1. 12 (大分)
 6. 八戸由佳子、弓削康太郎、下村豪、澁谷郁彦、大矢崇志、永光信一郎、山下裕史朗、松石豊次郎: 新生児にてんかん発作を伴わない Suppression-Burst (SB) を呈し、West 症候群を発症した KCNQ2 変異の 1 例. 第 478 回日本小児科学会福岡地方会例会. 2014. 2. 8 (福岡)
 7. 安村明、高橋純一、福田亜矢子、中川栄二、山下裕史朗、宮島祐、小枝達也、相原正男、稲垣真澄. ADHD 児における干渉抑制能力に関する脳活動. 日本 ADHD 学会第 5 回総会. 2014. 3. 9 (東京)
 8. 山下裕史朗、弓削康太郎、澁谷郁彦、大矢崇志、家村明子、中島正幸、永光信一郎、松石豊次郎. ADHD サマートリートメントプログラム前後の Impairment Rating Scale の変化. 第 117 回日本小児科学会学術集会 2014. 4. 11 (名古屋)
 9. 永光信一郎、田中英高、小柳憲司、神原雪子、山下裕史朗、古荘純一、松石豊次郎: 子どもの心身健康度スケール QTA (Questionnaire of treatment and assessment) の開発. 第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 13 (名古屋)
 10. 原宗嗣、山下裕史朗、松石豊次郎: SHANK3 遺伝子変異を同定した Rett 症候群. 第 56 回日本小児神経学会総会. 2014. 5. 29 (浜松)
 11. 弓削康太郎、大矢崇志、家村明子、永光信一郎、江上千代美、山下裕史朗、松石豊次郎. ADHD 夏季集中プログラム前後の心理検査 (Stroop 課題を中心に). 第 56 回日本小児神経学会総会. 2014. 5. 31 (浜松)
 12. 大園秀一、永光信一郎、松石豊次郎、守田弘美. 小児抑うつ尺度 (Children's Depression Inventory: CDI) による臨床群と対照群の比較研究. 第 480 回日本小児科学会福岡地方会例会. 2014. 6. 14 (福岡)
 13. 須田正勇、弓削康太郎、七種朋子、大矢崇志、永光信一郎、山下裕史朗、松石豊次郎. 異常眼球運動、焦点性発作、ミオクローヌスを呈した 3 生月の男児例. 第 77 回日本小児神経学会九州地方会学術集会. 2014. 8. 3 (筑紫野)
 14. 七種朋子、弓削康太郎、須田正勇、下村豪、大矢崇志、家村明子、永光信一郎、渡邊

順子、山下裕史朗、松石豊次郎、廣木伴子、児玉浩子. Menkes 病：早期診断の重要性. 第 481 回日本小児科学会福岡地方会例会. 2014. 10. 11 (福岡)

15. 盛崎俊浩、八ツ賀千穂、山下裕史朗、家村明子、大矢崇志、小西行彦、松田佳尚、弓削康太郎、七種朋子、松石豊次郎. 発達障害児の視線計測課題の特徴. 第 3 回日本発達神経科学学会. 2014. 10. 18 (東京)
16. 福田亜矢子、安村明、北洋輔、小枝達也、岡本悠子、小池敏英、宮島祐、山下裕史朗、中川栄二、稲垣真澄. 抑制機能の発達の变化：ADHD 児の行動学的解析. 第 3 回日本発達神経科学学会. 2014. 10. 18 (東京)

－研究費・受賞－

1. 松石豊次郎. 厚生労働省障害者対策須郷研究事業（神経・筋疾患分野）「レット症候群の早期診断と治療をめざした総合的研究」（主任研究者 伊藤雅之）（平成 26 年度）400 万円
2. 松石豊次郎. 文部科学省新学術領域研究（研究領域提案型）「胎児期からのハイリスク児の臨床観察による発達障害理解と包括的診断治療法構築」（主任研究者 小西行郎）（平成 26 年度）1280.5 万円
3. 松石豊次郎. 文部科学省基盤研究（C）「Rett 症候群の革新病態マーカーと新規治療法開発の臨床的・基礎的研究」（平成 26 年度）156 万円
4. 松石豊次郎. 厚生労働省科学研究費（難治性疾患政策研究事業）「希少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究」（主任研究者 井上有史）（平成 26 年度）40 万円
5. 山下裕史朗. 精神・神経疾患研究開発費「発達障害の神経科学的基盤の解明と治療法開発に関する研究」（主任研究者 稲垣真澄）（平成 26 年度）120 万円
6. 山下裕史朗. 厚生労働省科学研究費「発達障害児を持つ家族の支援ニーズに基づいたレジリエンス向上に関する研究」（主任研究者 稲垣真澄）（平成 26 年度）40 万円
7. 永光信一郎. 文部科学省科学研究費「機能的脳画像法による思春期やせ症の病態解明と治療に関する研究」（平成 26 年度）140 万円
8. 永光信一郎. 厚生労働省科学研究費「成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）」（主任研究者 内田創）（平成 26 年度）40 万円
11. 原宗嗣. 文部科学省科学研究費「レット症候群モデル動物及び ES/iPS 細胞による自律神経システム異常の研究」（平成 26 年度）160 万円

－その他－

1. 山下裕史朗、安元佐和、満留昭久、高嶋幸男、黒川徹. 若き小児神経科医への提言—過去を省み、未来を考える—. 脳と発達. 2014. 169-178
2. 山下裕史朗. ICNA/ACNA 共催のアフリカ自閉症ワークショップに参加して. 脳と発達. 2014. 315-316
3. 山下裕史朗. 連載 ひとりで歩けるように 発達障害者の支えは. 西日本新聞 2014. 7. 22 (福岡)
4. 山下裕史朗. 連載 ひとりで歩けるように 発達障害者の支えは. 西日本新聞 2014. 7. 23 (福岡)
5. 山下裕史朗. あした計画 I 集団生活 夏休みに学ぼう ADHD 治療プログラム 10 年.

- 西日本新聞 2014.9.6 (福岡)
6. 山下裕史朗. ひとりで歩けるように 発達障害者の支えは 虐待死 24%に「発達障害」.
西日本新聞 2014.10.5 (福岡)
 7. 山下裕史朗. 知ってほしい障害のこと. 広報くるめ. 2014.11.15 (久留米)
 8. 大矢崇志. アスペルガー症候群児童における探索眼球運動の障害. 第 671 回久留米大学集談会 2014.5.21 (久留米)

— 班会議 —

1. 山下裕史朗、弓削康太郎. ADHD の治療プログラム開発に関する研究. 平成 26 年度精神・神経疾患研究開発費「発達障害の包括的診断・治療プログラム開発に関する研究」班第 1 回班会議 2014.6.1 (東京)
2. 山下裕史朗、江上千代美. 児童への介入前後における保護者支援研究. 厚生労働科学研究費障害者対策総合研究事業(身体・知的等障害分野)「発達障害児を持つ家族の支援ニーズに基づいたレジリエンス向上に関する研究」平成 26 年度第 1 回研究班会議 2014.6.29 (東京)
3. 原宗嗣、大場ちひろ、弓削康太郎、山下裕史朗、松本直通、松石豊次郎. SHANK3 遺伝子は第 4 の Rett 症候群の原因遺伝子か?. 平成 26 年度厚生労働省「レット症候群の早期発見と治療をめざした総合的研究」班会議 2014.7.20 (東京)
4. 山下裕史朗、弓削康太郎. ADHD の治療プログラム開発に関する研究. 平成 26 年度精神・神経疾患研究開発費「発達障害の包括的診断・治療プログラム開発に関する研究」班第 2 回班会議 2014.11.16 (東京)
5. 江上千代美、山下裕史朗. 児童への介入前後における保護者支援研究. 厚生労働科学研究費障害者対策総合研究事業(身体・知的等障害分野)「発達障害児を持つ家族の支援ニーズに基づいたレジリエンス向上に関する研究」平成 26 年度第 2 回研究班会議 2014.11.23 (東京)

ミトコンドリア・筋・内分泌

— 論文 —

1. Fujii T, Nozaki F, Saito K, Hayashi A, Nishigaki Y, Murayama K, Tanaka M, Koga Y, Hiejima I, Kumada T. Efficacy of pyruvate therapy in patients with mitochondrial disease: A semi-quantitative clinical evaluation study. *Mol Genet Metab.* 2014;112(2). 133-138
2. Izumi Y, Suzuki E, Kanzaki S, Yatsuga S, Kinjo S, Igarashi M, Maruyama T, Sano S, Horikawa R, Sato N, Nakabayashi K, Hata K, Umezawa A, Ogata T, Yoshimura Y, Fukami M. Genome-wide copy number analysis and systematic mutation screening in 58 patients with hypogonadotropic hypogonadism. *Fertil Steril.* 2014;102(4). 1130-1136
3. Suzuki E, Yatsuga S, Igarashi M, Miyado M, Nakabayashi K, Hayashi K, Hata K, Umezawa A, Yamada G, Ogata T, Fukami M. De novo Frameshift Mutation in Fibroblast Growth Factor 8 in a Male Patient with Gonadotropin Deficiency. *Horm Res Paediatr.*

2014;81(2). 139-144

4. Fujita Y, Ito M, Kojima T, Yatsuga S, Koga Y, Tanaka M. GDF-15 is a novel biomarker to evaluate efficacy of pyruvate therapy for mitochondrial diseases. *Mitochondrion*. 2014;20. 34-42
5. Katayama K, Povalko N, Yatsuga S, Nishioka J, Kakuma T, Matsuishi T, Koga Y. New TRPM6 mutation and management of hypomagnesaemia with secondary hypocalcaemia. *Brain Dev*. 2014. (in press)

—著書—

1. Koga Y. Peals and pitfalls of L-arginine therapy on MELAS. *Frontiers in Clinical Drug Research - CNS Neurological Disorder (eBook)*. Bentham Science Publishers. 2014. (in press)
2. 古賀靖敏. 悪性高熱症. 今日の小児治療指針 第16版. 医学書院. 2014. (in press)
3. 古賀靖敏. ミトコンドリア脳筋症治療の現状と展望. 日本臨床 72 巻1号. 日本臨床社. 2014. 175-184
4. 古賀靖敏. ミトコンドリア機能の臨床生化学的評価. 代謝性ミオパチー Basic mechanism, Diagnosis and Practical Approach. 総編集 杉江秀夫、分担編集 福田冬季子、西野一三、古賀靖敏. 診断と治療社. 2014. 22-27
5. 古賀靖敏. ミトコンドリア代謝異常症のトピックス. 代謝性ミオパチー Basic mechanism, Diagnosis and Practical Approach. 総編集 杉江秀夫、分担編集 福田冬季子、西野一三、古賀靖敏. 診断と治療社. 2014. 142-152
6. 古賀靖敏. ミトコンドリアにおける代謝. 代謝性ミオパチー Basic mechanism, Diagnosis and Practical Approach. 総編集 杉江秀夫、分担編集 福田冬季子、西野一三、古賀靖敏. 診断と治療社. 2014. 153-159
7. 古賀靖敏. ミトコンドリア病の診断の進め方. 代謝性ミオパチー Basic mechanism, Diagnosis and Practical Approach. 総編集: 杉江秀夫、分担編集: 福田冬季子、西野一三、古賀靖敏. 診断と治療社. 2014. 160-167
8. 古賀靖敏. ミトコンドリア代謝異常症の臨床的病型による分類 MELAS. 代謝性ミオパチー Basic mechanism, Diagnosis and Practical Approach. 総編集 杉江秀夫、分担編集 福田冬季子、西野一三、古賀靖敏. 診断と治療社. 2014. 168-174
9. 古賀靖敏. ミトコンドリア代謝異常症の臨床的病型による分類 Leber 病. 代謝性ミオパチー Basic mechanism, Diagnosis and Practical Approach. 総編集 杉江秀夫、分担編集 福田冬季子、西野一三、古賀靖敏. 診断と治療社. 2014. 181-184
10. 八ツ賀秀一、古賀靖敏. ミトコンドリア病の新しいバイオマーカーFGF21. *Clinical Neuroscience 偏桃体—up to date*. 中外医学社. 2014. 704-705
11. 古賀靖敏. L-アルギニン (MELAS). 引いて調べる 先天代謝異常症. 診断と治療社. 2014. 136-137
12. 古賀靖敏、工藤嘉公. ミトコンドリア心筋症・心合併症. 心エコーハンドブック 心筋・心膜疾患. 金芳堂. 2014. 100-105
13. 古賀靖敏. 特集: ミトコンドリア病 小児科におけるミトコンドリア病. 神経眼科.

2014. (in press)

—講演・シンポジウム—

1. 古賀靖敏. ミトコンドリア病治療研究の現状. 第56回日本小児神経学会学術集会 企画セミナー1. 2014. 5. 29-31 (浜松)
2. 古賀靖敏. ミトコンドリア病の治療薬開発の現状: 世界と日本. 第14回日本ミトコンドリア学会年会 市民公開講座. 2014. 12. 5 (福岡)
3. 八ツ賀秀一. 健診でみる小児内分泌疾患. 大牟田市保健所講演会. 2014. 4. 26 (大牟田)
4. 八ツ賀秀一. 小児内分泌疾患 up-to-date. 大牟田医師会講演会. 2014. 5. 15 (大牟田)
5. 八ツ賀秀一. 成長障害について. 佐賀教育委員会講演会. 2014. 7. 4 (佐賀)
6. 八ツ賀秀一. 幼児期、学童期の糖尿病治療. 福岡栄養士講演会. 2014. 7. 5 (久留米)
7. 古賀靖敏. 食育と肥満・やせについて. 久留米市保健所 食育研修会. 2014. 8. 28 (久留米)
8. 古賀靖敏. 久留米大学 平成26年度第1回臨床試験セミナー. 2014. 4. 1 (久留米)
9. 八ツ賀秀一. FGF-21 および新規バイオマーカーXの臨床的応用性. 筑後内分泌代謝研究会. 2014. 2. 6 (久留米)
10. 八ツ賀秀一. 一般診療で出会う小児内分泌疾患. 第4回筑豊小児の成長を見守る会. 2014. 11. 28 (飯塚)
11. 八ツ賀秀一. アンケートからみる低身長関連データ. ノボノルディスクファーマ社内講演会. 2014. 12. 5 (福岡)

—学会・研究会講演—

1. Koga Y. Pharmacologic therapy for mitochondrial myopathies. The Joint 13th AOMC Annual Scientific Meeting and 20th PNA Midyear Convention. 2014. 5. 14-17 (Manila, Philippines)
2. Koga Y, Nakamura H, Yatsuga S, Tanaka M. Development of therapeutic drug of Sodium Pyruvate (SP) for lactic acidosis associated with mitochondrial disorders. Mitochondrial Medicine 2014 -Pittsburgh. 2014. 6. 4-7 (Pittsburgh, USA)
3. Yatsuga S, Koga Y. Growth differentiation factor 15 and fibroblast growth factor 21: novel biomarkers for mitochondrial diseases. Mitochondrial Medicine 2014 -Pittsburgh. 2014. 6. 4-7 (Pittsburgh, USA)
4. Yatsuga S, Koga Y. Growth differentiation factor 15 and fibroblast growth factor 21: novel biomarkers for mitochondrial diseases. International Meeting on Mitochondrial Pathology 2014. 2014. 6. 15-19 (Tampere, Finland)
5. Abe K, Narumi S, Nishioka J, Yatsuga S, Kuno T, Kameyama K, Hasegawa T. Clinical and molecular characterization of the largest family with congenital hypothyroidism due to a *PAX8* mutation. 16th International Congress of Endocrinology & the Endocrine Society's 96th Annual Meeting & Expo. 2014. 6. 20-24. (Chicago, USA)
6. Yatsuga S, Koga Y. Growth differentiation factor 15 and fibroblast growth factor 21: novel biomarkers for mitochondrial diseases. 53rd Annual European Society for Paediatric Endocrinology Meeting. 2014. 9. 18-20 (Dublin, Ireland)
7. Sasaki T, Izumi Y, Fukami M, Yatsuga S, Koga Y. A case of 46, Y, dup(x)(p21.2p22.2) DSD caused by overexpressed DAX1. 53rd Annual European Society for Paediatric

- Endocrinology Meeting. 2014.9.18-20 (Dublin, Ireland)
8. Izumi Y, Suzuki E, Yatsuga S, Sano S, Nakabayashi K, Umezawa A, Hata K, Ogata T, Fukami M, Yoshimura Y. A novel mutation at a splice acceptor site of WDR11 in a patient with combined pituitary hormone deficiency. 53rd Annual European Society for Paediatric Endocrinology Meeting. 2014.9.18-20 (Dublin, Ireland)
 9. Koga Y. Development of therapeutic drug of sodium pyruvate (SP) for lactic acidosis associated with mitochondrial disorders. 11th Conference of Asian Society for Mitochondrial Research & Medicine. 2014.11.13-16 (Taipei, Taiwan)
 10. 八ツ賀秀一、牛島高介、古賀靖敏. Prader-Willi 症候群：双子の思春期早発例. 第 37 回日本小児遺伝学会学術集会. 2014.4.10 (名古屋)
 11. 古賀 靖敏、ピルビン酸ナトリウム治療法開発チーム. ミトコンドリア脳筋症に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発. 第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014.4.11-13 (名古屋)
 12. 佐々木孝子、泉陽子、深見真紀、八ツ賀秀一、片山幸樹、西岡淳子、古賀靖敏. DSD の原因が DAX1 過剰であった 46,Y,add(X)(p22.1) の一例. 第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014.4.11-13 (名古屋)
 13. 西岡淳子、阿部清美、鳴海覚志、長谷川奉延、八ツ賀秀一、古賀靖敏. 4 世代・世界最大の PAX8 変異陽性家系からみえた甲状腺表現型の多様性：高齢 PAX8 変異保有者の臨床像. 第 87 回日本内分泌学会学術総会. 2014.4.24-26 (福岡)
 14. 金城さおり、豊浦麻記子、吉年俊文、喜久山至、小濱守安、閑野将行、源川隆一、八ツ賀秀一、古賀靖敏. ピルビン酸ナトリウムを開始したミトコンドリア呼吸鎖異常症の 6 か月男児. 第 87 回日本内分泌学会学術総会. 2014.4.24-26 (福岡)
 15. 八ツ賀秀一、古賀靖敏. 血漿 FGF21 は筋症状を伴うミトコンドリア病のバイオマーカーになる. 第 56 回日本小児神経学会学術集会. 2014.5.29-31 (浜松)
 16. 八ツ賀秀一、佐々木孝子、古賀靖敏. 健康日本人の血漿 FGF21 値の検討. 第 48 回日本小児内分泌学会学術集会. 2014.9.25-27 (浜松)
 17. 佐々木孝子、八ツ賀秀一、西岡淳子、古賀靖敏. 神経性食思不振症に甲状腺機能亢進を合併した 1 例. 第 48 回日本小児内分泌学会学術集会. 2014.9.25-27 (浜松)
 18. 泉陽子、八ツ賀秀一、鈴木江莉奈、佐野伸一朗、中林一彦、梅澤明弘、秦健一郎、緒方勤、深見真紀. 複合型下垂体ホルモン不全疾患における WDR11 スプライスサイト変異の同定. 第 48 回日本小児内分泌学会学術集会. 2014.9.25-27 (浜松)
 19. Yatsuga S, Koga Y. Growth differentiation factor-15 (GDF-15): a most reliable biomarker for mitochondrial disorders. 第 56 回日本先天代謝異常学会. 2014.11.13-15
 20. 八ツ賀秀一、石井亜紀子、藤田泰典、小島俊男、伊藤雅史、田中雅嗣、角間辰之、古賀靖敏. GDF-15&FGF-21：ミトコンドリア病の新規バイオマーカー. 第 14 回日本ミトコンドリア学会年会. 2014.12.3-5 (福岡)
 21. 西奈津子、力武典子、八ツ賀秀一. 内分泌専門外来開設 15 ヶ月間における経過報告. 第 69 回佐賀小児科地方会. 2014.4.5 (佐賀)
 22. 佐々木孝子、八ツ賀秀一、片山幸樹、西岡淳子、古賀靖敏、松石豊次郎. 低身長患者の受診動機アンケート調査. 第 478 回日本小児科学会福岡地方会例会. 2014.02.08 (福岡)
 23. 八ツ賀秀一. 保健所と医療の連携により高度肥満から虐待が疑われ迅速に対応できた一例. 第 482 回日本小児科学会福岡地方会例会. 2014.12.13 (久留米)
 24. 佐々木孝子、八ツ賀秀一、古賀靖敏. 低 Mg 血症、低 Cu 血症を認めた Fontan 術後タンパク漏出性胃腸症. 第 11 回九州小児内分泌若手セミナー. 2014.5.31 (福岡)

25. 八ツ賀秀一. 様々な合併症と著明な低身長を呈した SGA 性低身長. 第 11 回スプリングセミナー. 2014. 6. 28-30. (大阪)

—研究費・受賞—

1. 古賀靖敏. 厚生労働省科学研究費 難治性疾患等実用化研究事業(難治性疾患実用化研究事業)「ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究 —試薬からの希少疾病治療薬開発の試み—」主任研究者 (26年度) 23, 284. 7万円
2. 古賀靖敏. 厚生労働省科学研究費 難治性疾患等実用化研究事業(難治性疾患実用化研究事業)「ミトコンドリア脳筋症MELASの脳卒中様発作に対するタウリン療法の開発」分担研究者 (平成24年度~26年度) 200万円
3. 古賀靖敏. 厚生労働省科学研究費 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)「ミトコンドリア病の調査研究」分担研究者 (平成26年度) 20万円
4. 古賀靖敏. 厚生労働省科学研究費 難治性疾患等実用化研究事業(難治性疾患実用化研究事業)「ミトコンドリア病診療の質を高める、登録事業の推進、診断基準・診療ガイドライン作成および診断システム整備を行う臨床研究」分担研究者 (平成26年度) 80万円
5. 古賀靖敏. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「ミトコンドリア病治療薬のための網羅的機能測定スクリーニングシステムの開発」主任研究者 (平成25年度~27年度) 507万円
6. 八ツ賀秀一: 文部科学省科学研究費 若手研究(B)「血漿FGF21はミトコンドリア病の臨床症状を反映できるか?」主任研究者 (平成25年度~27年度) 416万円
7. 八ツ賀秀一. 血漿FGF21は筋症状を伴うミトコンドリア病のバイオマーカーになる. 第56回日本小児神経学会学術集会 優秀演題賞受賞 10万円
8. Yatsuga S. Growth differentiation factor 15 and fibroblast growth factor 21: novel biomarkers for mitochondrial diseases. Mitochondrial Medicine 2014 -Pittsburgh The best oral presentation award受賞 1000\$
9. 八ツ賀秀一. 日本小児内分泌学会 ESPE travel award 受賞 20万円
10. 佐々木孝子. 日本小児内分泌学会 ESPE travel award 受賞 20万円
11. 八ツ賀秀一. Growth differentiation factor-15 (GDF-15): a most reliable biomarker for mitochondrial disorders. 第56回日本先天代謝異常学会総会 若手最優秀演題賞受賞 20万円

—班会議—

1. 古賀靖敏. 米国における患者登録システム. 厚生労働省科学研究費村山班第1回班会議. 2014. 11. 24 (東京)
2. 古賀靖敏. 新しいミトコンドリア病のバイオマーカー: GDF-15. 厚生労働省科学研究費村山班第1回班会議. 2014. 11. 24 (東京)

循環器

—論文—

1. Saitsu H, Iwata O, Okada J, Hirose A, Kanda H, Matsuishi T, Suda K, Maeno Y. Refractory pulmonary hypertension following extremely preterm birth: Paradoxical improvement in oxygenation after atrial septostomy. *Eur J Pediatr*. 2014. 1537-1540
2. Makita N, Yagihara N, Crotti L, Johnson CN, Beckmann BM, Roh MS, Shigemizu D, Lichtner P, Ishikawa T, Aiba T, Homfray T, Behr ER, Klug D, Denjoy I, Mastantuono E, Theisen D, Tsunoda T, Satake W, Toda T, Nakagawa H, Tsuji Y, Tsuchiya T, Yamamoto H, Miyamoto Y, Endo N, Kimura A, Ozaki K, Motomura H, Suda K, Tanaka T, Schwartz PJ, Meitinger T, Käb S, Guicheney P, Shimizu W, Bhuiyan ZA, Watanabe H, Chazin WJ, George AL Jr. Novel calmodulin mutations associated with congenital arrhythmia susceptibility. *Circ Cardiovasc Genetics*. 2014. 466-474
3. Suda K, Tahara N, Honda A, Yoshimoto H, Kishimoto S, Kudo Y, Kaida H, Abe T, Ueno T, Fukumoto Y. Statin reduces persistent coronary arterial inflammation evaluated by serial 18Fluorodeoxyglucose positron emission tomography imaging long after Kawasaki disease. *Int J Cardiol* 2015. 61-62
4. Suda K, Tahara N, Honda A, Iemura M, Yoshimoto H, Kudo Y, Kaida H, Abe T, Sawada K, Akashi H, Tanaka H, Fukumoto Y. Persistent peripheral arteritis long after Kawasaki disease - Another documentation of ongoing vascular inflammation -. *Int J Cardiol* 2015. 88-90
5. Mizuochi T, Suda K, Seki Y, Yanagi T, Yoshimoto H, Kudo Y, Iemura M, Tanikawa K, Matsuishi T. Successful diuretics treatment of protein-losing enteropathy in Noonan syndrome. *Pediatr Int*. 2014(in press)
6. Teramachi Y, Suda K, Yoshimoto Y, Shintaro K, Kudo Y, Iemura M. Trans-pulmonary echocardiography to guide stent implantation into coarctation of the aorta. *Echocardiography*. (in press)
7. Yoshimoto H, Suda K, Kishimoto S, Kudo Y. Intra-cardiac echocardiography guided stent implantation into stenosed superior vena cava in a patient with a history of contrast anaphylaxis. *Heart and Vessels* (in press)

—著書—

1. Suda K. Part 4 Medical Treatment Chapter 25 “Anti-platelet and anti-thrombotic therapy for giant coronary aneurysm” in “Kawasaki Disease: Current Understanding of Mechanism and Evidence - based Treatment” Kawasaki T, Saji T, Ogawa S, Hamaoka K, McCrindle B, Rowley A eds. Springer Japan KK, 2014 (in press)
2. 工藤嘉公、古賀靖敏. ミトコンドリア心筋症・心合併症. 心エコーハンドブック 心筋・心膜疾患. 編集 竹中克、戸出浩之 京都：金芳堂. 2014. 100-105
3. 加藤裕久. 特集：川崎病－基礎・臨床研究の最新知見－ I. 総論. 川崎病血管炎の自然歴. 日本臨床 72 巻 9 号 日本臨床社. 2014. 1530-1535
4. 須田憲治. 特集：川崎病－基礎・臨床研究の最新知見－. V. 川崎病の治療 川崎病冠動脈後遺症への対応. 冠動脈瘤に対する抗血栓療法. 日本臨床 72 巻 9 号 日本臨床社. 2014. 1659-1663
5. 須田憲治. 「冠動脈病変を有する例を適切に管理する」 特集：症例から学ぶ川崎病の診断・治療・管理のエッセンス 三浦大 編集 小児科診療 78 巻 3 号 診断と治療社 2014(in press)
6. 須田憲治. 「急性期 巨大冠動脈瘤：トータルケア」 小児科ピクシス『川崎病のすべて』改訂 中山書店 2014(in press)
7. 須田憲治. III 循環器疾患 心房中隔欠損—部分肺静脈還流異常を含めて— 増刊号 小児疾患診療のための病態生理 改訂 5 版 東京医学社 2014. 198-202

—講演・シンポジウム—

1. 須田憲治. ランチョンセミナー(1)「インターベンションを科学する」. 第 25 回 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会. 2014. 1. 24 (松本)
2. 須田憲治. ASD カテーテル閉鎖術における心エコーの役割. QcVIC UCG and SHD -The 1st

－ 2014. 1. 29 (福岡)

3. 須田憲治. 学校管理下での突然死の原因と対策. 柳川・みやま学校保健会総会 2014. 6. 17 (柳川市)
4. 前野泰樹. 教育セミナー2 臨床に生かす心エコー所見 術前後の心機能評価. 第 50 回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2014. 7. 4 (岡山)
5. 須田憲治. 川崎病診断の pitfall やっぱ川崎病は難しい. 第 439 回福岡地区小児科医会 (丹々会) 学術講演会. 2014. 9. 24 (福岡)
6. 工藤嘉公. 学童の突然死予防のための心臓検診. 第 439 回福岡地区小児科医会 (丹々会) 学術講演会. 2014. 9. 24 (福岡)
7. 岸本慎太郎. 小児期不整脈の診断・治療. 第 1 回九州小児循環器セミナー . 2014. 11. 23 (福岡)
8. 須田憲治. 先天性心血管病変に対するカテーテル治療の進歩. 鹿児島小児循環器カンファレンス. 2014. 12. 3 (鹿児島)

－学会・研究会－

1. Okuma Y, Imanaka K, Hiroe M, Matsushita T, Abe J, Saji T, Shiraishi I, Suda K, Takeda A, Mitani Y, Yoshikane Y. Serum tenascin-C is a potential marker for active inflammation in Kawasaki disease. PAS/ASPR Joint Meeting. 2014. 5. 3 (Vancouver, Canada)
2. Suda K, Kudo Y, Teramachi Y, Nishino H, Koteda Y, Yoshimoto H, Kishimoto S, Iemura M, Yasunaga H. Electrocardiographic change after transcatheter occlusion of patent arterial duct. 17th Congenital Structural Interventions. 2014. 6. 26 (Frankfurt, Germany)
3. Suda K, Kudo Y, Kishimoto S, Teramachi Y, Yoshimoto H, Yamakawa R, Iemura M, Maeno Y. Clinical importance of school cardiac examination with universal ECG screening in the diagnosis of asymptomatic young patients with ASD in Japan. European Society of Cardiology 2014. 9. 1 (Barcelona, Spain)
4. Suda K, Kudo Y, Yoshimoto H, Teramachi Y, Kishimoto S, Iemura M, Matsuishi T. Intra-pulmonary artery echocardiography as a guide of transcatheter occlusion of patent ductus arteriosus in adult-sized patients. 5th Asia Pacific Congenital and Structural Heart Intervention Symposium 2014. 2014. 10. 11 (Hong Kong)
5. 家村素史、籠手田雄介、寺町陽三、岸本慎太郎、工藤嘉公、前野泰樹、須田憲治、松石豊次郎. まずは大動脈造影を～ Amplatzer 動脈管閉鎖術中に動脈管のスパズムを認めた一例～. 第 25 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会. 2014. 1. 24 (松本)
6. 寺町陽三、須田憲治、岸本慎太郎、工藤嘉公. 大動脈炎症候群の胸部大動脈狭窄に対してステント留置術を行い治療した 1 例. 第 25 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会. 2014. 1. 25 (松本)
7. 工藤嘉公、須田憲治、籠手田雄介、家村素史、寺町陽三、岸本慎太郎、前野泰樹、松石豊次郎. Amplatzer device を用いた ASD 閉鎖術中に完全房室ブロックを合併した 2 例. 第 25 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会. 2014. 1. 24 (松本)
8. 堀米仁志、黒寄健一、石井徹子、田中靖彦、稲村昇、西島信、渋谷和彦、金子正英、前野泰樹、瀧間浄宏、朴仁三、安河内聡. 胎児期に診断された critical AS の症例数と予後の調査－日本胎児心臓病学会幹事の所属施設を対象とした一次調査－. 第 25 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会. 2014. 1. 25 (松本)
9. 工藤嘉公、須田憲治、木下正啓、寺町陽三、吉本裕良、高瀬隆太、岸本慎太郎、家村素史、山川留美、松石豊次郎. 10 歳代で発症した川崎病の特徴. 第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 11 (名古屋)

10. 岸本慎太郎、前野泰樹、廣瀬彰子、木下正啓、原直子、神田洋、寺町陽三、工藤嘉公、須田憲治、松石豊次郎. 当院で管理を行った先天性完全房室ブロック患児の出生後急性期の臨床経過の検討. 第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 13 (名古屋)
11. 田代英樹、須田憲治、家村素史、籠手田雄介、池上新一. ASD カテーテル閉鎖術 (ASO) 後の経過における年齢の影響. 第 25 回日本心エコー学会学術集会. 2014. 4. 17 (金沢)
12. 進藤亮太、岸本慎太郎、岩田欧介、寺町陽三、工藤嘉公、須田憲治、松石豊次郎、長井孝二郎、高須修、坂本輝夫. 工業用接着促進剤を誤飲し、メトヘモグロビン血症を発症、メチレンブルー経管投与を行った 1 歳 4 か月児. 第 479 回日本小児科学会福岡地方会例会・総会. 2014. 4. 19 (福岡)
13. 牛嶋規久美、吉本裕良、岸本慎太郎、工藤嘉公、須田憲治. 急性期に正常冠動脈と診断され、学校検診時に冠動脈瘤が発見された 2 例. 第 13 回九州川崎病研究会. 2014. 5. 31 (鹿児島)
14. 岸本慎太郎、前野泰樹、廣瀬彰子、木下正啓、吉本裕良、寺町陽三、工藤嘉公、須田憲治、松石豊次郎. 当院で胎児診断された抗 SS-A 抗体による先天性完全房室ブロック患児の胎児期および周産期管理と経過. 第 50 回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2014. 7. 3 (岡山)
15. 前野泰樹、廣瀬彰子、木下正啓、寺町陽三、吉本裕良、岸本慎太郎、工藤嘉公、須田憲治、松石豊次郎. 2 : 1 房室伝導を呈する胎児徐脈として紹介された正常心内構造症例の経過. 第 50 回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2014. 7. 4 (岡山)
16. 吉本裕良、寺町陽三、岸本慎太郎、工藤嘉公、須田憲治、松石豊次郎、田中啓之. 開心術後遠隔期に胸痛を契機に発見した上行大動脈仮性動脈瘤の 1 例. 第 50 回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2014. 7. 5 (岡山)
17. 工藤嘉公、須田憲治、横地賢興、大部敬三、岸本慎太郎、吉本裕良、松石豊次郎. 川崎病を疑われた発熱疾患の冠動脈エコー所見. 第 50 回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2014. 7. 5 (岡山)
18. 廣瀬彰子、木下正啓、吉本裕良、寺町陽三、岸本慎太郎、工藤嘉公、前野泰樹、須田憲治、松石豊次郎. 胎児期における三尖弁輪移動距離 (TAPSE) の臨床対応への検討. 第 50 回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2014. 7. 4 (岡山)
19. 須田憲治、吉本裕良、寺町陽三、岸本慎太郎、工藤嘉公、山川留美、家村素史、前野泰樹、松石豊次郎. 治療適応のある心房中隔欠損の診断における学校心臓検診の意義. 第 62 回日本心臓病学会総会・学術集会. 2014. 9. 28 (仙台)
20. 岸本慎太郎、吉本裕良、工藤嘉公、須田憲治、松石豊次郎. Down 症候群・心室中隔欠損症術後の 25 歳女性の意識消失. 第 481 回日本小児科学会福岡地方会例会・臨時総会. 2014. 10. 11 (福岡)
21. 岸本慎太郎、吉本裕良、工藤嘉公、前野泰樹、須田憲治. 高度房室伝導障害が最近問題になった先天性心疾患を有する患者 6 例. 第 27 回九州小児不整脈研究会. 2014. 10. 18 (阿蘇)
22. 大熊喜彰、今中恭子、廣江道昭、松下竹次、阿部淳、市田露子、佐地勉、高橋啓、白石公、須田憲治、武田充人、三谷義英、吉兼由佳子. 川崎病急性期における血清テネイシン C 値による初回治療効果判定. 第 34 回日本川崎病学会学術集会. 2014. 10. 31 (東京)
23. 吉本裕良、岸本慎太郎、工藤嘉公、須田憲治、松石豊次郎、八浪浩一. 急性期に正常冠動脈と診断され、学校心臓検診時に冠動脈瘤が発見された 2 例. 第 34 回日本川崎病学会学術集会. 2014. 11. 1 (東京)
24. 長嶺伸治、神菌淳司、志村紀彰、富田芳江、西野裕、天本正乃、市川光太郎. 頸部膿瘍に合併した川崎病の 2 症例. 第 34 回日本川崎病学会学術集会. 2014. 10. 31 (東京)
25. 岸本慎太郎、須田憲治、吉本裕良、寺町陽三、工藤嘉公、松石豊次郎. 当科における不整脈カテーテル治療の成績. 第 114 回九州医師会医学会第 2 分科会 第 67 回九州医学会. 2014. 11. 22 (大分)
26. 岸本慎太郎、大江征嗣、熊埜御堂淳、伊藤章吾、原口剛、瀧井英一. Purkinje ネットワークを介し複数の exit を有した多形心室頻拍の 1 例. 第 19 回日本小児心電学会学術

集会. 2014. 11. 29 (札幌)

27. 家村素史、籠手田雄介、寺町陽三、松下美由紀、大部敬三、須田憲治. 経皮的腎血管拡張術が有効であった腎血管性高血圧の小児例. 第117回日本循環器学会九州地方会. 2014. 12. 6 (宜野湾)
28. 鍵山慶之、岸本慎太郎、吉本裕良、工藤嘉公、須田憲治、松石豊次郎. Fontan 手術後の難治性蛋白漏出性胃腸症に対して、経カテーテル的開窓術を施行し、寛解を得た一例. 第117回日本循環器学会九州地方会 2014. 12. 6 (宜野湾)
29. 須田憲治、工藤嘉公、吉本裕良、岸本慎太郎、松石豊次郎. 造影剤アレルギー患者の上大静脈狭窄に対する心腔内エコーガイドによるステント留置術. 第117回日本循環器学会九州地方会 2014. 12. 6 (宜野湾)

—研究費・受賞—

1. 須田憲治. 科学研究費補助金基盤(C) 「生体分子イメージングを用いた川崎病血管炎の解析」: 研究代表者 (平成 24-26 年度) 1, 200 千円

—その他—

1. RKB毎日. 今日感テレビ「川崎病」 2014
2. 須田憲治. 児童と学童を突然死から守る. 久留米大学循環器病研究所市民公開講座. 2014. 11. 24 (久留米)

—班会議—

1. 須田憲治. CP ステントの準備と操作における注意点に関するミーティング. 2014. 7. 4 (岡山)

新生児

—論文—

1. Iwata S, Tachtsidis I, Takashima S, Matsuishi T, Robertson NJ, Iwata O. Dual role of cerebral blood flow in regional brain temperature control in the healthy newborn infant. *Int J Dev Neurosci.* 37:1-7. 2014
2. Saitsu H, Iwata O, Okada J, Hirose A, Kanda H, Matsuishi T, Suda K, Maeno Y. Refractory pulmonary hypertension following extremely preterm birth: paradoxical improvement in oxygenation after atrial septostomy. *Eur J Pediatr.* 2014;173:1537-40.
3. Okamura H, Kinoshita M, Saitsu H, Kanda H, Iwata S, Maeno Y, Matsuishi T, Iwata O. Non-invasive surrogate markers for plasma cortisol in newborn infants: Utility of urine and saliva samples and caution for venipuncture blood samples. *J Clin Endocrinol Metab.* (in press)
4. Aibiki M, Iwata O, Nonogi H, Kinoshita K, Nagao K. Target Temperature Management for Postcardiac Arrest Patients. *Ther Hypothermia Temp Manag.* (in press)
5. Iwata O, Takenouchi T, Iwata S, Nabetani M, Mukai T, Shibasaki J, Tsuda K, Sobajima H, Tamura M. The Baby Cooling Project of Japan to Implement Evidence-Based Neonatal Cooling. *Ther Hypothermia Temp Manag.* (in press).
6. Miyoshi T, Maeno Y, Sago H, Inamura N, Yasukouchi S, Kawataki M, Horigome H, Yoda H, Taketazu M, Shozu M, Nii M, Kato H, Hagiwara A, Omoto A, Shimizu W, Shiraishi

- I, Sakaguchi H, Nishimura K, Nakai M, Ueda K, Katsuragi S, Ikeda T. Fetal bradyarrhythmia associated with congenital heart defects: A nationwide survey in Japan. *Circ J* (in press)
7. 岩田欧介. 周産期脳障害の最前線 子宮内感染症の関与 白質はいつ、だれに破壊されたのか? 低酸素虚血・炎症・低栄養による完全犯罪を暴く 日本周産期・新生児医学会雑誌. 50(1):46-8. 2014
 8. 岩田欧介、岩田幸子、久野正. 【胎児、新生児の脳機能評価】 低体温療法と脳モニタリング 我が国における低体温療法の予後 周産期医学. 44(6):851-4. 2014
 9. 岩田欧介、大木智春、島貫政昭、菅野道弘、浦部大策. 【災害医学と preparedness-子どもたちを護るために】 災害後の慢性期にかかる対応課題 被災家族と子どもたちを感染症から護る 極限状況でも稼働する感染制御システムをめざして 小児科診療. 77(1):103-11. 2014
 10. 千田勝一、瀧向透、石川健、三浦義孝、岩田欧介、松石豊次郎、江原伯陽、中村安秀. 東日本大震災の復興支援における小児保健の諸問題と解決 岩手県被災地における小児保健医療体制の構築と課題. 小児保健研究. 73(2):201-3. 2014

—著書—

1. 前野泰樹. 徐脈はなぜ生じるのですか. 観察と対応のポイントを教えてください NEONATAL CARE 2014 年春季増刊 新生児の診察・ケア Q&A 早産・ハイリスク編 286-287
2. 前野泰樹. 不整脈はなぜ生じるのですか. 観察と対応のポイントを教えてください NEONATAL CARE 2014 年春季増刊 新生児の診察・ケア Q&A 早産・ハイリスク編 288-290
3. 前野泰樹. 胎児心エコー検査の初歩. 日本小児循環器学会雑誌 2014 30(2) 112-118
4. 前野泰樹. ハイリスク児 主要症候に対する診断学的アプローチ チアノーゼ. NICU マニュアル第5版 2014 77-80
5. 前野泰樹. 心雑音 主要症候に対する診断学的アプローチ チアノーゼ. NICU マニュアル第5版 2014 80-85
6. 前野泰樹、三好剛一. 胎児の頻脈性不整脈. *Fetal & Neonatal Medicine* 2014 6(3) 26-30
7. 岩田欧介. 日常の疑問を徹底解説…なぜ? からわかる体温管理のべからず集 ネオネイタルケア 27(1): 5-54. 2014 (編集)
8. 岩田欧介. 新生児疾患:低酸素性虚血性脳症 今日の治療指針 2014 医学書院 1210-1212 (分担)
9. 廣瀬彰子、前野泰樹. 母体疾患に関連する胎児心疾患. *HRART's Selection* 妊婦に伴う循環器疾患 心臓 2014 46(11) 1436-1440
10. 津田兼之介、岩田欧介. 手技 低体温療法 NICU マニュアル第5版 2014 636-641
11. 木下正啓、岩田欧介. 手技 超音波断層 脳 NICU マニュアル第5版 2014 554-560

—講演・シンポジウム—

1. Maeno Y. Trans-Placental Treatment of Fetal Tachyarrhythmia. *Pediatric Academic Societies and Asian Society For Pediatric Research* 2014. 5. 3-6 (Vancouver, Canada)
2. 岩田欧介. 実践低体温療法～今すぐ始められるアウトカム至上ケア 第4回三重新

- 生児クリティカルケアフォーラム. 2014. 1. 25 (津)
3. 前野泰樹. 胎児心エコーへの第一歩. 第 16 回産婦人科 ME セミナー(西日本)2014. 2. 23 (福岡)
 4. 岩田欧介. 発達中の脳の特徴を脳保護に生かすには? てんかんの病態を考える会 2014. 3. 6 (大阪)
 5. 前野泰樹. こうすれば胎児の心臓が見えてくる: 胎児心エコーが好きになるちょっとしたコツ. 第一回関東胎児心エコー勉強会 2014. 3. 8 (埼玉)
 6. 岩田欧介. あかちゃんの生体リズム解読からインタクトサバイバルに迫る. 鳥取大学周産期母子医療研究 2014. 3. 27 (米子)
 7. 岩田欧介, 岩田幸子. 出生前診断と胎内(胎児)治療: 神経疾患の胎児治療~治療対象を普遍的病態に拡大するための糸口. 第 117 回日本小児科学会学術集会 シンポジウム 2014. 4. 11-13 (名古屋)
 8. 岩田欧介, 武内俊樹, 鍋谷まこと, 柴崎淳, 向井丈雄, 徳久琢也, 岩田幸子, 側島久典, 田村正徳. 前進か? 後退か? BabyCooling Japan 症例登録制度と関連啓発事業の集積による世界標準回帰への道のり. 第 56 回日本小児神経学会学術集会 シンポジウム 2014. 5. 29-31 (浜松)
 9. 岩田欧介. 新生児の低体温療法 ~出生時の判断から搬送・冷却まで. 桑名市周産期勉強会 2014. 5. 30 (桑名)
 10. 廣瀬彰子, 岩田幸子, 原直子, 津田兼之介, 木下正啓, 海野光昭, 神田洋, 前野泰樹, 松石豊次郎, 岩田欧介. 脳血流評価として上大静脈血流波形は有用か? ~中大脳動脈血流と上大静脈血流の関係の検討. シンポジウム 第 12 回日本周産期循環管理研究会 2014. 6. 28-29 (高知)
 11. 前野泰樹. 臨床に活かす心エコー所見 術前後の心機能評価. 教育セミナー 第 50 回日本小児循環器学会総会・学術集会 2014. 7. 3-5 (岡山)
 12. 岩田欧介. 低体温中の生体反応からみた全身管理. 日本周産期新生児学会サテライト Baby Cooling Japan 新生児低体温療法登録事業主催 低体温療法講習会 教育講演 2014. 7. 12 (浦安)
 13. 岩田欧介. ルールも審判も敵地仕様~それでも日本は国際論壇をリードできる! ワークショップ 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 2014. 7. 13-15 (浦安)
 14. 岩田欧介, 武内俊樹, 鍋谷まこと, 柴崎淳, 向井丈雄, 徳久琢也, 津田兼之介, 岩田幸子, 側島久典, 田村正徳. 再出発から 4 年~Baby Cooling Japan 低体温登録事業から始まる世界戦略. 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 シンポジウム 2014. 7. 13-15 (浦安)
 15. 岩田欧介. 再出発から 4 年~Baby Cooling Japan 低体温登録事業から始まる世界戦略. シンポジウム 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 2014. 7. 13-15 (浦安)
 16. 岩田欧介. ルールも審判も敵地仕様~それでも日本は国際論壇をリードできる! 特別企画 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 2014. 7. 13-15 (浦安)
 17. 前野泰樹. 小児科医が知っておきたい胎児治療の今. 宗像小児科医講演会 2014. 7. 24 (宗像)
 18. 岩田欧介. 低体温療法とあかちゃんのからだ…最大効果を得るためのポイントと意外

な盲点. 静岡周産期新生児研究会 2014.10.4 (静岡)

19. 岩田欧介. 早く安全に冷やすコツと脳温を乱高下させない知識. 第59回日本未熟児新生児学会・学術集会 サテライト Baby Cooling Japan 新生児低体温療法登録事業主催 低体温療法講習会 教育講演 2014.11.9 (松山)
20. 岩田欧介. 脱・完全調節管理:あかちゃんの声を生かした自然な冷却を目指す! 第59回日本未熟児新生児学会・学術集会 教育セミナー 2014.11.10-12 (松山)
21. 前野泰樹. 第59回神奈川胎児エコー研究会 アドバンス講座 2014.11.23-24 (福岡)

—学会発表—

1. Hirose A, Sakamoto H, Hara N, Kinoshita M, Tsuda K, Okamura H, Unno M, Kanda H, Iwata S, Urata C, Maeno Y, Matsuishi T and Iwata O. Oral feeding but not gastric tube feeding induces salivary cortisol elevation in newborn infants. Joint Meeting of Pediatric Academic Societies and Asian Society for Pediatric Research. 2014.5.3-6 (Vancouver, Canada)
2. Tsuda K, Iwata S, Kinoshita M, Hirose A, Tachtsidis I, Matsuishi T, Robertson N, Iwata O. Warming up the superficial brain while cooling down the deep structure: Dual role of cerebral blood flow in the newborn infant. Joint Meeting of Pediatric Academic Societies and Asian Society for Pediatric Research. 2014.5.3-6 (Vancouver, Canada)
3. Kinoshita M, Okamura H, Tsuda K, Hirose A, Kanda H, Maeno, Iwata O. Utility of saliva, urine and venous blood cortisol monitoring in newborn infants. Joint Meeting of Pediatric Academic Societies and Asian Society for Pediatric Research. 2014.5.3-6 (Vancouver, Canada)
4. Unno M, Kinoshita M, Okamura H, Tsuda K, Hirose A, Kanda H, Maeno Y, and Iwata O. Procedural pain and cortisol levels in saliva, urine and blood samples in newborn infants. Hot Topics in Neonatology. 2014.12.7-10 (Washington DC, USA)
5. Tsuda K, Iwata O, Takenouchi T, Iwata S, Nabetani M, Mukai T, Shibasaki J, Tokuhisa T, Sobajima H, and Tamura M. The Baby Cooling Project of Japan to Change an Empirical Approach in Neonatal Therapeutic Hypothermia to Evidence-based Practice. Hot Topics in Neonatology. 2014.12.7-10 (Washington DC, USA)
6. Sakai S, Tanaka S, Tsuda K, Kinoshita M, Hirose A, Saikusa M, Okada J, Hisano T, Kanda H, Iwata O. Optimizing Humidity of Respiratory Gasses during Therapeutic Hypothermia. Hot Topics in Neonatology. 2014.12.7-10 (Washington DC, USA)
7. 廣瀬彰子、原直子、木下正啓、津田兼之介、海野光昭、神田洋、岩田欧介、須田憲治、堀之内崇士、上妻友隆、堀大蔵、松石豊次郎、前野泰樹. 胎児期における三尖弁輪移動距離 (TAPSE) の臨床応用への検討. 第20回日本胎児心臓病学会学術集会 2014.2.14-15 (浜松)
8. 三好剛一、前野泰樹、左合治彦、稲村昇、安河内聰、川滝元良、堀米仁志、与田仁志、竹田津未生、生水真紀夫、新井正基、賀藤均、萩原聡子、尾本暁子、白石公、坂口平馬、上田恵子、桂木真司、池田智明. 胎児頻脈性不整脈に対する経胎盤的抗不整脈薬投与に関する臨床試験—有害事象報告—. 第20回日本胎児心臓病学会学術集会 2014.2.14-15 (浜松)

9. 岩田欧介、岩田幸子、神田洋、前野泰樹、松石豊次郎. 神経疾患の胎児診断・治療：治療対象を普遍的病態に拡大するための糸口. 第 117 回日本小児科学会学術集会 2014. 4. 11-13 (名古屋)
10. 木下正啓、工藤嘉公、芳野裕子、寺町陽三、岸本慎太郎、須田憲治、松石豊次郎. 当院で経験した川崎病巨大冠動脈瘤破裂の 1 例. 第 117 回日本小児科学会学術集会 2014. 4. 11-13 (名古屋)
11. 海野光昭、原直子、木下正啓、津田兼之介、廣瀬彰子、神田洋、前野泰樹、岩田欧介. 当科にて経験した先天性腹壁異常の周産期管理についての検討. 第 64 回九州新生児研究会 2014. 5. 10 (朝倉)
12. 石井隆大、海野光昭、原直子、木下正啓、津田兼之介、廣瀬彰子、神田洋、前野泰樹、岩田欧介、松石豊次郎、堀大蔵、八木実. 先天性腹壁異常の分娩治療計画についての考察. 第 480 回日本小児科学会福岡地方会例会 2014. 6. 14 (福岡)
13. 前野泰樹、廣瀬彰子、木下正啓、寺町陽三、吉本裕良、岸本慎太郎、工藤嘉公、須田憲治、松石豊次郎. 2:1 房室伝道を呈する胎児徐脈として紹介された正常心内構造症例の経過. 第 50 回日本小児循環器学会総会・学術集会 2014. 7. 3-5 (岡山)
14. 廣瀬彰子、木下正啓、吉本裕良、寺町陽三、岸本慎太郎、工藤嘉公、前野泰樹、須田憲治、松石豊次郎. 胎児期における三尖弁輪移動距離 (TAPSE) の臨床応用への検討. 第 50 回日本小児循環器学会総会・学術集会 2014. 7. 3-5 (岡山)
15. 三好剛一、前野泰樹、左合治彦、稲村昇、安河内聰、川滝元良、堀米仁志、与田仁志、竹田津未生、新居正基、生水真紀夫、賀藤均、白石公、坂口平馬、上田恵子、桂木真司、池田智明. 胎児頻脈性不整脈に対する経胎盤的抗不整脈薬投与に関する臨床試験—有害事象報告—. 第 50 回日本小児循環器学会総会・学術集会 2014. 7. 3-5 (岡山)
16. 前野泰樹、廣瀬彰子、上妻友隆、堀之内崇士、原直子、木下正啓、津田兼之介、海野光昭、神田洋、嘉村敏治、松石豊次郎、岩田欧介. 2:1 房室伝道による胎児徐脈にて紹介された正常心内構造症例の診断と出生前、出生後経過. 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 2014. 7. 13-15 (浦安)
17. 廣瀬彰子、原直子、木下正啓、津田兼之介、海野光昭、神田洋、岩田欧介、松石豊次郎、前野泰樹. 胎児期における三尖弁輪移動距離 (TAPSE) の臨床応用への検討. 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 2014. 7. 13-15 (浦安)
18. 原田英明. refeeding syndrome 類似の電解質異常を認めた超低出生体重・small for dates 児. 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 2014. 7. 13-15 (浦安)
19. 田中祥一郎、才津宏樹、岡田純一郎、久野正、浦部大策. 母親血清と父親血小板の交差試験が診断に有用であった HPA-6b 抗体による新生児同種免疫性血小板減少症の 1 例. 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 2014. 7. 13-15 (浦安)
20. 海野光昭、原直子、木下正啓、津田兼之介、廣瀬彰子、神田洋、前野泰樹、岩田欧介. 当科にて経験した先天性腹壁異常の周産期管理についての検討. 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 2014. 7. 13-15 (浦安)
21. 津田兼之介、廣瀬彰子、原直子、木下正啓、海野光昭、久野正、神田洋、岩田幸子、前野泰樹、岩田欧介. 脳血流・代謝は環境温の変化にいかに対応するのか? 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 2014. 7. 13-15 (浦安)
22. 木下正啓、七種護、原直子、海野光昭、才津宏樹、田中祥一郎、岡田純一郎、津田兼

- 之介、廣瀬彰子、神田洋、前野泰樹、岩田欧介. 唾液中コルチゾールの影響因子の検討：経管栄養と哺乳. 第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 2014. 7. 13-15 (浦安)
23. 富田舞、木下正啓、原直子、津田兼之介、海野光昭、才津宏樹、田中祥一郎、岡田純一郎、廣瀬彰子、神田洋、前野泰樹、岩田欧介. 今こそ臨床所見…客観呼吸変量を挿管判断に還元できるか？第 50 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 2014. 7. 13-15 (浦安)
24. 田中祥一郎、坂本浩子、富田舞、田中ゆかり、下村豪、才津宏樹、岡田純一郎、岩田欧介、久野正. 新生児・乳児消化管アレルギー16 例の臨床的検討. 第 10 回筑後新生児研究会 2014. 10. 3 (久留米)
25. 三宅淳、海野光昭、七種護、原直子、津田兼之介、木下正啓、神田洋、岩田欧介、前野泰樹、松石豊次郎. 間質性肺気腫に対して選択的片肺換気療法が有効であった 1 例. 第 481 回日本小児科学会福岡地方会例会 2014. 10. 11 (福岡)
26. 岩田欧介、岩田幸子、Alan Bainbridge、Ernest Cady、Nicola Robertson、高嶋幸男. 脳微細構造のプロープ：DTI 変化が意味するもの. 第 3 回日本発達神経科学会. 2014. 10. 18-19(東京)
27. 岩田欧介、海野光昭、木下正啓、鍵山慶之、岩田幸子、松石豊次郎. 脳波から脳機能を読み解く：自動解析へのアプローチ. 第 3 回日本発達神経科学学会 2014. 10. 18-19(東京)
28. 岩田欧介、岩田幸子、津田兼之介、鍵山慶之、木下正啓、廣瀬彰子、松石豊次郎. コットサイドの血流・代謝モニタリング. 第 3 回日本発達神経科学学会 2014. 10. 18-19(東京)
29. 岩田欧介、田中辰彦、大矢崇志、木下正啓、海野光昭、岩田幸子、松石豊次郎、伊良皆啓治. 脳波と NIRS をつなぐ：脳機能と酸素代謝の相互作用解析. 第 3 回日本発達神経科学学会 2014. 10. 18-19(東京)
30. 岩田欧介、倉田毅、津田兼之介、鍵山慶之、木下正啓、岩田幸子、松石豊次郎. NIRS の応用：脳微細構造の経時変化. 第 3 回日本発達神経科学学会 2014. 10. 18-19(東京)
31. 木下正啓、岡村尚昌、鍵山慶之、浦田千穂子、津田兼之介、海野光昭、廣瀬彰子、岩田幸子、松石豊次郎、岩田欧介. 唾液マーカーによる生体リズムトレース. 第 3 回日本発達神経科学学会 2014. 10. 18-19(東京)
32. 木下正啓、海野光昭、岡村尚昌、鍵山慶之、津田兼之介、廣瀬彰子、岩田幸子、松石豊次郎、岩田欧介. Actigraph による生体情報の継続的観察と統合比較. 第 3 回日本発達神経科学学会 2014. 10. 18-19(東京)
33. 岩田欧介、藤田史恵、諸隈誠一、木下正啓、海野光昭、鍵山慶之、廣瀬彰子、岩田幸子、松石豊次郎. 産後 1 か月時の母子睡眠影響因子の検討. 第 3 回日本発達神経科学学会 2014. 10. 18-19(東京)
34. 田中祥一郎、富田舞、田中ゆかり、才津宏樹、岡田純一郎、久野正. 新生児・乳児消化管アレルギー13 例の臨床的検討. 第 51 回日本小児アレルギー学会 2014. 11. 8-9 (四日市)
35. 廣瀬彰子、岩田幸子、七種護、原直子、木下正啓、津田兼之介、海野光昭、神田洋、久野正、前野泰樹、岩田欧介. 脳血流評価として上大静脈血流波形は有用か？—中大脳動脈血流と上大静脈血流の関係の検討— . 第 59 回日本未熟児新生児学会・学術集

会 2014. 11. 10-12 (松山)

36. 津田兼之介、柴崎淳、向井丈雄、武内俊樹、徳久琢也、岩田幸子、岩田欧介、側島久典、鍋谷まこと、細野茂春、田村正徳. Baby Cooling Japan 低体温登録事業からの定期報告—登録状況と今後の展望—. 第 59 回日本未熟児新生児学会・学術集会 2014. 11. 10-12 (松山)
37. 木下正啓、七種護、原直子、津田兼之介、海野光昭、田中祥一郎、岡田純一郎、久野正、廣瀬彰子、神田洋、前野泰樹、岩田欧介. 光源・光ファイバーユニットを用いた胃管位置確認の検証. 第 59 回日本未熟児新生児学会・学術集会 2014. 11. 10-12 (松山)
38. 田中祥一郎、田中ゆかり、才津宏樹、岡田純一郎、岩田欧介、久野正、浦部大策. 新生児・乳児消化管アレルギー15 例の臨床的検討. 第 59 回日本未熟児新生児学会・学術集会 2014. 11. 10-12 (松山)
39. 進藤亮太、木下正啓、七種護、原直子、津田兼之介、海野光昭、田中祥一郎、岡田純一郎、久野正、廣瀬彰子、神田洋、前野泰樹、岩田欧介. 臨床所見から客観呼吸変量を予測する・・・呼吸数との関係. 第 59 回日本未熟児新生児学会・学術集会 2014. 11. 10-12 (松山)
40. 原直子、木下正啓、七種護、津田兼之介、海野光昭、廣瀬彰子、久野正、神田洋、前野泰樹、岩田欧介. 一酸化窒素 (NO) 呼吸療法の更なる安全性の検討—加温加湿器の違いによる影響—. 第 59 回日本未熟児新生児学会・学術集会 2014. 11. 10-12 (松山)
41. 七種護、原直子、津田兼之介、木下正啓、海野光昭、廣瀬彰子、神田洋、久野正、田幸子、前野泰樹、岩田欧介. Bayley III を用いた早産児の白質傷害と神経学的予後の検討. 第 59 回日本未熟児新生児学会・学術集会 2014. 11. 10-12 (松山)
42. 田中ゆかり、田中祥一郎、才津宏樹、岡田純一郎、岩田欧介、久野正、浦部大策. 母親血清と父親血小板の交差試験が診断に有用であった HPA-6b 抗体による新生児同種免疫性血小板減少症の 1 例. 第 59 回日本未熟児新生児学会・学術集会 2014. 11. 10-12 (松山)
43. 鍵山慶之、木下正啓、七種護、原直子、津田兼之介、海野光昭、田中祥一郎、岡田純一郎、久野正、廣瀬彰子、神田洋、前野泰樹、岩田欧介. 唾液中コルチゾールの操作因子—経口摂取が持つ二面性の検討—. 第 59 回日本未熟児新生児学会・学術集会 2014. 11. 10-12 (松山)

—研究班報告書・発表—

1. 前野泰樹. 厚生労働科学研究費補助金 医療技術実用化総合研究事業 胎児不整脈に対する胎児治療の臨床研究 第 1 回合同班会議 2014. 5. 15 (東京)
2. 前野泰樹. 厚生労働科学研究費補助金 医療技術実用化総合研究事業 胎児不整脈に対する胎児治療の臨床研究 第 2 回合同班会議 2014. 12. 12 (東京)

—研究費・受賞—

1. 前野泰樹. 厚生労働科学研究費補助金 医療技術実用化総合研究事業「胎児不整脈に対する胎児治療の臨床研究」
2. 岩田欧介. 文部科学省科学研究費「非侵襲持続モニターによる新生児概日リズムの集学的解明. 生後空白の 2 か月の謎に迫る」新学術領域研究

3. 岩田幸子. 文部科学省科学研究費「唾液検体と体動記録による睡眠リズム獲得過程の徹底解明：科学的発達支援への挑戦」 基盤C
4. 岩田幸子. 石橋財団研究奨励金「唾液検体と体動記録による睡眠リズム獲得過程の徹底解明：科学的発達支援への挑戦」
5. 津田兼之介. 文部科学省科学研究費「一見“正常範囲”の経過から発生する周生期由来の脳機能異常を解明する」若手研究B
6. 木下正啓. 文部科学省科学研究費 「極低出生体重児の超音波検査による早期栄養確立」若手研究B

—特許出願—

1. 岩田欧介、岩田幸子、小田元樹（浜松ホトニクス）等. MRI指標の推定方法、及び生体測定装置 599045903. 2014年3月
2. 木下正啓、岩田欧介、望月学（菅象軽工業）等. 医療用チューブの体内先端位置表示装置 312004204. 2014年7月

消化器

—論文—

1. Yanagi T, Mizuochi T, Homma K, Ueki I, Seki Y, Hasegawa T, Takei H, Nittono H, Kurosawa T, Matsuishi T, Kimura A. Distinguishing primary from secondary Δ^4 -3-oxosteroid 5β -reductase (SRD5B1, AKR1B1) deficiency by urinary steroid analysis. *Clin Endocrinol (Oxf)*. (in press).
2. Mizuochi T, Suda K, Seki Y, Yanagi T, Yoshimoto H, Kudo Y, Iemura M, Tanigawa K, Matsuishi T. Successful diuretics of protein-losing enteropathy in Noonan syndrome. *Pediatr Int*. (in press).
3. Dai D, Mills PB, Footitt E, Gissen P, McClean P, Stahlschmidt J, Couprie Y, Lavie J, Mochel F, Goizet C, Mizuochi T, Kimura A, Nittono H, Schwarz K, Crick PJ, Wang Y, Griffiths WJ, Clayton PT. Liver disease in infancy caused by oxysterol 7α -hydroxylase deficiency: successful treatment with chenodeoxycholic acid. *J Inher Metab Dis*. 2014;37: 851-861.
4. Li J, Razumilava N, Gores GJ, Walters S, Mizuochi T, Mourya R, Bessho K, Wang YH, Glaser SS, Shivakumar P, Bezerra JA. Biliary repair and carcinogenesis are mediated by IL-33-dependent cholangiocyte proliferation. *J Clin Invest*. 2014; 124: 3241-3251.
5. Theofilopoulos S, Griffiths WJ, Crick PJ, Yang S, Meljon A, Ogundare M, Kitambi SS, Lockhart A, Tuschl K, Clayton PT, Morris AA, Martinez A, Reddy MA, Martinuzzi A, Bassi MT, Honda A, Mizuochi T, Kimura A, Nittono H, De Michele G, Carbone R, Criscuolo C, Yau JL, Seckl JR, Schüle R, Schöls L, Sailer AW, Kuhle J, Fraidakis MJ, Gustafsson JÅ, Steffensen KR, Björkhem I, Ernfors P, Sjövall J, Arenas E, Wang Y. Cholestenic acids regulate motor neuron survival via liver X receptors. *J Clin Invest*. 2014; 124: 4829-4842.

6. 窪田満、牛島高介、八木実、中山佳子、位田忍、岡田和子、羽鳥麗子、松藤凡、友政剛. 小児慢性機能性便秘症診療ガイドラインの作成に向けたアンケート調査. 日児栄消肝誌 2014;28:1-10.
7. 田尻仁, 藤澤知雄, 工藤豊一郎, 長田郁夫, 牛島高介, 乾あやの, 高野智子, 村上潤, 恵谷 ゆり. 小児 B 型肝炎の診療指針 (改訂案) 日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌. 28 (2) : 96-109. 2014
8. 牛島高介. 日常診療でみる子どもの便秘のポイント 筑後小児科医会会報 20 : 21-24. 2014

—著書・総説—

1. 水落建輝、木村昭彦. —総説— 遺伝性胆汁うっ滞症. 日本小児科学会雑誌. 2014;118:1053-1064.
2. 水落建輝、木村昭彦. 胆道閉鎖症. 周産期医学会誌. 2014;44:1333-1335.
3. 柳忠宏. 総論 C 検査手技 16 膵機能検査. 小児栄養消化器肝臓病学. 日本小児栄養消化器肝臓学会 編集 診断と治療社. 92-95, 2014
4. 牛島高介. D 腸・肛門 各論 III 炎症性腸疾患と関連疾患 15 潰瘍性大腸炎. 小児栄養消化器肝臓病学. 日本小児栄養消化器肝臓学会 編集 診断と治療社. 268-274, 2014
5. 木村昭彦. G 肝胆道疾患 11. 先天性胆汁酸代謝異常症. 小児栄養消化器肝臓病学 日本小児栄養消化器肝臓学会 編集 診断と治療社. P429-431, 2014
6. 竹内孝仁、柳忠宏、谷川健、牛島高介. 消化器 「Ductal plate malformation」. 小児内科 46 巻増刊号 小児疾患診療のための病態整理 1 -改訂 5 版- 東京医学社 2014
7. 竹内孝仁、柳忠宏、牛島高介. 16. 慢性的な下腹部痛 (食物過敏性腸症、炎症性腸疾患、過敏性超症候群[IBS]を含む). 小児内科 47 巻 1 号 (2015 年 1 月号) 特集 お腹が痛い. 東京医学社 2015 年 1 月出版予定
8. 牛島高介. 特集 基本を教えて! 小児慢性機能性便秘症 定義と概念. 小児外科 2014; 46: 889-891.
9. 木村昭彦. 重症心身障害児における栄養サポート. 小児内科 2014;46:1096-1100

—講演・シンポジウム—

1. Mizuochi T. “A Study of Bile Acid Synthesis Defects” and “IL-1 Signaling Regulates Biliary Injury in Experimental Biliary Atresia”. (Invited Speaker) Taiwan-Japan Joint Meeting & 2014 Annual Meeting of Taiwan Society of Pediatric Gastroenterology, Hepatology and Nutrition. 2014.6.7-8. (Taipei, Taiwan)
2. 木村昭彦、入戸野博. 本邦胆汁酸代謝異常症 7 例の経験とトピックス. (教育講演) 第 31 回日本小児肝臓研究会 2014.7.19-20 (久留米)
3. 木村昭彦、入戸野博. 門脈体循環シャントによるガラクトース血症の診断 新生児期の胆汁酸代謝. (シンポジウム) 第 41 回 日本マス・スクリーニング学会 2014.8.22-23 (広島)
4. 牛島高介. 日常診療でみる子どもの便秘 第 6 回北海道小児消化器病フォーラム 特別講演 2014.9.6 (札幌)
5. 柳忠宏. 経管栄養管理. 平成 25 年度 小児等在宅医療技術講習会 2014.2.12 (長崎)

6. 柳忠宏. 日常におけるこどもの事故. 木村回生医院. 2014. 4. 24 (柳川)
7. 牛島高介. 小児B型肝炎の過去・現在・未来. 感染症予防セミナー. 第2回浮羽医師生涯教育講座 特別講演 2014. 5. 14 (うきは)
8. 牛島高介. 学校における下痢と便秘. うきは市学校保健大会 2014. 7. 11 (うきは)
9. 牛島高介. 小児便秘症診療ガイドライン. 第36回むつごろう会 特別講演 2014. 7. 29 (大牟田)
10. 牛島高介. 小児炎症性腸疾患と成長障害. ノボノルディスファーマ 社内臨床講座 2014. 8. 7 (福岡)
11. 牛島高介. 小児B型肝炎の現状とワクチン. 大分県B型肝炎ワクチン講演会 特別講演 2014. 8. 8 (大分)
12. 牛島高介. B型肝炎・IFN・成長障害. JCR ファーマ 社内講演会 2014. 8. 29 (久留米)
13. 牛島高介. 小児の炎症性腸疾患の現状 福岡東部地区小児科医会 特別講演 2014. 11. 6 (古賀)
14. 牛島高介. 「潰瘍性大腸炎、クローン病はこんな病気です。」 「このような治療をおこなっています。」 内科の立場より. 小児炎症性腸疾患 市民公開講座 2014. 11. 29 (大阪)
15. 水落建輝. 「アレルギー反応に対する講習会ーエピペン講習ー」 シンシナティ日本語補習校 2014. 10. 4. (Northern Kentucky, USA)

—学会・研究会発表—

1. Mizuochi T, Shivakumar P, Mourya R, Walters S, Donnelly B, Shanmukhappa S, Bezerra JA. IL-1 signaling regulates bile duct injury and obstruction in biliary atresia (oral presentation). The Liver Meeting 2014 (AASLD Annual Meeting). 2014. 11. 7-11. (Boston, USA)
2. Mizuochi T, Yanagi T, Seki Y, Nittono H, Kimura A. Inborn errors of bile acid synthesis in Japan: diagnosis and treatment. The Pediatric Academic Societies (PAS) Annual Meeting 2014. 2014. 5. 3-6. (Vancouver, Canada)
3. Yanagi T, Ushijima K, Shimizu T, Tomomasa T, Tajiri H, Kunisaki R, Ishige T, Yamada H, Arai K, Ohtsuka Y, Yoden A, Aomatsu T, Nagata S, Uchida K, Kazuo T. The clinical relevance of tacrolimus for ulcerative colitis in children: a national survey of the treatments for pediatric inflammatory bowel disease in Japan. 3rd International symposium on pediatric inflammatory bowel disease. 2014. 9. 10-13. (Rotterdam, Netherlands)
4. Shimizu T, Yanagi T, Minowa, N. Obayashi N, Hosoi K, Arai K. Single center experience with infliximab in Japanese children with Ulcerative Colitis. 3rd International symposium on pediatric inflammatory bowel disease. 2014. 9. 10-13. (Rotterdam, Netherlands)
5. Takeuchi T, Eda K, Yanagi T, Seki Y, Mizuochi T. Zinc monotherapy in young pediatric patients with presymptomatic Wilson disease: long-term efficacy and safety. NASPGHAN Annual Meeting. 2014. 10. 23-26. (Atlanta, USA)
6. 柳忠宏, 竹内孝仁, 江田慶輔, 関祥孝, 松下優美, 牛島高介, 木村昭彦. 小児期発症炎症性腸疾患の治療に関する全国調査～小児潰瘍性大腸炎：タクロリムス (TAC)、シ

- クロスポリリン (CsA) の 治療調査報告～. 第 14 回日本小児 IBD 研究会 2014. 2. 2 (東京)
7. 竹内孝仁、江田慶輔、柳忠宏、関 祥孝、 松下優美、牛島高介、木村昭彦. Third line therapy として Infliximab が有効であった 難治性潰瘍性大腸炎の男児例. 第 14 回日本小児 IBD 研究会 2014. 2. 2 (東京)
 8. 関祥孝、水落建輝、木村昭彦、大竹明、武藤晃奈、武井一、入戸野博、本間桂子、長谷川奉延. 一次胆汁酸療法の中断にも関わらず肝機能を保持できた 3-oxo- Δ^4 -steroid 5 β -reductase 欠損症の 1 例. 第 23 回小児胆汁酸研究会 2014. 2. 15 (東京)
 9. 柳忠宏、関祥孝、水落建輝、木村昭彦、山根裕介、大島雅之、戸川貴夫、杉浦時雄、齋藤伸治. 試験開腹後に遺伝子診断された Dubin-Johnson 症候群の 1 例. 第 23 回日本小児胆汁酸研究会. 2014. 2. 15 (東京)
 10. 喜多村美幸、大部敬三、柳忠宏、右田清志. 繰り返す発熱、腹痛、CRP 高値から診断した家族性地中海熱 (FMF) の 1 例. IBD を学ぶ会 2014. 3. 13 (久留米)
 11. 松石登志哉、柳忠宏、関祥孝、芳野裕子、弓削康太郎、澁谷郁彦、牛島高介、木村昭彦、松石豊次郎、高木祐吾. タクロリムス投与中にけいれんを認めた潰瘍性大腸炎の 1 例. 第 117 回日本小児科学会学術集会 2014. 4. 11-13 (名古屋)
 12. 柳忠宏、江田慶輔、田中悠平、関祥孝、大津寧、牛島高介、木村昭彦、松石豊次郎. アザチオプリン投与中に EB ウイルス感染が遷延した潰瘍性大腸炎の男児例. 第 479 回日本小児科学会福岡県地方会 2014. 4. 19 (福岡)
 13. 江田慶輔、田中玄師、進藤亮太、八戸由佳子、竹内孝仁、柳忠宏、関祥孝、牛島高介. カプセル内視鏡で非典型的な小腸病変を認めたクローン病の一例. 第 41 回内視鏡研究会 2014. 7. 5 (大阪)
 14. 水落建輝、Shivakumar P、Walters P、Mourya R、Bezerara JA. IL-1 シグナルは胆道閉鎖症モデルマウスの胆管傷害を制御する. 第 31 回日本小児肝臓研究会 2014. 7. 19-20 (久留米)
 15. 前田靖人、岡田純一郎、才津宏樹、柳忠宏、関祥孝、木村昭彦、久野正、森内浩幸. 後天性 CMV 感染症が症候化した早産児において、胆汁鬱滞型肝障害が遷延した 1 例. 第 31 回日本小児肝臓研究会 2014. 7. 19-20 (久留米)
 16. 白濱裕子、坂本浩子、竹内孝仁、江田慶輔、柳忠宏、関祥孝、牛島高介、木村昭彦、戸川貴夫、杉浦時雄、齋藤伸治. リファンピシンが有効であった良性反復性肝内胆汁うっ滞症 (BRIC-1) の乳児例. 第 31 回日本小児肝臓研究会 2014. 7. 19-20 (久留米)
 17. 江田慶輔、水落建輝、竹内孝仁、柳忠宏、関祥孝、牛島高介、木村昭彦. 年少児の発症前型 Wilson 病に対する亜鉛単独療法～長期的な効果と安全性～. 第 41 回日本小児栄養消化器肝臓学会 2014. 10. 10-12 (東京)
 18. 柳忠宏、竹内孝仁、江田慶輔、関祥孝、松下優美、牛島高介、木村昭彦. 小児期発症炎症性腸疾患の治療に関する全国調査～タクロリムス、シクロスポリン. 第 41 回日本小児栄養消化器肝臓学会 2014. 10. 10-12 (東京)
 19. 新道悠、松石登志哉、嶽間澤昌史、古賀木綿子、桑原浩徳、石原潤、湯川知秀、関祥孝、大矢崇志、神田洋、岩元二郎. 抗菌薬未使用にて偽膜性腸炎を発症した 8 才男児の 1 例. 第 480 回日本小児科学会福岡地方会例会 2014. 10. 11 (福岡)
 20. 柳忠宏、水落建輝、本間桂子、植木勲、関祥孝、長谷川奉延、武井一、入戸野博、黒澤隆夫、松石豊次郎、木村昭彦. 尿ステロイド解析による一次性および二次性 Δ

⁴-3-oxosteroid 5 β -reductase 欠損症の鑑別について. 第 36 回胆汁酸研究会.

2014. 11. 22 (東京)

21. 赤岩喬、石川大平、柳垣充、國村和史、松石登志哉、嶽間澤昌史、石原潤、桑原浩徳、古賀木綿子、湯川知秀、関祥孝、大矢崇志、神田洋、岩元二郎. 小児の重症反復性尿路感染症の 2 例. 第 33 回筑豊感染症懇話会 (第 253 回筑豊小児科医会勉強会合同開催. 2014. 5. 14 (飯塚)
22. 石川大平、柳垣充、國村和史、赤岩喬、松石登志哉、嶽間澤昌史、石原潤、桑原浩徳、古賀木綿子、湯川知秀、関祥孝、大矢崇志、神田洋、岩元二郎. 印象に残った症例の報告. 第 254 回筑豊小児科医会勉強会. 2014. 5. 21 (飯塚)
23. 石原潤、後藤夕輝、堀之内瑠美、赤岩喬、松石登志哉、嶽間澤昌史、桑原浩徳、古賀木綿子、湯川知秀、関祥孝、大矢崇志、神田洋、岩元二郎. 高血糖と高乳酸の症例検討. 第 10 回小児救急医療カンファレンス. 2014. 6. 27 (飯塚)
24. 石原潤、安藤美穂、野田尚吾、武藤希、新道悠、松石登志哉、嶽間澤昌史、桑原浩徳、古賀木綿子、湯川知秀、関祥孝、大矢崇志、神田洋、岩元二郎. リスク因子のない小児における感染性心内膜炎の 1 例. 第 10 回久留米小児感染症研究会. 2014. 7. 18 (久留米)
25. 高野 智子, 田尻 仁, 乾 あやの, 三善 陽子, 牛島 高介, 村上 潤, 鈴木光幸, 虻川 大樹, 木村 宏, 恵谷 ゆり, 小児期ウイルス性肝炎治療に関する研究班: 小児 B 型慢性肝炎の全国多施設調査よりインターフェロン治療に関する検討 第 117 回日本小児科学会学術集会, 2014. 4. 12 (名古屋)
26. 高野智子, 乾あやの, 牛島高介, 三善陽子, 虻川大樹, 宮川隆之, 藤澤知雄, 田尻仁: 小児 B 型慢性肝炎に発症した肝細胞癌 12 例の検討 ~小児期のウイルス性肝炎に対する治療法の標準化に関する研究班による全国多施設調査~. 第 31 回日本小児肝臓研究会, 2014. 7. 19 (久留米)

-研究班-

1. 牛島高介 分担研究者. 肝炎等克服緊急対策研究事業 「小児期のウイルス性肝炎の病態解明や科学的根拠の集積等に関する研究」 (研究代表者 田尻仁)
1. 牛島高介 分担研究者. 難治性疾患克服 研究事業 「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包括するガイドラインの確立に関する研究作」 (研究代表者 田口智章)
1. 牛島高介 分担研究者. 肝炎等克服緊急対策研究事業 「小児における B 型肝炎の水平感染の実態把握とワクチン戦略の再構築に関する研究」 (研究代表者 須磨崎 亮)
1. 水落建輝 委員. Wilson 病診療ガイドライン作成ワーキング委員会「Wilson 病診療ガイドライン」 (委員長 児玉浩子)
1. 牛島高介、柳忠宏、水落建輝 委員. 胆道閉鎖症診療ガイドライン」作成グループ・システムティックレビューチーム
1. 関祥孝 委員. 小児消化器内視鏡ガイドライン作成ワーキンググループ (研究代表者 中山佳子)
1. 牛島高介、柳忠宏 委員. 「小児の臓器移植及び免疫不全状態における予防接種ガイドライン 2014」作成委員会 (委員長 岡田賢司)

—その他—

1. 牛島高介：小児科医リレーエッセイ「小児肝臓 in 久留米」肝臓 2014. 241

先天代謝・遺伝

—著書—

1. 渡邊順子. 同胞の突然死を契機に診断された、グルタール酸血症 II 型の一例. 特殊ミルク情報 No. 49. p52-55. 2014.
2. 弓削康太郎、芳野信. モリブデン勤続代謝異常症 (Menkes 病、モリブデン補因子欠損症) XIV. てんかん症候群 神経症候群 (第 2 版) 下. 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ 2014. No. 31. 237-241.

—論文—

1. Nakajima Y, Meijer J, Dobritzsch D, Ito T, Meinsma R, Abeling NG, Roelofsen J, Zoetekouw L, Watanabe Y, Tashiro K, Lee T, Takeshima Y, Mitsubuchi H, Yoneyama A, Ohta K, Eto K, Saito K, Kuhara T, van Kuilenburg AB. Clinical, biochemical and molecular analysis of 13 Japanese patients with β -ureidopropionase deficiency demonstrates high prevalence of the c.977G > A (p.R326Q) mutation. J Inherit Metab Dis. 2014 Sep;37(5):801-12.
2. Fujisawa D, Mitsubuchi H, Matsumoto S, Iwai M, Nakamura K, Hoshide R, Harada N, Yoshino M, Endo F: Early intervention for late-onset ornithine transcarbamylase deficiency. Pediatrics International. Vol.57, No.6 2015.

—講演—

1. 渡邊順子. 覚えておきたい症候群-代表的な先天異常症候群の症例供覧. 第 37 回日本小児遺伝学会 Dymorphology の夕べ 2014. 4. 10 (名古屋)
2. 渡邊順子. フェニル酪酸ナトリウムを用いた尿素サイクル異常症治療の実際. スポンサードセミナー 2 先天代謝異常学会 2014. 11. 14 (仙台)
3. 渡邊順子. Fabry 病の遺伝カウンセリング. Fabry update meeting 2014. 12. 10 (山口)

—学会・研究会発表—

1. 中島信一、渡邊順子、岡田純一郎、永田絵子、加藤英弥子、山口理恵、小野裕之、深見真紀、中西俊樹、緒方勤. X-Y 転座を伴う SRY(+) 45, X male の分子遺伝学的解析. 第 37 回日本小児遺伝学会 2014. 4. 18 (名古屋)
2. 芳野裕子、海野光昭、西村美穂、中川慎一郎、大園秀一、上田耕一郎、原田なをみ、渡邊順子、松石豊次郎. 進行性の貧血を合併した 5 番染色体長腕中間部欠失症例. 第 37 回日本小児遺伝学会 2014. 4. 18 (名古屋)
3. 渡邊順子、関祥孝、柳忠宏、水落建輝、竹内孝仁、岩本二郎、猪口隆洋、矢野正二、鹿毛政義、松石豊次郎. 原因不明の脂肪肝、低血糖、ケトーシス、高乳酸血症、高脂血症を呈する乳児例. 第 117 回日本小児科学会 2014. 4. 19-21 (名古屋)

4. 大園秀一、渡邊順子、西村美穂、中川慎一郎、上田耕一郎、稲田浩子、福田冬季子、杉江秀夫、松石豊次郎. 横紋筋融解症・溶血性貧血を認めた Phosphoglycerate kinase 欠損症の一例. 第 117 回日本小児科学会 2014. 4. 19-21 (名古屋)
5. 緒方怜奈、松岡幹、原口康平、チョン・ピンフィー、吉良龍太郎、渡邊順子、才津浩智. GLUT1 欠損症と考えられていたがエクソーム解析により乳児悪性焦点移動性部分発作と診断された一例. A case of malignant migrating partial seizures in infancy following GLUT1 deficiency syndrome. 第 56 回日本小児神経学会 2014. 5. 29-31 (浜松)
6. 元島成信、原田なをみ、田中征治、芳野信、齋藤仲道、田中悦子、此元隆雄、中西浩一、松石豊次郎、渡邊順子. フィンランド型先天性ネフローゼ症候群の出生前診. Prenatal diagnosis of Finnish type congenital nephrotic syndrome. 第 38 回日本遺伝カウンセリング学会 2014. 6. 20-23 (川崎)
7. 田代恭子、石井宏美、木下幸恵、鈴谷由吏、柳内千尋、井上かおり、稲場美佐、青木久美子、但馬剛、依藤亨、重松陽介、猪口隆洋、松石豊次郎、渡邊順子. 当施設で診断した軽症型プロピオン酸血症 7 症例の検討. 第 41 回日本マススクリーニング学会 2014. 8. 22-23 (広島)
8. Watanabe Y, Ozono S, Sugie H, Fukuda T, Yano S, Matsuishi T. Phosphoglycerate kinase-1 (PGK-1) deficiency presenting as neonatal onset hemolytic anemia, rhabdomyolysis, and mild developmental delay. Annual Symposium of the Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism 2014. 9. 2-5 (Innsbruck, Austria)
9. 原田なをみ、田中征治、芳野信、齋藤仲道、田中悦子、此元隆雄、中西浩一、松石豊次郎、渡邊順子. マイクロアレイ解析が有用であった 15 番染色体 q26 端部欠失の 1 例. 第 21 回 遺伝性疾患に関する出生前診断研究会 2014. 9. 13 (宮崎)
10. Watanabe Y, Ozono S, Sugie H, Fukuda T, Yano S, Matsuishi T. Phosphoglycerate kinase-1 (PGK-1) deficiency presenting as neonatal onset hemolytic anemia, rhabdomyolysis, and mild developmental delay. The 64th Annual Symposium of the American Society of Human Genetics 2014. 10. 18-22 (San Diego, USA)
11. 石毛美夏、小川えりか、碓井ひろみ、米沢龍太、小平隆太郎、渡邊順子、淵上達夫、高橋昌里. 治療中に急性硬膜下出血をきたしたグルタル酸血症 I 型の 1 例. 第 56 回日本先天代謝異常学会 2014. 11. 13-15 (仙台)
12. 鈴谷由吏、田代恭子、稲場美佐、青木久美子、但馬剛、依藤亨、重松陽介、猪口隆洋、松石豊次郎、渡邊順子. 当施設で診断した軽症型プロピオン酸血症 7 症例の検討. 第 56 回日本先天代謝異常学会 2014. 11. 13-15 (仙台)
13. 中島葉子、Judith Meijer、Doreen Dobritsch、渡邊順子、久原とみ子、三淵浩、李知子、衛藤薫、伊藤哲哉、Andre Van Kuilenburg. β ウレイドプロピオナーゼ欠損症の臨床的・生化学的・分子生物学的検討と p. R326Q 変異頻度. 第 56 回日本先天代謝異常学会 2014. 11. 13-15 (仙台)
14. 原田なをみ、田中征治、芳野信、齋藤仲道、田中悦子、此元隆雄、中西浩一、松石豊次郎、渡邊順子. マイクロアレイ解析が有用であった 15 番染色体 q26 端部欠失の 1 例. Identification of terminal deletion of Chr. 15q by SNP microarray in a patient

with a normal karyotype in amniocytes. 第 59 回日本人類遺伝学会 2014. 11. 20-23
(東京)

15. 八戸由佳子、田中玄師、田中征治、渡邊順子、松石豊次郎、長井孝二郎、坂本照夫、岡田純一郎. 学童期の急性発作に対し血液浄化療法が有効であったメープルシロップ尿症の 1 例. 第 482 回日本小児科学会福岡地方会 2014. 12. 13 (久留米)

－研究費・受賞－

1. 分担研究者：渡邊順子. 分担協力者：芳野信. 平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業（難治性疾患政策研究事業） 「ライソゾーム病（ファブリ病含む）に関する調査研究」 責任者：衛藤義勝
2. 分担研究者：渡邊順子. 平成 26 年度厚生労働科学研究委託費（難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患等実用化研究事業（難治性疾患実用化研究事業））） 「エピジェネティック希少疾患の治療に向けた研究および原因未解明な稀少疾患に対する解析技術展開研究」 責任者：吉浦孝一郎

血液・腫瘍

－論文－

1. Inagaki J, Fukano R, Kodama Y, Nishimura M, Shimokawa M, Okamura J. Safety and efficacy of low-dose methotrexate for pediatric patients with steroid-refractory acute graft-versus-host disease after hematopoietic stem cell transplantation. *Ann Hematol.* 2014 Apr;93(4):645-51.
2. Nishimura M, Kodama Y, Fukano R, Okamura J, Ogaki K, Sakaguchi Y, Migita M, Inagaki J. Meralgia Paresthetica as a Presentation of Acute Appendicitis in a Girl With Acute Lymphoblastic Leukemia. *J Pediatr Hematol Oncol.* 2014 Jun 17.
3. Ozono S, Ishida Y, Honda M, Okamura J, Asami K, Maeda N, Sakamoto N, Inada H, Iwai T, Kamibeppu K, Kakee N, Horibe K. General Health Status and Late Effects Among Adolescent and Young Adult Survivors of Childhood Cancer in Japan. *Jpn J Clin Oncol.* 2014 Aug 8.
4. Fukano R, Nishimura M, Ito N, Nakashima K, Kodama Y, Okamura J, Inagaki J. Efficacy of prophylactic additional cranial irradiation and intrathecal chemotherapy for the prevention of CNS relapse after allogeneic hematopoietic SCT for childhood ALL. *Pediatr Transplant.* 2014 Aug;18(5):518-23.
5. 中島健太郎、深野玲司、矢口貴志、松澤哲宏、伊藤暢宏、西村美穂、児玉祐一、岡村純、稲垣二郎. 急性白血病の治療中に起炎菌不明の真菌感染症を発症し、血清 PCR で *Pseudallescheria boydii* と *Geotrichum candidum* が検出され、voriconazole で治療し得た 1 例

－著書－

1. 大園秀一. 小児白血病の痛み. In 症例で学ぶがん疼痛治療薬. 山口重樹, 下山直人編 東京：羊土社 2014. 306-10

2. 大園秀一. 小児固形腫瘍の痛み. In 症例で学ぶがん疼痛治療薬. 山口重樹, 下山直人編東京: 羊土社 2014. 311-5
3. 稲田浩子. 小児がんの子どもの学校生活. 学校の先生にも知ってほしい慢性疾患(ア)の子どもの学校生活: 満留昭久編 慶應義塾大学出版会 2014. 126-139

—講演・シンポジウム—

1. 西村美穂. 小児がんって何? ~がんになった子どもたちの笑顔のためにできること~ (ア) がんの子どもを守る会九州北支部 第40回講演・交流会. 2014. 1. 18 (福岡)
2. 松尾陽子. 血友病保因者に関する最近の話題: 血栓止血学会標準化委員会 イブニングセミナー. 2014. 2. 22 (東京)
3. 松尾陽子. 血友病保因者に関する最近の話題: バクスターweb セミナー. 2014. 3. 5 (福岡)
4. 大園秀一. 小児がんを取り巻く現状と社会的支援: アフラック福岡支店講演会. 2014. 4. 11 (福岡)
5. 大園秀一. 小児血液疾患診療と G-CSF 製剤の可能性: 中外製薬久留米支店社内レクチャー. 2014. 5. 15 (久留米)
6. 松尾陽子. 血友病保因者診断と保因者ケア: 九州血友病懇話会. 2014. 5. 17 (福岡)
7. 稲田浩子. 小児がんの治療と小児がん経験者を支えるために: 久留米保健所相談会. 2014. 7. 2 (久留米)
8. Shuichi Ozono. A Nationwide Survey on the Long-Term Follow-Up Diary and Treatment Summary for Childhood Cancer Survivor. The 12 th Annual Meeting of Japanese Society of Medical Oncology. President Symposium (Cancer Survivorship in Pediatric Oncology) (日本臨床腫瘍学会 会長シンポジウム). 2014. 7. 18 (福岡)
9. 松尾陽子. 血友病保因者診断と保因者ケア. 旭川血友病研究会. 2014. 7. 26 (旭川)
10. 大園秀一. 医療現場における悪い知らせの伝え方. 筑豊子ども問題研究会講演会. 2014. 11. 18 (飯塚)

—学会・研究会—

1. Shuichi Ozono, Yasushi Ishida, Kentaro Aritaki, Keiko Asami, Miho Maeda, Etsuko Yamaguchi, Keizo Horibe, Shunichi Kato, Junichiro Fujimoto, Tatsuo Kuroda. A nationwide survey on the Long-Term Follow-Up Diary for Childhood Cancer Survivors. 25th Biannual Meeting of the Childhood Leukemia Symposium; 28th-29th April 2014. (Prague, Czech)
2. 西村美穂、八戸由佳子、中川 慎一郎、松尾 陽子、大園秀一、上田 耕一郎、稲田 浩子、松石 豊次郎、村上 義比古、國島 伸治. 発熱時の採血を契機として May-Hegglin 異常の診断に至った男児例. 第 478 回日本小児科学会福岡地方会例会. 2014. 2. 8 (福岡)
3. 西村美穂、中川慎一郎、大園秀一、上田耕一郎、稲田浩子、橋詰直樹、八木実、谷川健、鹿毛政義. 化学療法後の治療戦略に難渋する縦隔原発胚細胞腫瘍の 1 例. 第 43 回九州地区小児固形悪性腫瘍研究会. 2014. 2. 22 (福岡)
4. 西村美穂、伊藤 早織、進藤亮太、野口磨依子、中川慎一郎、大園秀一、上田耕一郎、稲田浩子、松石豊次郎. 多剤耐性緑膿菌による重篤な頸部蜂窩織炎を発症した急性骨

- 髓性白血病の一例. 第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 11 (名古屋)
5. 中川慎一郎、稲田浩子、西村美穂、大園秀一、上田耕一郎、田中征治、伊藤雄平、松石豊次郎. 自家末梢血幹細胞移植後に腎不全を来し腎移植を行った第 3 寛解期のホジキン病の 1 例: 第 115 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 12 (名古屋)
 6. 大園秀一、渡邊順子、西村美穂、中川慎一郎、上田耕一郎、稲田浩子、松石豊次郎、福田冬季子、杉江秀夫. 感染症を契機に横紋筋融解症・溶血性貧血の増悪を認めた Phosphoglycerate kinase 欠損症の一例. 第 115 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 13 (名古屋)
 7. 上田耕一郎、西村美穂、野口磨依子、伊藤早織、中川慎一郎、大園秀一、稲田浩子、松石豊次郎. 児童相談所の早期介入により医療ネグレクトに対処できた急性リンパ性白血病の 1 例. 第 115 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 13 (名古屋)
 8. 酒井さやか、西村美穂、鍵山慶之、中川慎一郎、大園秀一、上田耕一郎、稲田浩子. 赤芽球ろうが先行し、経過観察 4 ヶ月後に発症した急性リンパ性白血病 (ALL) の 3 歳女児例. 第 20 回九州山口小児血液・腫瘍研究会. 2014. 6. 14 (福岡)
 9. 大園秀一、稲田浩子、上村幸代、下之段秀美、古賀友紀、新小田雄一、中山秀樹、末延聡一、野村優子、稲垣二郎. 九州山口小児がん研究グループ (KYCCSG) 登録の急性リンパ性白血病 (ALL) 症例における二次がん発生状況. 第 20 回九州山口小児血液腫瘍研究会. 2014. 6. 14 (福岡)
 10. 橋詰直樹、東館成希、西村美穂、つる知光、八木実. 乳幼児に発症した複合組織型精巣腫瘍の 1 例. 第 23 回日本小児泌尿器科学会. 2014. 7. 10 (横浜)
 11. 横山良平、前川啓、上田耕一郎、横山庫一郎. 乳児線維肉腫治療における不完全切除の役割 症例報告および文献的考察. 第 47 回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会 2014. 7. 18 (大阪)
 12. 西村美穂、伊藤早織、中川慎一郎、大園秀一、上田耕一郎、稲田浩子、濱田哲矢、平岡弘二. 骨肉腫に対する化学療法中に血球貪食症候群を合併した女児例. 厚生労働省平成 26 年度革新的がん医療実用化研究事業第 1 回班会議. 2014. 7. 19 (東京)
 13. 13 中川慎一郎、西村美穂、伊藤早織、大園秀一、上田耕一郎、稲田浩子、松石豊次郎. 肺転移を伴った滑膜肉腫に対し Pazopanib を使用した 1 例. 第 56 回日本小児血液・がん学会学術集会. 2014. 11. 29 (岡山)
 14. 西村美穂、八戸由佳子、中川慎一郎、松尾陽子、大園秀一、上田耕一郎、稲田浩子、松石豊次郎、村上義比古、國島 伸治. 発熱時の採血を契機として May-Hegglin 異常の診断に至った男児例: 第 56 回日本小児血液・がん学会学術集会. 2014. 11. 30 (岡山)
 15. 西村美穂、伊藤早織、中川慎一郎、大園秀一、上田耕一郎、稲田浩子、濱田哲矢、平岡弘二. 骨肉腫に対する化学療法中に血球貪食症候群を合併した女児例. 平成 26 年度 JCOG 総合班会議. 2014. 12. 19 (東京)

—研究班報告—

- 1 大園秀一. 長期フォローアップ手帳について. 平成 26 年度第 1 回厚生労働科研合同班会議. 2014. 6. 20 (名古屋)
- 2 大園秀一. I-BFM SG ELTEC 報告:平成 26 年度第 1 回厚生労働科研合同班会議. 2014. 6. 20 (名古屋)

－その他－

1. 松尾陽子. 平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金 (エイズ対策研究事業) 坂田班分担研究. 第 VIII、第 IX 因子製剤のインヒビター発生要因に関する研究 嶋分担班平成 26 年度 第 2 回班会議. 2014. 1. 12 (東京)
2. 大園秀一. がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会 (地域開催) ファシリテーター. 2014. 4. 19-20 (久留米)
3. 大園秀一. がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会 (全国開催) サポートファシリテーター. 2014. 3. 14-15 (福岡)
4. 松尾陽子. 血友病周産期管理指針作成委員会 (日本血栓止血学会・血友病部会と日本産婦人科新生児血液学会の共同) 第 1 回会議. 2014. 6. 14 (横浜)

心身症

－論文－

1. Matsuoka M, Nagamitsu S, Iwasaki M, Iemura A, Yamashita Y, Maeda M, Kitani S, Kakuma T, Uchimura N, Matsuishi T. High incidence of sleep problems in children with developmental disorders: results of a questionnaire survey in a Japanese elementary school. *Brain & Development*. 2014. 35-44
2. Shibuya I, Nagamitsu S, Okamura H, Ozono S, Chiba H, Ohay T, Yamashita Y, Matsuishi T. High correlation between salivary cortisol awakening response and the psychometric profiles of healthy children. *Biopsychosocial Med*. 2014;8(1):9. doi:10.1186/1751-0759-8-9

－著書－

1. 永光信一郎、千葉比呂美. 同一性障害の生徒への対応. 田原卓浩、川上一恵編 東京: 中山書店 2014 208-13.

－講演・シンポジウム－

1. 永光信一郎. 虐待と発達障害－心理尺度と脳画像からの特徴. 第 6 回筑後地区発達障害治療研究会. 2014. 3. 4 (久留米)
2. 永光信一郎. 子どもの心身症とその対応策 平成 26 年度柳川療育セミナー. 2014. 9. 7 (柳川)
3. 永光信一郎. プライマリ・ケアにおける発達障害への対応. 大川三瀧医師会講演会 2014. 10. 31 (大川)

－学会、研究会－

1. Shinichiro Nagamitsu, Rieko Sakurai, Hiromi Chiba, Yushiro Yamashita, Masatoshi Ishibashi, Tatsuyuki Kakuma, Paul E Croarkin, Toyojiro Matsuishi Evidence for Decreased SPECT 123I Iomazenil Binding in the Anterior Cingulate Cortex of Children with Anorexia Nervosa. 61th Annual meeting of AACAP, 2014. 10. 20-25 (San Diego, USA)
2. 永光信一郎、田中英高、小柳憲司、神原雪子、山下裕史朗、古荘純一、松石豊次郎. 子

どもの心身健康度スケール QTA (Questionnaire of treatment and assessment) の開発.
第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 13 (名古屋)

3. 大園秀一、永光信一郎、松石豊次郎、守田弘美. 小児抑うつ尺度 (Children's Depression Inventory: CDI) による臨床群と対照群の比較研究. 第 480 回日本小児科学会福岡地方会 2014. 6. 14 (福岡)
4. 大園秀一、永光信一郎、松石豊次郎. 小児抑うつ尺度 (Children's Depression Inventory: CDI) による臨床群と健常群の比較研究: 第 32 回日本小児心身医学会学術集会. 2014. 9. 13 (大阪)
5. 永光信一郎、千葉比呂美、山下裕史朗、松石豊次郎. 帯状回の抑制系ニューロン (GABA) 活動が、摂食障害の予後を予測する. 第 32 回日本小児心身医学会学術集会 2014. 9. 12 (大阪)
6. 永光信一郎. 小児心身医学アウトカム研究 -客観的評価をもとめて- 第 32 回日本小児心身医学会学術集会 2014. 9. 13 (大阪)
7. 千葉比呂美、永光信一郎、山下裕次郎、松石豊次郎. 性への違和感を主訴に来院した 1 例. 第 10 回日本小児心身医学会九州沖縄地方会 2014. 3. 9 (久留米)
8. 日吉佑介、千葉比呂美、下村 豪、弓削康太郎、渋谷郁彦、大矢崇志、永光信一郎、山下裕史朗、松石豊次郎. 小児摂食障害の予後に影響を及ぼす因子の検討.

—研究費・受賞—

1. 永光信一郎. 文部科学省科学研究費「機能的脳画像法による思春期やせ症の病態解明と治療に関する研究」(平成 26 年度) 140 万円
2. 永光信一郎. 厚生労働省科学研究費「成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総合研究事業)」(主任研究者 内田創) (平成 26 年度) 40 万円

感染・予防接種

—論文—

1. Christine Cho, A Chande, L G O. Bakaletz, J A. Jurcisek, M Ketterer, J Shao, K Gotoh, E Foster, J Hunt, E O'Brien, Michael A. Apicella. Role of the Nuclease of Nontypeable Haemophilus influenzae in Dispersal of Organisms from Biofilms. Infect immun. (in press)
2. 田中悠平、寺町麻利子、石本和久、後藤憲志、日高秀信、大津寧、升永憲治、津村直幹、長井健祐、進藤静生. 福岡県における Streptococcus pyogenes のマクロライド耐性状況. 小児感染免疫 2014;26:15-20
3. 坂田宏、岩田敏、尾内一信、佐藤吉壮、津村直幹、砂川慶介. 小児市中肺炎に対する tosylfloxacin 細粒小児用 15% の有効性・安全性の臨床評価. 日化療会誌 2014;62:613-21
4. 石本和久、津村直幹: 小児呼吸器感染症における肺炎球菌ワクチンの効果と抗菌薬耐性肺炎球菌の問題. 小児科 2014;55:1985-91
- 5.

—著書—

1. 石本和久、長井健祐. 感染症 嫌気性菌感染症. 小児科診療 2014年増刊号 小児の治療指針. 144-145
2. 金子明寛, 青木隆幸, 池田文昭, 川辺良一, 佐藤田鶴子, 津村直幹: 菌性感染症, JAID/JSC 感染症ガイド・ガイドライン作成委員会編, JAID/JSC 感染症治療ガイド 2014, ライフサイエンス出版, 東京, 2014, p271-3

—総説・その他—

1. 津村直幹. 予防接種の現状と課題～大人にも子どもにも必要なワクチン、そして接種率向上・過誤接種防止について～. 佐賀県小児科医報 2014;30:13-7
2. 津村直幹. 予防接種最新情報 2013～大人にも子どもにも必要なワクチン、そして接種率向上・過誤接種防止について～. 石川県小児科医会会報 2014;8:4-7
3. 津村直幹. 小児呼吸器感染症の新たな治療戦略～年齢と耐性菌の現状を考慮した抗菌薬の選択～. Japan Medicine MONTHLY 9月号 (2014年8月25日発行). 23
4. 津村直幹. 最近の予防接種の現状と課題. 平成25年度 医報粕屋. 粕屋医師会. 平成26年8月. 45-9
5. 津村直幹: 耳鼻咽喉科医として知っておきたい小児感染症のトピックス. 福耳會ニュース. 福岡県耳鼻咽喉科専門医会. 平成26年11月 (139号). p12-3

—教育セミナー、その他—

1. 津村直幹. 臨床現場で役に立つ子どもの細菌感染症の治療 I. 小児呼吸器感染症の治療. 教育セミナー14. 第117回日本小児科学会学術集会 2014.4.11-13 (名古屋)
2. 津村直幹. 小児呼吸器感染症の新たな治療戦略～年齢と耐性菌の現状を考慮した抗菌薬の選択～. ランチョンセミナー. 第88回日本感染症学会学術講演会 第62回日本化学療法学会総会 合同学会. 2014.6.19 (福岡)
3. 大津寧. 「感染制御と環境」人類の感染症との戦い. ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ. 独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金事業. 2014.8.3 (久留米)
4. 津村直幹. 小児呼吸器感染症に対する抗菌薬選択のポイント. 教育セミナー17. 第62回日本化学療法学会西日本支部総会 第57回感染症学会中日本地方会学術集会 第84回日本感染症学会西日本地方会学術集会 合同学会. 2014.10.24 (岡山)

—講演会—

1. 津村直幹. 予防接種最新情報 2014～大人にも子どもにも必要なワクチン、そして接種率向上・過誤接種防止について～. 第365回大分市小児科医会学術講演会. 2014.1.23 (大分)
2. 津村直幹. 小児感染症の新たな予防・治療戦略～ワクチンの重要性とその限界、そして年齢と耐性菌を考慮した抗菌薬の選択～. 第22回沖縄小児感染症研究会. 2014.2.6 (那覇)
3. 津村直幹. 予防接種最新情報 2014. 八女筑後医師会予防接種研修会. 2014.2.7 (八女)
4. 津村直幹. 小児感染症の新たな予防・治療戦略～ワクチンの重要性とその限界、そして年齢と耐性菌を考慮した抗菌薬の選択～. 八幡小児科医会2月例会. 2014.2.13 (北

九州)

5. 津村直幹. 予防接種最新情報 2014～大人にも子どもにも必要なワクチン、そして接種率向上・過誤接種防止について～. 第7回福岡県筑後地区薬剤師会感染制御研修会. 2014. 2. 27 (久留米)
6. 津村直幹. 小児感染症の新たな予防・治療戦略～年齢と耐性菌を考慮した抗菌薬の選択、そしてワクチンが与えるインパクト～. 第93回小児科医イブニングカンファレンス. 2014. 3. 1 (大津)
7. 津村直幹. こども達を守るための予防接種～乳幼児期ワクチンの重要性と過誤接種防止について～. 小児科スタッフのための予防接種セミナー. 2014. 3. 8 (福岡)
8. 津村直幹. こども達を守るための予防接種～乳幼児期ワクチンの重要性と過誤接種防止について～. 小児科スタッフのためのスキルアップセミナー. 2014. 3. 12 (久留米)
9. 津村直幹. これからの予防接種. 平成25年度予防接種関係者研修会、久留米市保健所健康予防課・健康推進課共催事業. 2014. 3. 14 (久留米)
10. 津村直幹. こどもたちを守るための予防接種～ロタウイルスワクチンを含めた乳幼児期ワクチンの重要性と過誤接種防止について～. ワクチンインターネット講演会. 2014. 3. 20 (東京)
11. 津村直幹. こども達を守るための予防接種～乳幼児期ワクチンの重要性と過誤接種防止について～. 小児科スタッフのための予防接種セミナー. 2014. 4. 3 (那覇)
12. 津村直幹. こども達を守るための予防接種～乳幼児期ワクチンの重要性と過誤接種防止について～. 第3回予防接種懇話会. 2014. 4. 17 (都城)
13. 津村直幹. 予防接種最新事情 2014. 平成26年度第1回浮羽医師会学術講演会(予防接種講習会). 2014. 4. 24 (うきは)
14. 津村直幹. こども達を守るための予防接種～乳幼児期ワクチンの重要性と過誤接種防止について～. 予防接種に関連するスタッフのためのスキルアップセミナー. 2014. 5. 22 (宗像)
15. 津村直幹. 予防接種最新情報 2014～大人にも子どもにも必要なワクチン、そして接種率向上・過誤接種防止について～. 中部地区医師会ワクチンセミナー. 2014. 6. 5 (中頭郡)
16. 津村直幹. 子どもと大人の感染症、最近の話題. 中津市医師会学術講演会. 2014. 6. 12 (中津)
17. 津村直幹. こどもの感染症の診かた ～大人とこどもの違い、そして耐性菌を考慮した抗菌薬の選択～. 佐賀県医師会学術講演会. 2014. 7. 18 (佐賀)
18. 津村直幹. 耳鼻咽喉科医として知っておきたい小児感染症のトピックス. 第15回福岡県耳鼻咽喉科学校医研修会. 2014. 7. 26 (福岡)
19. 津村直幹. 小児呼吸器感染症の現状と治療の実際. マルホ株式会社社内研修会. 2014. 8. 7 (久留米)
20. 津村直幹. 予防接種最新情報 2014 ～こどもにも大人にも必要なワクチン、そして接種率向上・過誤接種防止について～. 山鹿・植木小児救急地域医師研修会. 2014. 8. 28 (山鹿)
21. 津村直幹. 予防接種 ～基礎から臨床まで～. ファイザー株式会社社内研修会. 2014. 9. 1 (久留米)
22. 津村直幹. 予防接種最新情報 2014 ～乳幼児期に必要なワクチン、そして接種率向

- 上・過誤接種防止について～. 医療関係者 Web セミナー. 2014. 9. 10 (金沢)
23. 津村直幹. 予防接種最新情報 2014 ～こどもにも大人にも必要なワクチン、10 月から はじまる 2 ワクチンについて～. 母子保健・予防接種関係者研修会. 2014. 9. 11 (久留 米)
 24. 津村直幹. ワクチンの重要性とその限界、そして年齢と耐性菌を考慮した抗菌薬の選 択. 第 257 回筑豊小児科医会勉強会. 2014. 9. 17 (飯塚)
 25. 津村直幹. 予防接種最新情報 2014. 小郡三井医師会予防接種講習会. 2014. 9. 18 (小郡)
 26. 津村直幹. 予防接種 Up to date ～乳幼児期ワクチンの重要性と接種率向上・過誤接 種防止について～. 熊本県小児科医会学術講演会. 2014. 9. 25 (熊本)
 27. 津村直幹. 予防接種最新情報 2014 ～大人にも子どもにも必要なワクチン、そして接種 率向上・過誤接種防止について～. 延岡医学会学術講演会. 2014. 10. 3 (延岡)
 28. 津村直幹. 予防接種最新情報 2014 ～大人にも子どもにも必要なワクチン、そして接種 率向上・過誤接種防止について～. 第 510 回北九州地区小児科医会例会. 2014. 10. 16 (北九州)
 29. 津村直幹. 予防接種 Up to date ～乳幼児期ワクチンの重要性と接種率向上・過誤接 種防止について～. 第 28 回天草小児医療研究会. 2014. 10. 30 (天草)
 30. 津村直幹. ハッピー☆ベビーひろば～ワクチンで防ごう！子どもの感染症～. 保護者 向け保育保健・母子保健普及啓発セミナー. 2014. 11. 6 (福岡)
 31. 津村直幹. 予防接種 Up to date ～乳幼児期ワクチンの重要性と接種率向上・過誤接 種防止について～. 玉名郡市医師会学術講演会. 2014. 11. 13 (玉名)
 32. 津村直幹. 感染症・予防接種最新情報 2014. 第 18 回筑紫地区小児科懇話会. 2014. 11. 15 (福岡)
 33. 津村直幹. 変貌する肺炎球菌 ～ワクチンの効果、serotype replacement、そして耐 性菌の現状. 九州 DRIAOMS. 2014. 11. 16 (福岡)
 34. 津村直幹. 予防接種 Up to date ～乳幼児期ワクチンの重要性と接種率向上・過誤接 種防止について～. 長崎県小児科医会学術講演会. 2014. 11. 19 (長崎)
 35. 津村直幹. 予防接種 Up to date ～こどもにも大人にも必要なワクチン、そして接種 率向上・過誤接種防止について～. 滋賀小児科医会臨時学術講演会. 2014. 11. 22 (大 津)
 36. 津村直幹. 予防接種 Up to date ～乳幼児期ワクチンの重要性と接種率向上・過誤接 種防止について～. おきなわこども CME. 2014. 11. 27 (那覇)

—学会発表—

1. Gotoh, K, Inoue M, Ishimoto K, Tanaka Y, Ohtsu Y, Tsumura N, Matsuishi T. Transition of primary immunodeficiency patients into adult health care. The 16th Biennial Meeting of the European Society for Immunodeficiencies (ESID 2014). 2014. 10. 29-11. 1 (Prague, Czech)
2. Tanaka Y, Gotoh K, Ishimoto K, Teramachi M, Tsumura N, Matsuishi T. Evaluate the appropriateness of short term Immunoglobulin prophylaxis for IgG subclass deficiency pediatric patients. The 16th Biennial Meeting of the European Society for Immunodeficiencies (ESID 2014). 2014. 10. 29-11. 1 (Prague, Czech)

3. 田中悠平、石本和久、後藤憲志、工藤嘉公、大津寧、津村直幹、須田憲治、松石豊次郎. 基礎疾患や原因菌が各々異なる感染性心内膜炎4例の検討. 第117回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 11-13 (名古屋)
4. 大津寧、津村直幹、伊藤雄平. 乳幼児、学童を対象としたインフルエンザ様疾患に対するインフルエンザワクチンの効果. 第480回日本小児科学会福岡地方会. 2014. 6. 14 (福岡)
5. 田中悠平、石本和久、後藤憲志、大津寧、升永憲治、津村直幹、松石豊次郎. IgG サブクラス欠損症に対する定期的 IVIG 療法と感染予防の有効性に関する検討. 第480回日本小児科学会福岡地方会. 2014. 6. 14 (福岡)
6. 後藤憲志、寺町麻利子、石本和久、田中悠平、大津寧、津村直幹. 過去5年の結核感染症の検討. 第10回久留米小児感染症研究会. 2014. 7. 18 (久留米)
7. 田中悠平、後藤憲志、喜多村美幸、石本和久、寺町麻利子、大津寧、津村直幹. ワクチン接種後に蜂窩織炎に罹患し、皮疹を反復した高IgE血症の一例. 九州免疫不全研究会. 2014. 7. 26
8. 多々良一彰、後藤憲志、中嶋洋介、寺町麻利子、石本和久、田中悠平、升永憲治、津村直幹. 新病棟建設前後での小児患者の血液培養より検出した菌の過去3年間の検討. 第46回日本小児感染症学会総会・学術集会. 2014. 10. 19(東京)
9. 後藤憲志、多々良一彰、中嶋洋介、寺町麻利子、石本和久、田中悠平、津村直幹. 無荚膜型インフルエンザ菌産生 Biofilm に対する L-tryptophan の効果. 第46回日本小児感染症学会総会・学術集会. 2014. 10. 19(東京)
10. 寺町麻利子、後藤憲志、田中悠平、石本和久、大津寧、津村直幹. BCG 接種後の副反応、接種部位異常の検討. 第46回日本小児感染症学会総会・学術集会. 2014. 10. 19(東京)
11. 後藤憲志、寺町麻利子、石本和久、田中悠平、大津寧、津村直幹. 久留米大学小児科における過去五年間の結核感染症の検討. 第84回日本感染症学会西日本地方会学術集会. 2014. 10. 25 (岡山)
12. 田中悠平. TBPM-PI にて治療を行った小児急性肺炎の2症例. 変貌する細菌による中耳炎および市中気道感染症研究会. 2014. 11. 16 (福岡)

—研究班—

1. 津村直幹. 分担研究者 文科省科研費「感染症に強い地域ネットワーク構築を目指した教育と参画型介入の実証的研究」 (主任研究者: 三橋睦子)
2. 津村直幹. 研究協力者 厚労省科研費「小児細菌性髄膜炎及び全身性感染症調査に関する研究」(主任研究者: 庵原俊昭)
3. 津村直幹. 研究協力者 厚労省科研費「ワクチンに関する分析疫学研究班」(主任研究者: 廣田良夫)

—研究報告書—

1. 厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業) 予防接種に関するワクチンの有効性・安全性等についての分析疫学研究.
2. 伊藤雄平、津村直幹、大津寧. 保育園児、幼稚園児、小・中学生を対象としたインフ

呼吸器・アレルギー

—著書—

1. 岡松由記. 久留米市における食物アレルギーの現状. 筑後小児科医会会報.

—研究報告書—

1. 海老澤元宏、木村光一、他. 食物アレルギーの発症要因の解明および耐性化に関する研究. 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業報告書.

—学会発表—

1. 岡松由記、岩谷麻実、中西未来、木村典子、藤本千津、十亀由喜子、木村光一、松石豊次郎. 食物アレルギーの講習を受けた学校教諭のエピペンに対する意識調査. 第 117 回日本小児科学会学術集会 2014. 4. 11-13(名古屋)
2. 中西未来、木村典子、十亀由喜子、岩谷麻実、岡松由記、藤本千津、木村光一、松石豊次郎. アスピリン内服で誘発された牛乳アレルギーの一例. 117 回日本小児科学会学術集会 2014. 4. 11-13(名古屋)
3. 岡松由記、中西未来、木村光一、松石豊次郎. 食物アレルギーの講習会に参加した教諭のエピペンに対する意識調査. 第 28 回日本小児救急医学会 2014. 6. 6-7 (横浜)
4. 中西未来、岡松由記、木村光一、松石豊次郎. 夜間睡眠中の発作吸気性呼吸困難で発症し、異なる原因であった喉頭痙攣の 2 例. 第 28 回日本小児救急医学会 2014. 6. 6-7 (横浜)
5. 横地賢興、久野正、岡松由記、秋田幸大、大部敬三. 新生児における R S ウイルス感染症 78 例の検討. 第 28 回日本小児救急医学会 2014. 6. 6-7 (横浜)
6. Okamatsu Y, Matsuda. Clinical and laboratory end-point to speculate children with macrolide-resistant Mycoplasma pneumonia. PAS 2014. 5. 3-7 (Vancouver, Canada)
7. 日本アレルギー学会 2014. 5. 11
8. 西日本アレルギー研究会
9. 岡松由記. 久留米市内の学校教諭のエピペンに対する意識調査、ミニシンポジウム「アドレナリン自己注射」. 第 42 回西日本小児アレルギー研究会 2014. 8. 23-24 (福岡)
10. 第 47 回日本小児呼吸器学会 2014. 10. 24-25 (東京)
11. 岡松由記、中西未来、木村光一. 小児の気道異物-当科における診断と治療の流れの紹介-.
12. 中西未来、岡松由記、木村光一、松石豊次郎. 当科で経験した原発性肺ヘモジデロシスの 3 例. 第 47 回日本小児呼吸器学会 2014. 10. 24-25 (東京)

—講演会—

1. 岡松由記. 食物アレルギー母親教室. 「小児のぜんそく」 2014. 5. 30 (大牟田)

2. 岡松由記. 食物アレルギー対応研修会. 久留米市教育委員会「食物アレルギー児童の安心・安全な学校生活」エピペン講習会 2014. 6. 4 (久留米)
3. 岡松由記. 食物アレルギー対応. 保育園講演会 「食物アレルギー児童の対応」 2014. 6. 4 (鳥栖)
4. 岡松由記. 学校における食物アレルギー児童の対応—医師と、教諭と保護者の連携—. 柳川山門医師会学術講演会 2014. 6. 18 (柳川)
5. 岡松由記. 食物アレルギー母親教室. 「小児の食物アレルギー」 2014. 6. 27 (大牟田)
6. 岡松由記. 食物アレルギー母親教室. 「小児のアトピー性皮膚炎」 2014. 7. 4 (大牟田)
7. 藤本千津、岩谷麻実: 「Let' s study Allergy! 」第9回ブラッシュアップ・セミナー 2014. 10. 30 (久留米)
8. 岡松由記. 「食物アレルギー児童の安心・安全な学校生活」エピペン講習会. 久留米地区学童保育研修大会 2014. 12. 7 (久留米)

小児救急

—講演・シンポジウム—

1. 長井孝二郎、坂本照夫、松石豊次郎. 大学病院高度救命救急センターにおける小児科医の救急集中治療研修の試み. シンポジウム5 これからの総合小児救急医療～成人救急医との協働によるスキルアップを. 第42回日本救急医学会総会 2014.10.28-30 (福岡)

—著書—

長井孝二郎. 小児虐待の疑い、内科外来で診るマイナーエマージェンシー、Medical Practice 2014 臨時増刊号 (文光堂) . vol31、p115-116

—その他—

- 長井孝二郎. 久留米市立特別支援学校医療的ケア指導 2014.7.3, 2014.12.4 (久留米)
 長井孝二郎. AHA PALS Provider Course インストラクター 2014.7.12-13 (久留米)

腎臓

—論文—

- 1 : Kaku Y, Ohtsuka Y, Komatsu Y, Ohta T, Nagai T, Kaito H, Kondo S, Ikezumi Y, Tanaka S, Matsumoto S, Sako M, Tsuruga K, Nakanishi K, Kamei K, Saito H, Fujinaga S, Hamasaki Y, Chikamoto H, Ishikura K, Iijima K. Clinical practice guideline for pediatric idiopathic nephrotic syndrome 2013. general therapy Clin Exp Nephrol 2014 (in press)
- 2 : Ishikura K, Matsumoto S, Sako M, Tsuruga K, Nakanishi K, Kamei K, Saito H, Fujinaga S, Hamasaki Y, Chikamoto H, Ohtsuka Y, Komatsu Y, Ohta T, Nagai T, Kaito H, Kondo S, Ikezumi Y, Tanaka S, Kaku Y, Iijima K. Clinical practice guideline for pediatric idiopathic nephrotic syndrome 2013. medical therapy Clin Exp Nephrol. 2014

(in press)

—著書—

- 1 : 田中征治. 監修 日本小児感染症学会. 小児臓器移植および免疫不全状態における予防接種ガイドライン 協和企画 2014 70-76
- 2 : 田中征治. intake と output は絶対か. 総合医学社 小児科学レクチャー2014 Vol 4 No3 533-538

—講演—

1. 田中征治. 小児慢性腎疾患ピアカウンセリング、久留米総合庁舎 (久留米)

—班会議—

1. 田中征治. 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業「予防接種に関するワクチンの有効性・安全性等についての分析疫学研究」(研究代表者 廣田良夫)
2. 田中征治. 医療技術実用化総合研究事業「小児ネフローゼ症候群における適応外使用免疫抑制薬の有効性・安全性の検証と治療法に確立を目指した多施設共同臨床研究」(研究代表者: 飯島一誠)

—学会・研究会—

1. 田中征治、財津亜友子、佐々木孝子、牛島高介、伊藤雄平、久野敏. IgA 腎症に膜性腎症を併発した小児例. 第 478 回日本小児科学会福岡地方会 (福岡)
2. 田中征治、財津亜友子、佐々木孝子、牛島高介、濱崎祐子、宍戸清一郎. 移植後新規発症糖尿病を発症した DOWN 症候群の 1 例. 第 49 回小児腎臓病学会 (秋田)
3. 田中征治、財津亜友子、佐々木孝子、牛島高介、伊藤雄平、久野敏. IgA 腎症に膜性腎症を併発した小児例. 第 49 回小児腎臓病学会 (秋田)
4. 田中征治、石原正行、田中絵里子. 紫斑病性腎炎多施設共同臨床研究. 第 5 回小児中堅腎臓研究会 (東京)
5. 財津亜友子、佐々木孝子、田中征治、牛島高介. 当院のステロイドパルス療法 45 例の後方視検討. 第 49 回小児腎臓病学会 (秋田)
6. 財津亜友子、田中征治、白濱裕子、大津寧、牛島高介. フィンランド型先天性ネフローゼ症候群を発症した従妹例. 第 28 回九州小児ネフロロジー研究会 (長崎)
7. 財津亜友子、田中征治、白濱裕子、大津寧、牛島高介. 7 年間の尿路感染症起炎菌における ESBL 産生菌の推移と治療選択. 筑後小児感染症研究会 (久留米)
8. 石原正行、齋藤宏、田中絵里子、田中征治、三浦健一郎、藤丸李可、星野絵里. 紫斑病性腎炎への腎生検と治療に関する多施設アンケート調査. 第 49 回小児腎臓病学会 (秋田)
9. 坂口廣高、向井純平、竹内孝仁、嶽間澤昌史、石原潤、荒木潤一郎、松下美由記、喜多村美幸、横地賢興、今城透、石堂雄毅、秋田幸大、大部敬三、田中征治. 頻回再発型ネフローゼ症候群の加療中に後部可逆性白質脳症症候群 (PRES) を発症した 1 例. 第 479 回日本小児科学会福岡地方会 (福岡)
10. 八戸由佳子、田中玄師、田中征治、岡田純一郎、長井孝二郎、渡邊順子、松石豊次郎、坂本照夫. 学童期の急性発作に対して血液浄化療法が有効であったメープルシロップ

高次脳疾患研究所・遺伝子治療再生医学

—論文—

1. Yuge K, Takahashi T, Khai NC, Goto K, Fujiwara T, Fujiwara H, Kosai K.
Intramuscular injection of adenoviral hepatocyte growth factor at a distal site ameliorates dextran sodium sulfate-induced colitis in mice. *Int J Mol Med* 2014; 33(5):1064-1074 doi:10.3892/ijmm.2014.1686

—学会、研究会—

1. Hara M, Takahashi T, Mitsumasu C, Igata S, Takano M, Okabe, Y, Tanaka E, Matsuishi T. Analysis of cardiac arrhythmias and gene expression in MeCP2-null Mouse. 13th Rett syndrome Symposium. 2014.6.25 (Chantilly, USA)
2. 三井薫、高橋知之、井手佳菜子、小賤健一郎. アデノウイルスベクターでのヒト多能性幹細胞への高効率遺伝子導入技術の開発. 第13回日本再生医療学会総会. 2014.3.4-6 (京都)

—研究費・受賞—

1. 高橋知之. 文部科学省基盤研究(C)「レット症候群モデルES/iPS細胞のグリア細胞分化と病態メカニズムの解明」(平成26年度) 156万円
2. 原宗嗣. 文部科学省科学研究費「レット症候群モデル動物及びES/iPS細胞による自律神経システム異常の研究」(平成26年度) 208万円
3. 原宗嗣、高橋知之、松石豊次郎. 第一回レット症候群研究費助成事業「レット症候群モデル動物及びES/iPS細胞による不整脈発生機序の解明」(平成26年度) 95万円
4. 原宗嗣、高橋知之、松石豊次郎. 平成25年度森永奉仕会研究奨励金「レット症候群における成長・発達障害の病態予測マーカーの探索研究」(平成26年度) 45万円

関連病院業績

聖マリア病院小児科

—著書—

1. 石本和久、長井健祐. 嫌気性菌感染症. 小児科診療 小児の治療指針 2014年増刊号; 144-145
2. 竹内孝仁、柳忠宏、谷川健、牛島高介. 消化器「Ductal plate malformation」. 小児内科 46巻増刊号小児疾患診療のための病態生理 1 改訂5版 東京医学社 2014; 697-700

—学会—

1. 竹内孝仁、江田慶輔、柳忠宏、関祥孝、松下優美、牛島高介、木村昭彦. Third line therapy として Infliximab が有効であった難治性潰瘍性大腸炎の男児例. 第14回日本小児IBD研究会 2014.2.2 (東京)
2. 井上忠、嶽間澤昌史、石原潤、荒木潤一郎、坂口廣高、松下美由紀、竹内孝仁、喜多村美幸、向井純平、横地賢興、今城透、石堂雄毅、秋田幸大、大部敬三. インフルエンザワクチン接種後に上肢腫脹、上肢・胸部の発赤、腋窩リンパ節腫大を呈した1例. 第478回日本小児科学会福岡地方会例会. 2014.2.8 (福岡)
3. 坂口廣高、向井純平. 頻回再発型ネフローゼ症候群加療中、Posterior reversible leukoencephalopathy syndrome を発症した7歳女児. 第264回プライマリーケアカンファランス. 2014.3.27 (久留米)
4. 荒木潤一郎、竹内孝仁. インフルエンザA型に合併した鑄型気管支炎7歳男児. 第264回プライマリーケアカンファランス. 2014.3.27 (久留米)
5. 嶽間澤昌史、横地賢興. プレベナー接種済みの肺炎球菌(血清型15C)性髄膜炎1歳女児. 第264回プライマリーケアカンファランス. 2014.3.27 (久留米)
6. 深水航、喜多村美幸. けいれん出現4時間後にMRI上bright tree appearanceを呈した急性脳症2歳女児. 第264回プライマリーケアカンファランス. 2014.3.27 (久留米)
7. 横地賢興. 新生児におけるRSウイルス感染症78例の検討. 第117回日本小児科学会学術集会. 2014.4.11~4.13 (名古屋)
8. 坂口廣高、向井純平、竹内孝仁、嶽間澤昌史、石原潤、荒木潤一郎、松下美由紀、喜多村美幸、横地賢興、今城透、石堂雄毅、秋田幸大、大部敬三. 頻回再発型ネフローゼ症候群の加療中に後部可逆性白質脳症症候群(PRES)を発症した1例. 第479回日本小児科学会福岡地方会例会. 2014.4.19 (福岡)
9. 横地賢興. 痙攣重積後のけいれん重積型二相性脳症発症因子の検討. 第28回日本小児救急医学会学術集会. 2014.6.6 (横浜)
10. 中西未来. 夜間睡眠中の発作性吸気性呼吸困難で発症し、異なる原因であった喉頭痙攣の2例. 第28回日本小児救急医学会学術集会. 2014.6.6~6.7 (横浜)

- 1 1. 向井純平. カルニチン欠乏により横紋筋融解症、DIC、急性腎不全となり、CHDFを施行し1例. 第28回日本小児救急医学会学術集会. 2014.6.6 (横浜)
- 1 2. 喜多村美幸. 思春期女性の右側腹部痛 (Fitz-Hugh-Curtis 症候群). 第265回プライマリーケアカンファランス. 2014.7.31 (久留米)
- 1 3. 大坪一浩、竹内孝仁. 11回目の熱性けいれんで Hemiconvulsion-Hemiplegia 症候群を呈しMRIで片側性 bright tree appearance を認めた3歳男児. 第265回プライマリーケアカンファランス. 2014.7.31 (久留米)
- 1 4. 中山翔太、向井純平. 水痘罹患後、A群溶連菌による左前腕蜂窩織炎、菌血症、DICを来した2歳女児. 第265回プライマリーケアカンファランス. 2014.7.31 (久留米)
- 1 5. 坂本浩子、喜多村美幸. PFAPA 症候群 (Periodic Fever with Aphthous Pharyngitis and Adenitis) の診断は. 第265回プライマリーケアカンファランス. 2014.7.31 (久留米)
- 1 6. 坂本浩子、坂口廣高、屋宮清仁、松下美由紀、竹内孝仁、喜多村美幸、向井純平、横地賢興、中西未来、今城透、秋田幸大、大部敬三. PRES を発症した Henoch-Schonlein 紫斑病 (HSP) の1例. 第481回日本小児科学会福岡地方会例会. 2014.10.11 (福岡)
- 1 7. 今城透、後藤諒介. 著明な腹部膨満を呈した胃軸捻転症の4歳男児. 第266回プライマリーケアカンファランス. 2014.10.23 (久留米)
- 1 8. 横地賢賢、富田舞. 夜間睡眠中の頭痛嘔気を主訴としてもやもや病5歳女児. 第266回プライマリーケアカンファランス. 2014.10.23 (久留米)
- 1 9. 竹内孝仁、安田亮輔. PRES (posterior reversible encephalopathy syndrome) を合併したHSPの6歳男児. 第266回プライマリーケアカンファランス. 2014.10.23 (久留米)
- 2 0. 喜多村美幸、北城恵太郎. 瞳閉鎖が疑われた10歳女児. 第266回プライマリーケアカンファランス. 2014.10.23 (久留米)
- 2 1. 向井純平、進藤亮太. 痙攣重積で発症しMRIにて梗塞様病変を認めた無菌性髄膜炎の生後1カ月男児. 第266回プライマリーケアカンファランス. 2014.10.23 (久留米)
- 2 2. Takeuchi T, Eda K, Yanagi T, Seki Y, Mizuochi T. Zinc monotherapy in young pediatric patients with presymptomatic Wilson disease : long-term efficacy and safety. 2014 NASPGHAN Annual Meeting. 2014.10.23 (Atlanta, USA)

聖マリア病院新生児科

—学会・研究会—

1. 原宗嗣、山下裕史朗、松石豊次郎. SHANK3 遺伝子変異を同定した Rett 症候群. 第56回日本小児神経学会. 2014. 5. 29-31 (浜松)
2. 前田靖人、才津宏樹、岡田純一郎、岩田欧介、久野正、浦部大策、森内浩幸. 後天性 CMV 感染症と、IL-6 を中心とした高サイトカイン血症を併発した超低出生体重児の1例. 第50回日本周産期・新生児医学会. 2014. 7. 13-15 (浦安)

3. 田中祥一郎、才津宏樹、岡田純一郎、久野正、浦部大策. 母親血清と父親血小板の交差試験が診断に有用であった HPA-6b 抗体による新生児同種免疫性血小板減少症の一例. 第 50 回日本周産期・新生児医学会. 2014. 7. 13-15 (浦安)
4. 久野正、前田靖人、才津宏樹、岡田純一郎、浦部大策、津田兼之介、神田洋、前野泰樹、岩田欧介. 筑後地区における Baby Cooling Japan プロトコールによる低体温療法のアウトカム GMFCS を用いた簡易評価. 第 50 回日本周産期・新生児医学会. 2014. 7. 13-15 (浦安)
5. 前田靖人、岡田純一郎、才津宏樹、柳忠宏、関祥孝、木村昭彦、久野正、森内浩幸. 後天性 CMV 感染症が症候化した早産児において、胆汁鬱滞型肝障害が遷延した 1 例. 第 31 回日本小児肝臓研究会. 2014. 7. 19-20 (久留米)
6. 田中祥一郎、富田舞、田中ゆかり、才津宏樹、岡田純一郎、久野正. 消化管アレルギー 新生児・乳児消化管アレルギー13 例の臨床的検討. 第 51 回日本小児アレルギー学会. 2014. 11. 8-9 (四日市)
7. 田中ゆかり、田中祥一郎、才津宏樹、岡田純一郎、岩田欧介、久野正、浦部大策. 母親血清と父親血小板の交差試験が診断に有用であった HPA-6b 抗体による新生児同種免疫性血小板減少症の 1 例. 第 59 回日本未熟児新生児学会. 2014. 11. 10-12 (松山)
8. 田中祥一郎、田中ゆかり、才津宏樹、岡田純一郎、岩田欧介、久野正、浦部大策. 新生児・乳児消化管アレルギー15 例の臨床的検討. 第 59 回日本未熟児新生児学会. 2014. 11. 10-12 (松山)
9. 友永慎太郎、今村麻衣子、木下正啓、津田兼之介、田中祥一郎、才津宏樹、岡田純一郎、久野正、神田洋、前野泰樹、岩田欧介. 低体温療法におけるピットフォール検証 冷却パッドの選択で冷却の質は変わるか?. 第 59 回日本未熟児新生児学会. 2014. 11. 10-12 (松山)

北九州市立八幡病院小児救急センター

—発表論文—

1. 市川光太郎. 小児救急疾患アトラス「左肺動脈起始部異常 (Pulmonary sling) Emergency Care 27;62-63:2014
2. 市川光太郎. 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2012 看護師・研修医必携救急・ICU ですぐ役立つガイドライン BOOK
3. 市川光太郎. 気管支喘息治療・管理ガイドライン 2012 看護師・研修医必携 救急・ICU ですぐに役立つガイドラインこれだけ BOOK. Emergency Care 2014 年新春増刊;195-203:2014
4. 市川光太郎. 救急室で虐待を見逃さないために. 周産期医学 44;97-102:2014
5. 市川光太郎. 小児救急アトラス「虐待による頭部外傷」. Emergency Care 27;284-285:2014
6. 市川光太郎. 「頭をぶつけなければ頭蓋内出血は起こらない？」連載第 17 回「小児科と関連領域における常識を見直そう」. 小児内科 46;282-283:2014

7. 市川光太郎. クループ症候群 今日の臨床サポート. エルゼピア・ジャパン 2014
8. 市川光太郎. 被虐待児症候群 今日の臨床サポート. エルゼピア・ジャパン 2014
9. 市川光太郎. 児童虐待の防止等に関する法律 今日の臨床サポート. エルゼピア・ジャパン 2014
10. 市川光太郎. 小児救急疾患アトラス「食道狭窄」. *Emergency Care* 27;526-527:2014
11. 市川光太郎. 日本小児外科学会 50 周年記念に寄せて. 日本小児外科学会雑誌 50 周年記念誌 45-45:2014
12. 市川光太郎. 小児救急疾患アトラス「日本海裂頭条虫症」. *Emergency Care* 27;742-744:2014
13. 石原唯史. 神菌淳司. 松島卓哉. 市川光太郎. 小児痙攣に伴う高 CO2 血症に関する検討. 日本救急医学会雑誌 25;135-140:2014
14. 市川光太郎. 死亡事例から学ぶ. 平成 25 年度大阪府内保健師児童虐待予防研修プログラム I 講義録 38-57:2014
15. 市川光太郎. プラタナス「児童虐待増加の病理はどこにあるのか」. 日本医事新報 4707;1-1:2014
16. 市川光太郎. 小児救急疾患アトラス「先天性化骨性線維組織異形性症候群」. *Emergency Care* 27;952-954:2014
17. 市川光太郎. 虐待による乳幼児頭部外傷～揺さぶられ症候群 特集;けいれん・意識障害. 小児内科 46;1410-1413:2014
18. 長村敏生. 市川光太郎. 公費助成によるインフルエンザ菌 b 型、肺炎球菌ワクチン接種が小児細菌性髄膜炎および菌血症の発生に及ぼす影響. 日本臨床救急医学会雑誌 17;551-557:2014
19. 市川光太郎. 小児救急疾患アトラス「メッケル憩室バンドによる絞扼性イレウス」. *Emergency Care* 27;1158-1160:2014
20. 市川光太郎. 家庭における乳児期睡眠環境の実態調査と母親の意識調査. 日本小児救急医学会雑誌 13;356-365:2014
21. 石原唯史. 神菌淳司. 天本正乃. 市川光太郎. 蛋白漏出性胃腸炎を契機に診断された Budd-Chiari 症候群の小児例. 日本救急医学会雑誌 13;395-398:2014
22. 市川光太郎. 小児救急、よくある困った? その時どうする!. 日本小児科医会会報 48;24-29:2014
23. 市川光太郎. 小児救急疾患アトラス「先天性皮膚洞」. *Emergency Care* 28;48-51:2015

—著書—

1. 市川光太郎. 消化管異物. 2014 年・今日の治療指針～私はこうして治療している～ 1258-1259 医学書院 2014
2. 市川光太郎. 軽症対応時の注意点当直医のための小児救急ポケットマニュアル 30-34 中山書店 2014
3. 市川光太郎. 総監修: 赤ちゃんの病気&おうちケアガイド BOOK -ベネッセ 初版 2014 年 11 月
4. 市川光太郎. 「揮発油 (マニキュア除光液) 誤飲」連載「小児救急センター24 時」. ひよこクラブ No. 243 199-199 風韻社(株)ベネッセ 2014
5. 市川光太郎. 「鼻に異物が入った」連載「小児救急センター24 時」. ひよこクラブ No. 244

175-175 風讃社(株)ベネッセ 2014

6. 市川光太郎「腸重積」連載「小児救急センター24時」. ひよこクラブ No. 245 185-185 風讃社(株)ベネッセ 2014
7. 市川光太郎「中耳炎」連載「小児救急センター24時」. ひよこクラブ NO. 246 201-201 風讃社(株)ベネッセ 2014
8. 市川光太郎. 「熱中症」連載「小児救急センター24時」. ひよこクラブ No. 247 195-195 風讃社(株)ベネッセ 2014
9. 市川光太郎. 「チャイルドシートの誤使用」連載「小児救急センター24時」. ひよこクラブ No. 248 191-191 風讃社(株)ベネッセ 2014
10. 市川光太郎. 「クーハンからの転落」. ひよこクラブ No. 249 198-198 風讃社(株)ベネッセ 2014
11. 市川光太郎. 「ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群」連載「小児救急センター24時」. ひよこクラブ No. 250 219-219 風讃社(株)ベネッセ 2014
12. 市川光太郎「ピーナッツアナフィラキシー」連載「小児救急センター24時」. ひよこクラブ No. 251 185-185 風讃社(株)ベネッセ 2014
13. 市川光太郎「無呼吸発作」連載「小児救急センター24時」. ひよこクラブ No. 252;219-219 風讃社(株)ベネッセ 2014
14. 市川光太郎. 「揺さぶられ症候群」連載「小児救急センター24時」. ひよこクラブ No. 253;215-215 風讃社(株)ベネッセ 2014
15. 松島卓哉. 下痢. 当直医のための小児救急ポケットマニュアル 105-106 中山書店 2014

—講演・シンポジウム—

1. 市川光太郎. 小児救急疾患・突然死・児童虐待. 産業医科大学医学部 3 年生講義. 2014. 1. 8 (北九州)
2. 市川光太郎救命士国家試験対策～小児救急～. 公務員ビジネス専門学校特別講義. 2014. 1. 21 (福岡)
3. 市川光太郎. 外来で帰してはいけない子ども達. トヨタ記念病院臨床研修講演. 2014. 1. 22 (豊田)
4. 市川光太郎. 小児急性腹症～感染症を含めて～. 久留米小児感染症懇話会. 2014. 1. 31 (久留米)
5. 松島卓哉. 小児救急. 第 22 回全国救急隊員シンポジウム. 2014. 1. 31 (北九州)
6. 市川光太郎. 境界領域の小児救急疾患～事故予防も視野に入れて～. 下関市医師会平成 25 年度小児救急研修会. 2014. 2. 22 (下関)
7. 市川光太郎. 子ども達からの SOS の数々～いかに見出し、いかに向き合い、いかにつないでいくか!～. 倉敷中央病院児童虐待防止研修会. 2014. 2. 26 (倉敷)
8. 市川光太郎. 救急現場で遭遇する児童虐待. 第 2 回北九州 ER～CRITICAL CARE CONFERENCE. 2014. 3. 20 (北九州)
9. 市川光太郎. 知っておくべき小児救急医療のポイント「医療安全に結びつく小児科外来トリアージ」. MSD 小児科診療サポートビデオ. 2014. 4. 23 (北九州)
10. 市川光太郎. 救急外来で遭遇する児童虐待～いかに見つけ、向き合い、つなげるか～. 大牟田地区子ども健康フォーラム. 2014. 4. 26 (大牟田)
11. 市川光太郎. 日本小児科学会「地域振興小児科」推進業務説明日本小児科学会福岡地

- 方会・福岡県小児医療提供モデル案策定委員会. 2014. 5. 15 (福岡)
12. 市川光太郎. わが国における乳児の睡眠環境～乳児検診時の調査～. 特定非営利活動法人日本子ども政策研究推進機構理事会. 2014. 5. 31 (東京)
 13. 市川光太郎日本社会と子ども虐待. 福岡女学院看護大学特別講演. 6月3日 福岡市
 14. 今村徳夫. 夜尿症の初期診療. 若戸小児科医会. 2014. 6. 6 (北九州)
 15. 市川光太郎. 子どもの身体と心の発育～健康に育てよう!～. 平成26年度子育てふれあいセンター講習会. 2014. 6. 6 (北九州)
 16. 今村徳夫. 夜尿症の初期診療. 八幡小児科医会. 2014. 6. 12 (北九州)
 17. 市川光太郎. 吸気性喘鳴のピットホール症例. 愛媛県小児気管支喘息学術講演会. 2014. 6. 17 (松山)
 18. 市川光太郎. 小児突然死(SIDSを中心に)と児童虐待. 愛媛大学医学部4年生特別講義. 2014. 6. 17 (松山)
 19. 市川光太郎. 健全育成のための子どもの身体と心の発達の基礎知識. 直方植木保育園開演記念講演会. 2014. 6. 28 (直方)
 20. 市川光太郎. 救急現場で遭遇する児童虐待. 第8回長崎こども救急疾患研究会. 2014. 7. 4 (長崎)
 21. 市川光太郎. こどもの中毒. 久留米大学医学部3年生特別講義. 2014. 7. 8 (久留米)
 22. 市川光太郎. 小児救急疾患と子ども虐待. 久留米大学医学部看護学科2年生特別講義. 2014. 7. 8 (久留米)
 23. 市川光太郎. トリアージで見抜く小児救急疾患. みやこ保健協議会・行橋急患センター1周年記念講演会. 2014. 7. 10 (行橋)
 24. 市川光太郎. こどもの突然死と児童虐待. 久留米大学医学部4年生特別講義. 2014. 7. 15 (久留米)
 25. 中野慎也. 乳幼児パラインフルエンザ3型感染症の臨床像. 第508回北九州地区小児科医会7月例会. 2014. 7. 26 (北九州)
 26. 富田一郎. 医療的ケアを必要とする児童生徒の基礎疾患. 医療的ケア講演会. 2014. 7. 30 (北九州)
 27. 市川光太郎. 児童虐待にいかに関心するか～医療現場から見えてくるもの～福岡県精神保健福祉協議会平成26年度夏期講座. 2014. 7. 31 (春日)
 28. 市川光太郎. 乳幼児の虐待～AHT(SBS)に関して～. MSD小児科診療サポートビデオ研究会. 2014. 8. 5 (北九州)
 29. 市川光太郎. 周産期～乳幼児期の児童虐待の現状～大牟田市保健福祉部児童家庭課乳児健康診査医師研修会. 2014. 8. 19 (大牟田)
 30. 市川光太郎. 外来トリアージで見抜く小児救急疾患. 行橋京都保健医療研修会. 2014. 8. 20 (行橋)
 31. 市川光太郎. 小児救急疾患と突然死(SIDS)と児童虐待. 筑波大学医学部4年生特別講義. 2014. 9. 5 (つくば)
 32. 市川光太郎. 外来で帰してはいけない子ども達. 第10回泉州小児救急講演会特別講演. 2014. 9. 6 (堺)
 33. 市川光太郎. わが国の児童虐待の現状. 平成26年度児童養護施設吉敷愛児園職員研修会. 2014. 9. 13 (山口)
 34. 市川光太郎. 小児科外来における感染症対策. 第3回北九州地区小児科医会・スタッ

フセミナー. 2014. 9. 17 (北九州)

35. 市川光太郎. 小児救急の特徴と児童虐待の現状. 平成 26 年度消防大学救急科 (第 76 期生) 講義. 2014. 9. 19 (三鷹)
36. 市川光太郎. 周産期～乳幼児期の児童虐待の現状と課題～. 平成 26 年度石川県家庭児童局母子保健課講座. 2014. 9. 20 (金沢)
37. 市川光太郎. 小児救急、こんな時どうする!～その pitfall と Knack～. 高松市医師会急患センター 20 周年新築移転記念講演会. 2014. 10. 4 (高松)
38. 市川光太郎. 小児医療で遭遇する児童虐待の特徴とその対応. 東京慈恵医科大学病院子ども虐待対応チーム運営委員会主催講演会. 2014. 10. 17 (東京)
39. 市川光太郎. 小児救急医療における児童虐待の特徴とその対応. 東京医科歯科大学病院小児科 CPT 委員会講演会. 2014. 11. 11 (東京)
40. 松島卓哉. 第 1 印象が不良であった 2 例. 産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス. 2014. 11. 17 (北九州)
41. 市川光太郎. 小児救急医療と児童虐待. 仙台市立病院 CPT 委員会講演会. 2014. 11. 29 (仙台)
42. 市川光太郎. 小児救急疾患とその特徴. 九州救急救命士養成所講義. 2014. 12. 2 (北九州)
43. 天本正乃. これからの地域医療-地域における小児在宅医療の現状と期待. 小児等在宅医療支援 キックオフ会議 2014. 2014. 12. 7 (北九州)
44. 市川光太郎. 小児救急現場で遭遇する児童虐待の種類とその特徴. 九州救急救命士養成所講義. 2014. 12. 9 (北九州)
45. 市川光太郎. 思春期の子ども達はなぜ事件を起こすのか?～親は子どもにどう向き合うべきか?～. 第 65 回聖マリア医学会講演会. 2014. 12. 17 (久留米)

一座長

1. 市川光太郎. ワクチン接種と乳幼児の突然死. 第 20 回日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会. 2014. 3. 8 (大宮)
2. 市川光太郎. 「あの時私は・・・、働くママの 3. 1 1」. 平成 25 年度第 2 回日本小児科学会・小児救急市民公開フォーラム. 2014. 3. 15 (東京)
3. 市川光太郎. 「超高齢化社会を迎える 2025 年の小児医療を考える」. 第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 13 (名古屋)
4. 市川光太郎. BEAMS 研修セミナー. 日本子ども虐待医学研究会 BEAMS セミナー. 2014. 4. 19 (東京)
5. 市川光太郎. 一般演題「小児救急」. 第 17 回日本臨床救急医学会. 2014. 5. 31 (宇都宮)
6. 市川光太郎. 一般演題「災害医療」. 第 28 回日本小児救急医学会学術集会. 2014. 6. 6 (横浜)
7. 市川光太郎、林 逸. 「広域災害時に被災地の小児医療を守るために～JACHRI のチャレンジ～」. 第 28 回日本小児救急医学会学術集会. 2014. 6. 6 (横浜)
8. 松島卓哉. プライマリ・ケア①. 第 480 回日本小児科学会福岡地方会. 2014. 6. 14 (福岡)
9. 市川光太郎. 「患者と医療チームの安全を支えるノンテクニカルスキルースピールアップとリーダーシップ」. 第 3 回日本小児診療多職種協働研究会. 2014. 6. 22 (蒲田)

10. 市川光太郎. 「これからの総合小児救急医療～成人救急医との協働によるスキルアップを」. 第 42 回日本救急医学会総会. 2014. 10. 29 (福岡)
11. 岡島祥憲. 川崎病の季節性変動. 第 10 回麻生飯塚カンファレンス. 2014. 11. 14 (北九州)
12. 市川光太郎. 「電話対応でのポイントとコツ」. 福岡県医師会 #8000 講習会講演会. 2014. 11. 20 (福岡)
13. 市川光太郎. 「ワクチンの諸問題とこれからの課題」. 北九州地区小児感染症懇話会. 2014. 11. 21 (北九州)
14. 市川光太郎. 子どもの命を守るためにできること. 平成 26 年度第 1 回日本小児科学会・小児救急市民公開フォーラム in Kyoto. 2014. 11. 22 (京都)

—学会—

1. 市川光太郎. 周産期からの児童虐待対応. 日本産婦人科医会・長崎県産婦人科医会「児童虐待対策研修会」. 2014. 1. 12 (長崎)
2. 市川光太郎. 教育講演-3「小児救急の特徴」. 第 22 回全国救急隊員シンポジウム. 2014. 1. 30 (北九州)
3. 増井美苗、神菌淳司、村上珠菜、小林加奈、内海奈穂、苔口知樹、中野慎也、三浦義文、長嶺伸治、南川将吾、天本正乃、市川光太郎、田崎幸博. 小児救急センターにおける形成外科短期集中型研修の試みと課題. 第 13 回九州・沖縄小児救急医学研究会. 2014. 2. 8 (那覇)
4. 苔口知樹、神菌淳司、山本剛士、松島卓哉、志村紀彰、富田一郎、八坂龍広、金奉吉、山根浩昌、石橋紳作、今村徳夫、天本正乃、市川光太郎. 乳幼児発熱と全身性炎症反応性症候群第 13 回九州・沖縄小児救急医学研究会. 2014. 2. 8 (那覇)
5. 苔口知樹、神菌淳司、志村紀彰、山本剛士、八坂龍広、富田一郎、金奉吉、松島卓哉、山根浩昌、石橋紳作、今村徳夫、天本正乃、市川光太郎. 乳幼児発熱と全身性炎症反応症候群. 第 13 回九州・沖縄小児救急医学研究会. 2014. 2. 8 (那覇)
6. 南川将吾. 簡易迅速検査からみた小児咽頭扁桃炎診療の実態とその課題. 第 38 回八幡小児臨床懇話会. 2014. 3. 6 (北九州)
7. 竹井寛和. 良性反復性管内胆汁うっ滞症が強く疑われた乳児の 1 例. 第 38 回八幡小児臨床懇話会. 2014. 3. 6 (北九州)
8. 山本剛士. 診断までの臨床判断が遅れた壊疽性虫垂炎の要因解析. 第 38 回八幡小児臨床懇話会. 2014. 3. 6 (北九州)
9. 市川光太郎. わが国における睡眠環境の現状と保育園午睡時の対応. 第 20 回日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会. 2014. 3. 8 (大宮)
10. 蟻木聡子、市川光太郎. 遺糞症と不登校になった女兒への介入. 第 10 回日本小児心身医学会九州沖縄地方会. 2014. 3. 9 (久留米)
11. 苔口知樹、神菌淳司、富田一郎、八坂龍広、金奉吉、山根浩昌、石橋紳作、今村徳夫、天本正乃、市川光太郎. 突発性発疹と肺炎のバイタルサイン. 2005 年 SIRS 基準と新規 SIRS 基準の検討. 第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 11 (名古屋)
12. 南川将吾、神菌淳司、天本正乃、市川光太郎. 尿中クロール濃度測定による小児輸液管理. 第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 11 (名古屋)
13. 市川光太郎. 小児初期救急医療のパラダイムチェンジの必要性. 第 117 回日本小児科

学会学術集会・モーニング実践講座. 2014. 4. 12 (名古屋)

14. 神菌淳司、小野友輔、小野佳代、天本正乃、市川光太郎. 小児一過性頸椎椎間板石灰化症のシメチジン治療経験. 第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 12 (名古屋)
15. 三浦義文、神菌淳司、天本正乃、市川光太郎. けいれん発作時の高乳酸血症と高炭酸ガス血症. 第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 12 (名古屋)
16. 苔口知樹、神菌淳司、志村紀彰、山本剛士、八坂龍広、富田一郎、金奉吉、松島卓哉、山根浩昌、石橋紳作、今村徳夫、天本正乃、市川光太郎. 突発性発疹と肺炎のバイタルサイン ～2005 年 SIRS 基準と新規 SIRS 基準の検討～第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 11 (名古屋)
17. 山本剛士、神菌淳司、天本正乃、榎屋隆太、市川光太郎. 診断までの臨床診断が遅れた壞疽性虫垂炎の要因解析. 第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 13 (名古屋)
18. 市川光太郎. 北九州市における CDR、教育講演 25 「チャイルドデスレビューの確率を目指して」の追加発言. 第 117 回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 13 (名古屋)
19. 増井美苗、神菌淳司、村上珠菜、小林加奈、内海奈穂、苔口知樹、中野慎也、三浦義文、長嶺伸治、南川将吾、天本正乃、市川光太郎. 小児救急センターにおける形成外科短期集中型研修の試みと課題. 第 479 回日本小児科学会福岡地方会例会. 2014. 1. 19 (福岡)
20. 岡島祥憲、神菌淳司、志村紀彰、八坂龍広、富田一郎、金奉吉、松島卓哉、山根浩昌、今村徳夫、石橋紳作、天本正乃、市川光太郎. 小児下肢骨折の特徴と亜急性期疼痛管理の実態調査. 第 479 回日本小児科学会福岡地方会例会. 2014. 1. 19 (福岡)
21. 小林加奈、神菌淳司、竹井寛和、富田一郎、山本剛士、天本正乃、市川光太郎. 後部可逆性白質脳症症候群(Posterior Reversible Encephalopathy Syndrome PRES)を発症したフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病の 10 歳女児例. 第 479 回日本小児科学会福岡地方会例会. 2014. 1. 19 (福岡)
22. 増井美苗、神菌淳司、市川光太郎. 小児救急における形成外科短期集中型研修の試みと課題. 日本小児科学会福岡地方会. 2014. 1. 19 (福岡)
23. 苔口知樹、神菌淳司、志村紀彰、西野裕、天本正乃、市川光太郎. 川崎病における体温上昇に応じた心拍数、呼吸数増加率と臨床応用. 第 13 回九州川崎病研究会. 2014. 5. 31 (鹿児島)
24. 苔口知樹、神菌淳司、増井美苗、山本剛士、松島卓哉、志村紀彰、富田一郎、八坂龍広、金奉吉、山根浩昌、石橋紳作、今村徳夫、天本正乃、市川光太郎. 川崎病における心拍数・呼吸数増加 疾患特異性と臨床応用. 第 13 回九州川崎病研究会. 2014. 5. 31 (鹿児島)
25. 苔口知樹、神菌淳司、増井美苗、富田一郎、金奉吉、松島卓哉、山根浩昌、石橋紳作、今村徳夫、市川光太郎. 乳幼児発熱における心拍数・呼吸数増加の疾患特異性と臨床応用. 第 28 回日本小児救急医学会. 2014. 6. 6 (横浜)
26. 内海奈穂、神菌淳司、市川光太郎. 緊急処置を要した乳幼児手指外傷の受傷機転解析と重点的予防対策. 第 28 回日本小児救急医学会. 2014. 6. 6 (横浜)
27. 橋本優子、梶原多恵、崎田幾子. 地域の子どもと保護者への子育て支援. 第 28 回日本小児救急医学会. 2014. 6. 6 (横浜)
28. 苔口知樹、神菌淳司、竹井寛和、石橋紳作、富田一郎、松島卓哉、山根浩昌、今村徳夫、天本正乃、市川光太郎. 小児肘内障に対する超音波診断と「滑膜ひだの嵌入・巨大

- 化」の有用性第 28 回日本小児救急医学会. 2014. 6. 6 (横浜)
29. 岡島祥憲、神菌淳司、増井美苗、三浦義文、志村紀彰、八坂龍広、富田一郎、松島卓哉、天本正乃、市川光太郎. 小児下肢骨折の亜急性期疼痛管理の実態と指針作成第 28 回日本小児救急医学会. 2014. 6. 6 (横浜)
 30. 苔口知樹、神菌淳司、竹井寛和、石橋紳作、富田一郎、松島卓哉、山根浩昌、今村徳夫、天本正乃、市川光太郎. 小児肘内障に対する超音波診断と「滑膜ひだの陥入(巨大化)」所見の有用性. 第 28 回日本小児救急医学会学術集会. 2014. 6. 6 (横浜)
 31. 内海奈穂、神菌淳司、松島卓哉、市川光太郎. 緊急処置を要した乳幼児手指外傷の受傷機転解析と重点的予防対策. 第 28 回 日本小児救急医学会. 2014. 6. 6 (横浜)
 32. 苔口知樹、神菌淳司、増井美苗、山本剛士、松島卓哉、志村紀彰、富田一郎、八坂龍広、金奉吉、山根浩昌、石橋紳作、今村徳夫、市川光太郎. 乳幼児発熱における心拍数・呼吸数の増加 疾患特異性と臨床応用. 第 28 回日本小児救急医学会学術集会. 2014. 6. 6 (横浜)
 33. 増井美苗、神菌淳司、市川光太郎、小林加奈、内海奈穂、苔口知樹、中野慎也、田崎幸博. 小児救急における形成外科短期集中型研修の試みと課題日本小児救急学会. 2014. 6. 7 (横浜)
 34. 中野慎也、神菌淳司、松島卓哉. 市川光太郎小児早期警告スコアリングシステムは ICU 転倒症例の予後を改善したか. 日本小児救急学会. 2014. 6. 7 (横浜)
 35. 村上珠菜. 乳幼児身体的虐待との鑑別を要した骨形成不全症(特型)の 3 例. 日本小児救急学会. 2014. 6. 7 (横浜)
 36. 松島卓哉、小倉憲一、田中行夫. 日本 ACLS 協会における小児蘇生教育コースの展開第 28 回日本小児救急医学会. 2014. 6. 7 (横浜)
 37. 梶原多恵、安成康介、古賀隆太、永井文恵、村田光代、神菌淳司、市川光太郎. 入院待機症例に対する緊急度評価の実態と ER-病棟連携の課題. 第 28 回日本小児救急医学会. 2014. 6. 7 (横浜)
 38. 中野慎也、神菌淳司、竹井寛和、富田一郎、三浦義文、松島卓哉、市川光太郎. 小児早期警告スコアリング・システム導入は ICU 転倒症例の予後を改善したか第 28 回日本小児救急医学会. 2014. 6. 7 (横浜)
 39. 村上珠菜、神菌淳司、竹井真理、岡島祥憲、天本正乃、市川光太郎. 乳幼児身体的虐待との鑑別を要した骨形成不全症 I 型の 3 例. 第 28 回日本小児救急医学会. 2014. 6. 7 (横浜)
 40. 市川光太郎. 脳死下臓器提供と児童虐待. 第 28 回日本小児救急医学会脳死判定セミナー. 2014. 6. 8 (横浜)
 41. 市川光太郎. 教育講演 2「小児救急、よくある困った～その時どうする!」. 第 25 回日本小児科医会総会フォーラム. 2014. 6. 15 (盛岡)
 42. 市川光太郎. 家庭看護力養成指導マニュアルについて. 第 25 回日本小児科医会総会フォーラム・小児救急医療委員会. 2014. 6. 15 (盛岡)
 43. 三浦義文、松島卓哉、神菌淳司、市川光太郎. 当院で経験したヒトメタニューモウイルス感染症の検討. 第 41 回北九州小児感染症懇話会・第 507 回北九州地区小児科医会例会. 2014. 6. 20 (北九州)
 44. 市川光太郎. 児童虐待は何故増えるのか?. 第 3 回日本小児診療多職種協働研究会、ワークショップ-1. 2014. 6. 21 (町田)

45. 三浦義文、天本正乃、市川光太郎. 亜急性に症状が進行し特異な MRI 所見を認め急性脳症と診断した 14 歳女児例. 第 39 回八幡小児臨床懇話会. 2044. 7. 9 (北九州)
46. 福田信也、神菌淳司、志村紀彰、岡島祥憲、八坂龍広、富田一郎、松島卓哉、金奉吉、山根浩昌、石橋紳作、今村徳夫、天本正乃、市川光太郎. 初期対応に迷った食道下部硬貨誤飲の 2 例. 第 39 回八幡小児臨床懇話会. 2044. 7. 9 (北九州)
47. 三浦義文、神菌淳司、志村紀彰、岡島祥憲、八坂龍広、富田一郎、松島卓哉、金奉吉、山根浩昌、石橋紳作、今村徳夫、天本正乃、市川光太郎. 小児 MRI 検査時の静脈内鎮静に関する実態調査と安全管理体制の整備. 第 14 回九州沖縄小児救急医学研究会. 2014. 8. 23 (大分)
48. 福田信也、神菌淳司、志村紀彰、岡島祥憲、八坂龍広、富田一郎、松島卓哉、金奉吉、山根浩昌、石橋紳作、今村徳夫、天本正乃、市川光太郎. 小児外傷性碑損傷における画像診断のピットホールと治療戦略の実態. 第 14 回九州沖縄小児救急医学研究会. 2014. 8. 23 (大分)
49. 小林加奈、神菌淳司、富田一郎、天本正乃、市川光太郎. ワクチン接種後にアナフィラキシーを呈した生後 2 ヶ月の男児例. 第 40 回八幡小児臨床懇話会. 2014. 9. 9 (北九州)
50. 苔口知樹、神菌淳司、市川光太郎. 来院時 Initial impression が不良であった Uro-sepsis の 1 例. 第 40 回八幡小児臨床懇話会. 2014. 9. 9 (北九州)
51. 内海奈穂、神菌淳司、松島卓哉、市川光太郎. 緊急処置を要した乳幼児手指外傷～受傷機転解析と重点的予防対策～. 第 40 回八幡小児臨床懇話会. 2014. 9. 9 (北九州)
52. 松島卓哉. 5 月に発生した熱中症の 2 歳男児例. 第 38 回北九州ショックカンファレンス. 2014. 9. 19 (北九州)
53. 三浦義文、神菌淳司、小林加奈、福田信也、岡島祥憲、松島卓哉、市川光太郎. 小児 MRI 検査時の静脈内鎮静に関する実態調査と安全管理体制の整備. 第 42 回日本救急医学会総会. 2014. 10. 28 (福岡)
54. 苔口知樹、神菌淳司、市川光太郎. 体温上昇に応じた心拍数・呼吸上昇率による SIRS 基準の作成と検証. 第 42 回日本救急医学会総会. 2014. 10. 28 (福岡)
55. 小林加奈、神菌淳司、富田一郎、天本正乃、市川光太郎. 小児急性腎障害 Acute Kidney Injury と血清クレアチニン異常高値. 第 42 回日本救急医学会総会. 2014. 10. 28 (福岡)
56. 内海奈穂、神菌淳司、岡島祥憲、松島卓哉、市川光太郎. 小児外傷性脾損傷の受傷機転と仮性嚢胞形成因子の解析. 第 42 回日本救急医学会総会. 2014. 10. 28 (福岡)
57. 福田信也、神菌淳司、天本正乃、市川光太郎. 小児外傷性脾損傷における画像診断のピットホールと治療戦略の実態. 第 42 回日本救急医学会総会. 2014. 10. 28 (福岡)
58. 増井美苗、神菌淳司、市川光太郎. 小児外傷遠隔画像共有システムを利用した専門診療医師との時間外連携. 第 42 回日本救急医学会総会. 2014. 10. 28 (福岡)
59. 苔口知樹、神菌淳司、市川光太郎. 体温上昇に応じた心拍数・呼吸数上昇率による SIRS 基準の作成と検証. 第 42 回日本救急医学会総会・学術集会. 2014. 10. 28 (福岡)
60. 増井美苗、神菌淳司、市川光太郎. 小児外傷遠隔画像共有システムを利用した専門診療医との時間外連携. 第 42 回日本救急医学会総会・学術集会. 2014. 10. 28 (福岡)
61. 内海奈穂、神菌淳司、松島卓哉、岡島祥憲、市川光太郎. 小児外傷性脾損傷の受傷機転と仮性嚢胞形成因子の解析. 第 42 回日本救急医学会総会・学術集会. 2014. 10. 28 (福岡)

62. 中野慎也、神菌淳司、富田一郎、松島卓哉、天本正乃、市川光太郎. タブレット端末による小児早期警告システム PEWS の情報共有とその課題. 第 42 回日本救急医学会総会. 2014. 10. 29 (福岡)
63. 長嶺伸治、志村紀彰. 頸部膿瘍に合併した川崎病 2 症例. 第 34 回日本川崎病学会・学術集会. 2014. 10. 31 (東京)
64. 市川光太郎. 小児救急現場で遭遇する児童虐待～いかに見出し、いかに向き合い、いかにつないでいくか～. 第 120 回日本小児科学会甲信地方会特別講演. 2014. 11. 21 (松本)
65. 長嶺伸治. 当院での過去 10 年間の川崎病の季節性変動について. 第 10 回麻生飯塚カンファレンス. 2014. 11. 14 (北九州)
66. 市川光太郎. 応急処置と傷害予防. 日本小児科学会・第 6 回園医、看護職、保育士のための研修会. 2014. 11. 16 (福岡)
67. 市川光太郎. なぜ、児童虐待は増えるのか?～救急現場から見えるもの～. 日本小児救急医学会教育研修セミナー・第 5 回井の頭セミナー医師会講演. 2014. 12. 7 (東京)
68. 苔口知樹、神菌淳司、福田信也、岡島祥憲、志村紀彰、八坂龍広、富田芳江、富田一郎、金奉吉、松島卓哉、山根浩昌、石橋紳作、今村徳夫、天本正乃、市川光太郎. 寛解導入療法中に脳性塩類喪失症候群を合併した急性リンパ性白血病の 10 歳男児. 第 482 回日本小児科学会福岡地方会例会. 2014. 12. 13 (福岡)
69. 村上珠菜. 小児期縦隔気腫の要因分析と治療管理. 日本小児科学会福岡地方会. 2014. 12. 13 (久留米)
70. 中野慎也、松島卓哉、今村徳夫、神菌淳司、市川光太郎. 北九州市で集団発生した細菌性赤痢の臨床像と感染防御対策の課題. 日本小児科学会福岡地方会例会. 2014. 12. 13 (久留米)

—その他—

1. 市川光太郎. 急性腹症死亡例の脱水輸液療法に対する意見書、名古屋・増田弁護士事務所. 2014. 1. 18
2. 松島卓哉. PALS インストラクター参加、2014. 2. 8-9 (鹿児島)
3. 市川光太郎. AHT(SBS)の鑑定意見書作成、鹿児島県警察. 2014. 2. 20
4. 市川光太郎. 急性脳症症例に関する意見書作成、名古屋・堀弁護士事務所. 2014. 3. 14
5. 市川光太郎. 急性硬膜下血腫における人為的受傷か自然外傷かにおける鑑別方法、鹿児島地方検察庁梶検事. 2014. 4. 15
6. 松島卓哉. PALS インストラクター参加. 2014. 5. 24-25 (北九州)
7. 市川光太郎. 10 か月児の急性硬膜下血腫が人為的か偶発性かの相談. 福岡子ども総合センター. 2014. 6. 12
8. 市川光太郎. AHT による急性硬膜下血腫の特徴について. 飯塚警察署. 2014. 6. 13
9. 松島卓哉. PALS インストラクター参加. 2014. 7. 19-20 (北九州)
10. 富田一郎. 特別支援学校における医療的ケア検討会議. 2014. 6. 19 (北九州)
11. 市川光太郎. ベビーシッター幼児殺人事件における死因診断鑑定書作成. 横浜地方検察庁. 2014. 8. 12
12. 市川光太郎. キッズスタディオン業務上過失致死事件の意見書作成①. 大阪府警察署. 2014. 8. 13

13. 富田一郎. 特別支援学校における医療的ケア検討会議. 2014. 8. 27 (北九州)
14. 市川光太郎. AHT 機序・時期の医学的判断による意見書作成. 福岡市子ども未来局子ども総合相談センター子ども緊急支援. 2014. 9. 4
15. 松島卓哉. PALS インストラクター参加. 2014. 9. 20-21 (北九州)
16. 市川光太郎. キッズスタディオン業務上過失致死事件の意見書作成②. 大阪府警察署. 2014. 10. 6-7
17. 市川光太郎. ベビーシッター幼児殺人事件における死因診断鑑定書作成②. 横浜地方検察庁. 2014. 10. 18
18. 松島卓哉. これから流行るウイルス感染症. 2014. 10. 24 ICT 講習会 (院内)
19. 市川光太郎. 生後 1 か月 AHT 症例鑑定書作成①. 熊本県警察熊本北署. 2014. 11. 6
20. 市川光太郎. 生後 10 か月 AHT 症例鑑定書作成①. 鹿児島県警鹿屋警察署. 2014. 11. 18
21. 松島卓哉. BLS インストラクター参加. 2014. 11. 29 (福岡)
22. 市川光太郎. 生後 1 か月 AHT 症例鑑定書作成②. 熊本県警察熊本北署. 2014. 12. 4
23. 市川光太郎. 生後 3 か月 AHT 鑑定書作成①. 鹿児島県警川内警察署. 2014. 12. 5
24. 松島卓哉. 第 5 回日本小児救急医学会井の頭教育セミナー. ファシリテーター参加. 2014. 12. 6-7 (三鷹)

— 班会議 —

【厚労省研究班研究事業報告書】

1. 市川光太郎. 「保育園における乳児期睡眠(午睡)環境の現状とそれに関する保育園園長の意識調査」平成 25 年厚生労働科学研究補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤)「乳幼児突然死症候群(SIDS)における病態解明と臨床的対応および予防法開発とその普及啓発に関する研究」(班長; 戸荻 創、分担研究: 小児救急医療現場における SIDS(突然死)症例に対する理想的対応に関する調査研究、平成 25 年分担研究報告書、p 13-p 27、2014
2. 市川光太郎. 「家庭における乳児期睡眠環境に実態調査とそれに関する母親の意識調査」平成 25 年厚生労働科学研究補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤)「乳幼児突然死症候群(SIDS)における病態解明と臨床的対応および予防法開発とその普及啓発に関する研究」(班長; 戸荻 創、分担研究: 小児救急医療現場における SIDS(突然死)症例に対する理想的対応に関する調査研究、平成 25 年分担研究報告書、p 28-p 39、2014
3. 市川光太郎. 「ALTE の定義変更と SIDS 問診・チェックリストの変更及び記入要領の策定、そして保育園午睡環境調査と乳児期睡眠環境調査」平成 23・24・25 年厚生労働科学研究補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤)「乳幼児突然死症候群(SIDS)における病態解明と臨床的対応および予防法開発とその普及啓発に関する研究」(班長; 戸荻 創、分担研究: 小児救急医療現場における SIDS(突然死)症例に対する理想的対応に関する調査研究、平成 23・24・25 年分担研究統括報告書
4. 市川光太郎. 【厚労省関係研究事業】厚労省医薬食品局審査管理課・安全対策課: 平成 24 年度安全対策課支出委任事業. 突然死とワクチンとの関係についての調査研究会議・委員. 2013. 1. 31、3. 8、6. 1
5. 市川光太郎. 厚労省雇用均等・児童家庭局母子保健課: 児童虐待防止医療ネットワーク事業に関する有識者会議・委員. 2013. 2. 6、4. 24、2014. 2. 24

飯塚病院

—発表論文・著書—

1. 岩元二郎. 当直の業務. 小児科研修ノート : 201-202. 2014.7

—学会・研究発表—

1. 近藤里香子. 当院におけるレベチラセタム（商品名イーケプラ）の症例. 第 249 回筑豊小児科医会勉強会. 2014.1.23（飯塚）
2. 原田英明. 新生児蘇生法（NCPR）の最新の知見と当院での取り組み. 第 36 回筑豊周産期懇話会. 2014.2.26（飯塚）
3. 岩元二郎. 飯塚病院における重症児の ICU ケアの現状. 第 251 回筑豊小児科医会勉強会. 2014.3.20（飯塚）
4. 原田英明. 飯塚病院総合周産期母子医療センター新生児部門の今後の展望～極低出生体重児、新生児仮死を中心に～. 第 252 回筑豊小児科医会勉強会. 2014.4.23（飯塚）
5. 赤岩喬. 飯塚病院小児病棟における重症反復性尿路感染症の 2 例. 第 33 回筑豊感染症懇話会. 2014.5.14（飯塚）
6. 石川太平、柳垣充. 飯塚病院小児病棟での印象に残った 2 症例. 第 254 回筑豊小児科医会勉強会. 2014.5.21（飯塚）
7. 嶽間澤昌史. 新生児低血糖症の一例. 第 37 回筑豊周産期懇話会. 2014.6.18（飯塚）
8. 石原潤. 飯塚病院における高血糖と高乳酸血症の症例検討. 第 10 回小児救急医療カンファレンス. 2014.6.27（北九州）
9. 岩元二郎、神田洋、大矢崇志、関祥孝、湯川知秀、桑原浩徳、嶽間澤昌史、石原潤、古賀木綿子、松石登志哉、中村晶俊、賀来典之. 虐待拠点病院指定後に経験した AHT (Abusive Head Trauma) の 3 例～虐待拠点病院としての虐待対応チームの関わり～. 第 14 回九州・沖縄小児救急医学研究会. 2014.8.23
10. 嶽間澤昌史、安田亮輔、松石登志哉、石原潤、桑原浩徳、古賀木綿子、湯川知秀、関祥孝、大矢崇志、原田英明、神田洋、岩元二郎. ラトケ嚢胞により低血糖を引き起こした 1 例. 第 14 回九州・沖縄小児救急医学研究会. 2014.8.23
11. 岩元二郎. 障害児と家族を支える医療 ～レスパイト入院の取り組みから～. 第 10 回福岡の医療と教育を考える会. 2014.9.6（久留米）
12. 時津晴美. 飯塚病院における小児レスパイトの開設とその後の活動. 第 10 回福岡の医療と教育を考える会. 2014.9.6（久留米）
13. 新道悠、松石登志哉、嶽間澤昌史、古賀木綿子、石原潤、湯川知秀、大矢崇志、神田洋、岩元二郎. 抗菌薬未使用にて偽膜性腸炎を発症した 8 歳男児の 1 例. 第 481 回日本小児科学会福岡地方会. 2014.10.11（福岡）
14. 新道悠. 抗菌薬未使用にて偽膜性腸炎を発症した 8 歳男児の 1 例. 第 34 回筑豊感染症懇話会. 2014.10.29（飯塚）
15. 岩元二郎. マイコプラズマ肺炎の過去 5 年間入院症例の実態 —トシル酸トスフロキサシン登場による波及効果—. 第 259 回筑豊小児科医会勉強会. 2014.11.12（飯塚）

16. 松石登志哉、嶽間澤昌史、石原潤、八戸由佳子、湯川知秀、古賀木綿子、大矢崇志、大園秀一、神田洋、岩元二郎. 飯塚病院小児科における川崎病の季節内変動. 第 11 回小児救急医療カンファレンス. 2014.11.14 (北九州)
17. 岩元二郎. 「虐待拠点病院」および「総合周産期母子医療センター」としての周産期からの虐待予防. 第 38 回筑豊周産期懇話会. 2014.11.20 (飯塚)
18. 岩元二郎、神田洋、大矢崇志、湯川知秀、石原潤、古賀木綿子、松石登志哉、嶽間澤昌史、桑原浩徳、関祥孝. 福岡県の虐待拠点病院としての飯塚病院の現状と課題. 第 114 回九州医師会医学会. 2014.11.22～2014.11.23 (大分)
19. 松岡知美. 周産期予防システム ―揺さぶられっ子症候群予防からできること―. 第 26 回宮崎県小児保健学会. 2014.12.7 (宮崎)
20. 古賀木綿子、松石登志哉、嶽間澤昌史、石原潤、八戸由佳子、湯川知秀、大園秀一、大矢崇志、神田洋、岩元二郎. 当院における医療施設外分娩 19 例の検討. 第 482 回日本小児科学会福岡地方会. 2014.12.13 (久留米)

—講演—

1. 岩元二郎. 児童虐待に対する新たな取り組み ～福岡県の「虐待拠点病院」としての組織的対応. 第 26 回宮崎県小児保健学会. 2014.12.7 (宮崎)

公立八女総合病院

—学会・研究発表—

1. 須田正勇、下村豪、田中祥一郎. HPA-6b 抗体による新生児同種免疫性血小板減少症の 1 例. 第 479 回日本小児科学会福岡地方会. 2014. 4. 19 (福岡)
2. 下村豪、須田正勇、田中祥一郎. 当院における産婦への予防接種教育とアンケートに関する検討. 第 479 回日本小児科学会福岡地方会. 2014. 4. 19 (福岡)

筑後市立病院

—講演—

1. 中島正幸. 当院における ADHD の診断と支援・治療 ～地域で支援・治療していくための試み～. 筑後発達障害研究会. 2014.3.27 (柳川)
2. 中島正幸. こどもの健康 Q&A ～救急・ワクチン・気になるお子さんの話～. 2014. 12. 9 (八女)

同門業績

武谷茂

—著書—

1. 武谷茂. 初期印象診断～水も電気も情報もない臨床現場の力～. 日本小児科医会会報 第48号. 21-23;2014.10
2. 武谷茂. 臨床医の勘を育てる～検証による経験症例を蓄積する～. 外来小児科、第17巻、日本外来小児科学会. 投稿中. 2014

—講演—

1. 武谷茂. 小児プライマリ・ケア看護. 久留米大学看護学科・特別講義. 2014.1.23 (久留米)
2. 武谷茂. 小児医療における医療安全. 第366回大分小児科医会学術講演会. アルメイダ病院・研修会館. 2014.2.26 (大分)
3. 武谷茂. 麻疹児のあの顔を思い出そう. 第16回九州外来小児科研究会. 佐賀市アバンセ. 2014.3.16 (佐賀)
4. 武谷茂. 印象診断の実際と有用性. 第4回やまびこ会. 沖縄ネストホテル那覇. 2014.3.20 (沖縄)
5. 武谷茂. 小児医療ミスとトラブル. 久留米大学小児科講座・後期研修オリエンテーション. 久留米大学小児病棟カンファランス室. 2014.4.2 (久留米)
6. 武谷茂. 初期印象診断、慢性疾患の早期発見. 久留米大学小児科講座・後期研修オリエンテーション. 2014.4.10 (久留米)
7. 武谷茂. 腎臓疾患のプライマリ・ケア. 久留米大学小児科・腎臓グループカンファランス. 2014.4.30 (久留米)
8. 武谷茂. 初期印象診断の実際～水も電気も情報もない医療現場の力～. 第25回日本小児科医会・総合フォーラム. 盛岡市民文化ホール・マリオス. 2014.6.15 (盛岡)
9. 武谷茂. ワークショップ「命は何か」を考える. 南薫小学校4年生・親子学習会. 久留米市南薫小学校せんだんホール. 2014.9.19 (久留米)
10. 武谷茂. 子どものこころと身体. 南薫小学校4年生・保護者学習会. 南薫小学校せんだんホール. 2014.9.19 (久留米)
11. 武谷茂: 将来、医師や医療職を目指す君たちへ. 中学校医進コース・特別講義. 久留米信愛女学院中学部. 多目的ホール. 2014.10.2 (久留米)
12. 武谷茂. 直感的診断(判断)能力の復活. 第9回久留米大学小児科学教室・ブラッシュアップ・セミナー. ホテル創世. 2014.10.8 (久留米)
13. 武谷茂. 小児診療の勘を育てる. 第40回日本外来小児科学会・教育検討会. 名古屋市立大学医学部会議室. 2014.10.12 (名古屋)
14. 武谷茂: コモンディゼーズが妖怪に変身する (Common disease の急性増悪・合併症実例). 久留米大学 GR プライマリ・ケアシリーズ. 大学小児病棟カンファランス室. 2014.11.7 (久留米)
15. 武谷茂. 医療従事者は健康を支える人～そのやりがいと喜び. 子ども医学部. 久留米

- 市六ッ門、アード商店街 A 教室. 2014. 11. 3 (久留米)
16. 武谷茂. 慢性疾患の早期発見と対応. 第 9 回久留米大学小児科学教室・ブラッシュアップ・セミナー. ホテル創世. 2014. 11. 13 (久留米)
 17. 武谷茂. 女性として仕事に夢を託す. 久留米信愛女学院中学校・進路講演会. 校内多目的ホール. 2014. 11. 20 (久留米)

—久留米大学医学部 5 学年小児科臨床実習 CCS のプライマリ・ケア教育—

1. ミニ・レクチャー (少人数講義). 武谷茂、江口春彦. 各自 10 回ずつ
2. 小児科クリニックにおけるプライマリ・ケア実習. 井上謙吉、江口春彦、阪田保隆、田中地平、長井健祐、日吉保彦、本間真一、吉永陽一郎. 各自 10 数回ずつ、伊藤雄平 (11 月より)

加藤裕久

—著書—

1. 加藤裕久. 川崎病血管炎の自然歴. 日本臨床 2014;72:1530-1535
2. 加藤 裕久. 川崎病心血管障害の自然歴. 小児科臨床ピクシス 川崎病のすべて (五十嵐、石井編). 中山書店 東京 2014
3. 藤本保、加藤裕久、牧野桂一、菊池朋子著. 「うまくできないことや発達につまずきが障がいにならないために」療育や支援の意味. エイデル研究所 東京 p1-160:2014

—学会—

1. 加藤裕久. 世界の Pediatric Cardiology と日本小児循環器学会のあゆみ. 第 50 回日本小児循環器学会 50 周年記念特別講演. 2014.7 (岡山)

松浦伸郎

—学会—

1. 松浦伸郎. 第 10 回保育園保健協議会全国研修会. 2014.5.11 (神戸)
2. 松浦伸郎、川島崇、及川馨. 日本外来小児科学会. WS「予防接種の法令を理解する」- 法の専門家を囲んで. 2014.8.31 (大阪)
3. 内田勇人、松浦伸郎. 小学 1 年生から中学 3 年生までの 9 年間における体格の変化. 第 73 回日本公衆衛生学会. 2014.11.6 (宇都宮)

—新聞・報告—

1. 松浦伸郎. 神戸新聞カルテ Q & A / 敗血症の再発 / 発症の原因把握し対策を. 2014. 7. 17
2. 松浦伸郎. 第 10 回全国研修会を開催して. 保育と保健. 20-2-2 P82
3. 松浦伸郎. 医師会活動について. 姫路市医師会報. 3-5 2015.1.1

—講演—

1. 松浦伸郎. 眠りについて. 2014.3.5 (姫路)
2. 松浦伸郎. インフルエンザ対策. 2015.1.21 (姫路)
3. 松浦伸郎. 食物アレルギーについて. 2014.7.18 (姫路)
4. 松浦伸郎. 予防接種とワクチン. 2014.9.30 (姫路)

吉永陽一郎

—論文—

1. アドボカシーをすすめよう. 子育て支援のあり方. 外来小児科. 2014. 196-199

—著書—

1. 吉永陽一郎. うんちが変. Baby-mo 赤ちゃんの病気大全科. 主婦の友正勝つシリーズ
2014. 20-22
2. 吉永陽一郎. 保育施設 (障害児施設) におけるタッチケアの広がり. 助産雑誌 (68). 医学書院. 2014. 604-606
3. 吉永陽一郎. 心配うんちチェックシート. ひよこクラブ 9月号. 株式会社風讀社. 2014. 9
4. 吉永陽一郎. 育児情報を共有する. 総合小児医療カンパニア. 連携する小児医療. 中山書店. 2014. 6-11
5. 吉永陽一郎. タッチケアの広がりとその意義. チャイルドヘルス (17). 診断と治療社
2014. 748-750

—企画・編集—

1. 吉永陽一郎. タッチケア～その効果と実際. チャイルドヘルス (17) 11月号. 診断と治療社 2014

—講演—

1. 吉永陽一郎. 予防接種. アステラス製薬社内研修. 2014. 1. 15 (久留米)
2. 吉永陽一郎. 感染症と予防接種. GSK 社内研修. 2014. 3. 12 (久留米)
3. 吉永陽一郎. 子育ては微笑んでばかりはいられない そばにいる人は誰?. 児童相談所児童虐待防止セミナー. 2014. 3. 13 (大牟田)
4. 吉永陽一郎. タッチケアの手技と広がり. タッチケア指導者講習会. 2014. 3. 16 (仙台)
5. 吉永陽一郎. アレルギーとエピペン. 荘島幼稚園保育士研修. 2014. 4. 3 (久留米)
6. 吉永陽一郎. 保育所から始まる育児支援とタッチケア. 石川県子育て支援研修.
2014. 6. 8 (金沢)
7. 吉永陽一郎. 感染症・予防接種・その他の病気. 直方市保育協会研修会. 2014. 9. 4
(直方)
8. 吉永陽一郎. タッチケア. 松永小児科職員研修. 2014. 10. 9 (福津)
9. 吉永陽一郎. 3歳児健診. 日本小児科医会乳幼児健診講習会. 2014. 10. 19 (福岡)
10. 吉永陽一郎. 愛着形成. みやき町子育てボランティア養成講座. 2014. 10. 23 (三養基)

郡)

11. 吉永陽一郎. 小児科の魅力 低学年向け・高学年向け. ブンブンこども医学部.
2014. 11. 3 (久留米)
12. 吉永陽一郎. 自分に出来る育児支援 愛着形成支援からタッチケア. 防府市要保護児
童対策地域協議会. 2014. 11. 30 (防府)

杉村徹

—学会・研究会—

杉村徹、永井崇雄、小林洋ほか. 妊婦へのインフルエンザワクチン接種による出産児への効果. 第117回日本小児科学会学術集会. 2014. 4. 12 (名古屋)

石井正浩

—原著—

1. Ogiyama Y, Ogata S, Nomoto K, Ebato T, Sato K, Kokubo K, Kobayashi H, Ishii M. Transcriptional regulation by infliximab therapy in Kawasaki disease patients with immunoglobulin resistance. *Pediatr Res* 2014;76:287-293
2. Fujitake Y, Ohtsuka Y, Ikuse T, Ohtani K, Aoyagi Y, Fuji T, Kudo T, Ishii M, Shimizu T. Analysis of inflammatory signals in Japanese children with Crohn's disease. *Pediatr Int* 2013;55:753-756
3. Nonoda Y, Iwasaki T, Ishii M. The efficacy of gabapentin in children of partial seizures and the blood levels. *Brain and Development* 2014;36:194-202
4. Kimura S, Cole Streiff, Meihua Zhu, Eriko Shimada, Saurabh Datta, Muhammad Ashraf, David J Sahn: Evaluation of a new 3-Dimensional Color Doppler Flow Method to Quantify Flow Across the Mitral Valve and in the Left Ventricular Outflow Tract: An Vitro Study. *J Ultrasound Med* 2014; 33:265-271
5. Akiyama K, Shimada T, Higuchi T, Ohtsu M, Nakauchi H, Kobayashi H, Fukuda T, Ida H, Eto Y, Brett E. Crawford, Jillian R. Brown, Ohashi T: Enzyme augmentation therapy enhances the therapeutic efficacy of bone marrow transplantation in mucopolysaccharidosis type II mice. *Molecular Genetics and Metabolism* 2014;111:139-146
6. Fujitake Y, Iwasaki T, Suyama N, Endo S, Arai M, Sasaki M, Yazawa M, Otsu S, Ishii M. Nutritional evaluation of children with severe motor and intellectual disability. *Kitasato Medical J* 2014;44:31-37
7. Kitsuda K, Yamaguchi R, Nagata E, Nakagawa Y, Ohzeki T, Ogata T, Ishii M, Nakanishi T. Hypertrophic fat cells in hypophagic intrauterine growth restricted rats without catch-up growth. *Kitasato Med J* 2014;44:38-46
8. Kenmochi M, Kitsunezaki M, Yokozeiki Y, Ohoka M, Yamaguchi A, Akiyama K, Ishii M. Changes in mortality rate of extremely preterm infants born at 22-25 weeks

- of gestation in Kitasato university hospital. Kitasato Med J 2014;44:69-73
9. Mineo E, Honda T, Ishii M. Right Ventricular failure with high echoic ventricular wall change after fetoscopic laser photocoagulation: a case report of a donor in twin-to-twin transfusion syndrome. Cargiology in the Young 2014;19:1-3
 10. Kitagawa A, Oka N, Kimura S, Ando H, Honda T, Takanashi M, Mineo E, Miyaji K, Ishii M. Clinical utility of the plasma brain natriuretic peptide level in monitoring tetralogy of Fallot patients over the long term after initial intracardiac repair: considerations for pulmonary valve replacement. Pediatr Cardiol (in press)
 11. 北川篤史、木村純人、高梨学、本田崇、安藤寿、石井正浩. 完全大血管転移症術後遠隔機の難治性はい高血圧症：アンブリセンタンが有効であった 1 例. 新薬と臨床 2014;63:172-177
 12. 紺野寿、緒方昌平、江波戸孝輔、扇原義人、野々田豊、安藤寿、狐崎雅子、中村信也、坂東由紀、石井正浩. 川崎病症状を呈した免疫調節異常症の 1 男児例 免疫調節異常症との鑑別の検討. 心臓, 46:666-668, 2014

—原著—

1. 緒方昌平、石井正浩. 川崎病治療の最前線 特集 先天性心疾患および小児心疾患医療の最前線. 循環器内科 2014;75:81-86
2. 高梨学、石井正浩. 先天性心疾患診断のポイント. 心エコー 2014;15:380-389
3. 北川篤史、木村純人、石井正浩. 症例問題 活気低下と体重増加不良の精査で心不全の診断に至った乳児の 1 例. 心エコー 2014;15:398-402
4. 扇原義人、石井正浩. 川崎病の臨床像と治療戦略. 呼吸と循環 2014;62:363-368
5. 緒方昌平、石井正浩. ガンマグロブリン療法 特集：川崎病. 日本臨床 1617-1622;72:2014
6. 石井正浩. 序文 特集：川崎病. 呼吸と循環 2015;63:7

—著書—

1. 石井正浩. 川崎病 今日の治療指針 56 版 監修 山口徹、北原光夫 総編集 福井次矢 高木誠 小室一成 医学書院 東京 2014 1266-1267
2. 北川篤史、石井正浩. 動脈管開存症 循環器疾患最新の治療 2014-2015 堀正二 永井良三編 2014 217-218
3. 石井正浩. 心疾患をもつ児童生徒の学校管理下での取り扱い 今日の治療指針 57 版 監修 山口徹、北原光夫 総編集 福井次矢 高木誠 小室一成 医学書院 東京 2015 1299-1302
4. 石井正浩、牟田広実、扇原義人、緒方昌平. 川崎病、冠動脈瘤 成人先天性心疾患 丹羽公一郎編 メディカルビュー社 東京 2015 189-195

—講演—

1. 石井正浩. 川崎病の効果的急性期治療とそのメカニズム. 第 17 回中国地区小児免疫薬物療法研究会 2014. 3. 1 (広島)
2. 石井正浩. 川崎病急性期の効果的治療法：臨床、疫学、基礎医学的検証. 第 18 回練馬

小児臨床症例研究会 2014. 4. 17 (東京)

3. 石井正浩. 川崎病最新の知見 細菌感染症との鑑別. 第 37 回むつごろう会 2015. 2. 10 (福岡)

<教育セッション>

1. 本田崇, 先天性心疾患を渦流で診る! ~ 定量指標のその先~ VFM の活かし方、私はこう使っている. 第 50 回日本小児循環器学会学術集会 2014. 7. 4 (岡山)

—学会—

1. Kitagawa A, Honda T, Kimura S, Miyazi K, Ishii M. Clinical utility of the level of plasma brain natriuretic peptide in Tetralogy of Fallot patients long-term after initial intracardiac repair: consideration for pulmonary valve replacement American College of Cardiology' s 63th Annual Scientific Session 2014 (Washington DC, USA)
2. Honda T, Itatani K, Kitagawa A, Miyazi K, Ishii M. Quantitative evaluation of ventricular workload in infants with ventricular septal defect: energy loss estimation using echocardiography vector flow mapping American College of Cardiology' s 63th Annual Scientific Session 2014 (Washington DC, USA)
3. 本田崇、板谷慶一、木村純人、宮地鑑、石井正浩. 肺体血流比を超音波で評価する シンポジウム循環器 4 成人先天性心疾患. 日本超音波医学会第 87 回学術集会 2014 (横浜)
4. Kimura S, Ando H, Kitagawa A, Honda T, Takanashi M, Mineo E, Ishii M. Quantitative Evaluation of cardiac function in monochorionic diamniotic twin patients: tissue Doppler study 25th the annual scientific session American Society of Echocardiography 2014 (Portland, USA)
5. 本田崇、板谷慶一、宮崎翔平、後藤真治、北川篤史、安藤寿、木村純人、岡徳彦、中村匡徳、宮地鑑、石井正浩. Fontan 患者における呼吸・循環のダイナミズムと遠隔期合併症のメカニズム シンポジウム Fontan 循環を掘り下げる: Fontan 合併症の病態生理に基づくより良い管理に関する検討. 第 50 回日本小児循環器学会学術集会 2014 (岡山)
6. 北川篤史、板谷慶一、峰尾恵梨、高梨学、本田崇、安藤寿、木村純人、岡徳彦、宮地鑑、石井正浩. Enaergy loss: ファロー四徴症術後遠隔期における定量的評価 シンポジウム: 右室を視る: 最新の画像診断 第 50 回日本小児循環器学会学術集会 2014 (岡山)
7. 北川篤史、岡徳彦、峰尾恵梨、高梨学、本田崇、安藤寿、木村純人、宮地鑑、石井正浩 心臓MRI を用いた右室流出路形成術後遠隔期の心機能評価 学術委員会シンポジウム 肺側心室としての右室機能不全の評価と治療戦略 第 17 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会 2015 (東京)
8. 高梨学、木村純人、峰尾恵梨、本田崇、北川篤史、安藤寿、富田英、石井正浩. Fontan 手術前に新素材の Penumbra coil 400 を用いて側副血行路にコイル塞栓術を施行した 1 例 会長要望演題 コイルの部屋 II 第 26 回 Pediatric interventional cardiology 学会学術集会 2015 (大阪)
9. Ebato T, Ogihara Y, Takanashi M, Honda T, Kimura S, Ogata S, Ishii M. Long term

prognosis after methylprednisolone pulse combination therapy for refractory Kawasaki disease 11th International Kawasaki Disease Symposium Honolulu 2015 (Honolulu, USA)

10. Kobayashi K, Ogata S, Takanashi M, Honda T, Ogihara Y, Minoura K, Ishii M. Evaluation of the immune dynamics of Kawasaki disease: for optimizing timing for vaccination 11th International Kawasaki Disease Symposium Honolulu 2015 (Honolulu, USA)
11. Nagamori Y, Ogihara Y, Ebato T, Otani K, Minoura K, Ogata S, Ishii M. A clinical study of older children with Kawasaki disease 11th International Kawasaki Disease Symposium Honolulu 2015 (Honolulu, USA)
12. Ogihara Y, Ogata S, Ebato T, Takanashi M, Honda T, Kimura S, Ishii M. Transcriptional regulation by infliximab therapy in Kawasaki disease patients with immunoglobulin resistance 11th International Kawasaki Disease Symposium Honolulu 2015 (Honolulu, USA)
13. Kitagawa A, Ishii M, Ogihara Y, Ogata S, Iemura F, Suda K. Corticosteroid pulse therapy for acute Kawasaki disease: consideration for the long-term prognosis of coronary artery lesion 11th International Kawasaki Disease Symposium Honolulu 2015 (Honolulu, USA)
14. Ishida T, Aoki Y, Kaneko T, Edamatsu H, Kawamura T, Iwanami N, Minoura K, Ogihara Y, Ishii M: Efficiency and Safety of Intravenous Anti-Influenza (Flu) Therapy as Peramivir for Children With Severe Flu Disease. Pediatric Academic Societies and Asian Society for Pediatric Research Joint Meeting 2014. 5. 4 (Vancouver, Canada)
15. 永盛裕佳子、野々田豊、金子忠弘、開田美保、安藤寿、木村純人、釘持学、岩崎俊之、石井正浩. 当院における在宅人工呼吸器管理患児のレスパイト入院の現状. 第 117 回日本小児科学会学術集会 2014. 4. 11 (名古屋)
16. 木村純人、安藤寿、北川篤史、本田崇、高梨学、峰尾恵梨、石井正浩. 新生児期一絨二羊膜性双胎の心機能評価—単胎児との比較検討—. 第 117 回日本小児科学会学術集会 2014. 4. 11 (名古屋)
17. 山口綾乃、釘持学、大岡真理、秋山和政、横関祐一郎、石井正浩. 在胎 20 週発症の PROM に反復羊水注入を行い後遺症なく退院した VLBW の一例. 第 117 回日本小児科学会学術集会 2014. 4. 11 (名古屋)
18. 扇原義人、江波戸孝輔、緒方昌平、石井正浩. 難治川崎病におけるインフリキシマブの作用メカニズム. 第 117 回日本小児科学会学術集会 2014. 4. 12 (名古屋)
19. 北川篤史、岡徳彦、高梨学、本田崇、安藤寿、木村純人、宮地鑑、石井正浩. 心臓 MRI をもちいたファロー四徴症術後遠隔期における心機能評価. 第 117 回日本小児科学会学術集会 2014. 4. 12 (名古屋)
20. 高梨学、本田崇、峰尾恵梨、北川篤史、安藤寿、木村純人、岡徳彦、宮地鑑、石井正浩. 先天性心疾患児の人口心肺手術後の免疫動態の解析: 至適予防接種時期の検討. 第 117 回日本小児科学会学術集会 2014. 4. 13 (名古屋)
21. 木村純人、安藤寿、北川篤史、本田崇、高梨学、峰尾恵梨、石井正浩. Tracking of mitral annular displacement を用いた先天性心疾患における左室収縮能の評価. 第 25 回日本心エコー図学会学術集会 2014. 4. 18-19

22. 本田崇、板谷慶一、木村純人、宮地鑑、石井正浩. 肺体血流比を超音波で評価する. 日本超音波医学会第 87 回学術集会 2014. 5. 10 (横浜)
23. 扇原義人、江波戸孝輔、緒方昌平、坂東由紀、石井正浩. 肺高血圧症の進展が懸念される混合性結合組織病の女児例. 第 4 回東日本小児リウマチ研究会, 2014. 5. 17 (東京)
24. 白井宏直、野々田豊、江波戸孝輔、安藤寿、石井正浩. 神経学的に予後良好であった急性壊死性脳症の 2 例. 第 28 回日本小児救急医学会 2014. 6. 7 (横浜) (日本小児救急医学会雑誌 13, 2 ; 251. 2014)
25. 本田崇、板谷慶一、宮崎翔平、高梨学、峰尾恵梨、北川篤史、安藤寿、木村純人、岡徳彦、宮地鑑、石井正浩. 心室中隔欠損における左室容量負荷と心室内血流のエネルギー損失. 第 50 回日本小児循環器学会学術集会 2014. 7. 3 (岡山)
26. 峰尾恵梨、安藤寿、高梨学、本田崇、北川篤史、木村純人、石井正浩. 小児における低体温中の循環動態の変化. 第 50 回日本小児循環器学会学術集会 2014. 7. 3 (岡山)
27. 高梨学、木村純人、峰尾恵梨、本田崇、北川篤史、安藤寿、石井正浩. 運動時の胸痛で発見された冠動脈血管内皮障害の 1 例. 第 50 回日本小児循環器学会学術集会 2014. 7. 3 (岡山)
28. 木村純人、安藤寿、北川篤史、本田崇、高梨学、峰尾恵梨、石井正浩. 小児期先天性心疾患における Tracking of mitral annular displacement 左室収縮能評価. 第 50 回日本小児循環器学会学術集会 2014. 7. 4 (岡山)
29. 山口綾乃、釧持学、横関祐一郎、狐崎雅子、石井正浩. 穿頭血腫除去術を施行した急性硬膜外血腫の経験. 第 50 回日本周産期・新生児医学会 2014. 7. 14 (千葉) (日本周産期・新生児医学会雑誌 50, 2 ; 829. 2014. 1)
30. 北川篤史、木村純人、宮地鑑、石井正浩. ファロー四徴症術後遠隔期における右心室のエネルギー損失から得られた新たな知見. 第 62 回日本心臓病学会学術集会 2014. 9. 27 (仙台)
31. 小坂橋俊美、猪又孝元、木村純人、石井正浩、宮地鑑、阿古潤哉. 内科で診る ACHD 時代をどう迎えるかー非 ACHD 専門施設の挑戦. 第 62 回日本心臓病学会学術集会 2014. 9. 27 (仙台)
32. 金子雅紀、江波戸孝輔、扇原義人、峰尾恵梨、安藤寿、緒方昌平、石井正浩. 敗血症 (Sepsis) との鑑別が困難であった全身性炎症反応症候群 (SIRS ; Systemic Inflammatory Response Syndrome) の診断基準を満たした川崎病の 1 例. 第 24 回日本小児リウマチ学会, 2014. 10. 4 (仙台)
33. 江波戸孝輔、緒方昌平、扇原義人、金子雅紀、坂東由紀、堀智行、三井純雪、石井正浩、天羽康之. 小児期発症の劇症型中毒性表皮壊死症 (Toxic Epidermal Necrolysis ; TEN) の 1 例. 第 24 回日本小児リウマチ学会, 2014. 10. 4 仙台
34. 緒方昌平、竹内恵美子、野元けい子、扇原義人、江波戸孝輔、紺野寿、坂東由紀、石井正浩. 多種自己抗体陽性をきたし免疫調節異常症が疑われる 1 乳児例. 第 24 回日本小児リウマチ学会, 2014. 10. 3 (仙台)
35. 扇原義人、江波戸孝輔、緒方昌平、石井正浩. 免疫グロブリン不応予測例に対するステロイドパルス併用療法の長期予後. 第 34 回日本川崎病学会・学術集会 2014. 11. 1 (東京)
36. 江波戸孝輔、扇原義人、緒方昌平、石井正浩. 川崎病年長児例の臨床像の検討. 第 34

回日本川崎病学会・学術集会 2014. 10. 31 (東京)

37. 佐藤加代子、緒方昌平、石田倫也、本田崇、松枝秀尚、青木康之、扇原義人、川村哲夫、箕浦克則、石井正浩. 川崎病の免疫動態；予防接種との関連. 第 34 回日本川崎病学会・学術集会 2014. 10. 31 (東京)
38. 峰尾恵梨、服部潤、安藤寿、石井正浩、浅利靖、栗原克由. 当院における小児院外心停止患者の検討 第 42 回日本救急医学会・総会学術集会 2014. 10 (福岡)
39. 鈮持学、山口綾乃、大岡麻理、秋山和政、横関祐一郎、孤崎雅子、石井正浩. 在胎 25 週以下の動脈管開存症に対する結紮術は慢性肺疾患を予防できるか. 第 59 回日本未熟児新生児学会学術集会 2014. 11. 10 (愛媛)
40. 山口綾乃、扇原義人、大岡麻理、秋山和政、横関祐一郎、孤崎雅子、鈮持学、坂東由紀、石井正浩. 当院で経験した膠原病合併妊娠 75 症例の母体および児の特徴. 第 59 回日本未熟児新生児学会学術集会 2014. 11. 10 (愛媛)
41. 孤崎雅子、山口綾乃、大岡麻理、秋山和政、横関祐一郎、鈮持学、石井正浩. 当院 NICU での在宅人工呼吸器の導入症例の検討. 第 59 回日本未熟児新生児学会学術集会 2014. 11. 10 (愛媛)
42. 横関祐一郎、山口綾乃、大岡麻理、秋山和政、孤崎雅子、鈮持学、石井正浩. 当院での脳低温療法、導入前後の比較. 第 59 回日本未熟児新生児学会学術集会 2014. 11. 11 (愛媛)
43. 山口綾乃、鈮持学、大岡麻理、秋山和政、横関祐一郎、孤崎雅子、石井正浩. 日齢 3 に発症し持続的血液透析 (CHD) を施行し救命し得た重症オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症 (OTC 欠損症) の 1 男児例. 第 59 回日本未熟児新生児学会学術集会 2014. 11. 10 (愛媛)
44. 岩崎俊之、土岐平、石井正浩. Lennox-Gastaut 症候群 6 例における rufinamide の有効性と血中濃度、併用薬の影響. 第 45 回日本てんかん学会, 2014 (東京) (てんかん研究 32 ; (2) 438, 2014.9)

長井健祐

—原著—

1. Clinical evaluation of highly sensitive silver amplification immunochromatography systems for rapid diagnosis of influenza. Mitamuta K, Shimizu H, Yamazaki M, Ichikawa M, Nagai K, Katada J, Wada A, Kawakami C, Sugaya N. J Virol Methods. 194 : 123-128. 2013
2. 石本和久、長井健祐. 嫌気性菌感染症. 小児科診療増刊号 小児の治療指針 2014 : 77 : 144-145.